

2019

履修要項

社会福祉学科・こども教育学科

短期大学部

Junior College

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

— 目 次 —

| | |
|---|----|
| 短期大学部のみなさんへ | 2 |
| はじめに | 3 |
| 学年暦 | 3 |
| 龍谷大学の「建学の精神」 | 3 |
| 龍谷大学短期大学部の教育理念・目的 | 3 |
| 社会福祉学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」 | 4 |
| こども教育学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」 | 9 |
| 短期大学部の教育目標 | 14 |
| 学生支援の方針 | 15 |
| ガイダンス | 16 |
| 大学からの連絡・通知の掲示 | 16 |
| 休講・補講・教室変更情報 | 17 |
| 第1部 履修の心得 | |
| I. 履修をはじめるにあたって | |
| 1. 長期的な履修計画を立てること | 19 |
| 2. 系統的に科目を履修すること | 19 |
| 3. 自主的に学修をすること | 19 |
| 4. 履修要項記載の提出物、その他にかかる締め切りについて | 19 |
| 5. オフィスアワー | 20 |
| 6. 短期大学部 授業欠席届 | 21 |
| II. シラバス | |
| 1. シラバスとは何か | 22 |
| 2. シラバスに記載されている情報 | 22 |
| 3. シラバスの利用方法 | 22 |
| III. 単位制度と単位の認定 | |
| 1. 単位制度 | 23 |
| 2. 単位とは | 23 |
| 3. 単位の認定 | 24 |
| 4. 履修登録制度 | 24 |
| 5. 授業科目の履修 | 25 |
| 6. 学期と授業時間 | 25 |
| 7. 卒業要件単位および学士号 | 25 |
| IV. 履修登録 | |
| 1. 履修登録手続スケジュール | 27 |
| 2. 履修登録制限単位数 | 27 |
| 3. 予備・事前登録 | 27 |
| 4. 履修登録要件 | 27 |
| 5. 履修辞退制度 | 28 |
| V. 成績評価 | |
| 1. 成績評価の方法 | 30 |
| 2. 成績評価の基準 | 30 |
| 3. GPA 制度 | 30 |
| 4. 成績疑義 | 31 |
| 5. 試験の方法 | 31 |
| 6. 筆答試験の時期 | 31 |
| 7. 受験資格 | 32 |
| 8. 受験の注意事項 | 32 |
| 9. 答案の無効 | 32 |
| 10. 筆答試験における不正行為 | 32 |
| 11. レポート試験における不正行為 | 33 |
| 12. 追試験 | 33 |

| | |
|--|-----|
| 13. 筆答試験時間 | 34 |
| 14. 再試験 | 34 |
| 第2部 教育課程 | |
| I. 教育課程の編成方法 | |
| 1. 授業科目の区分 | 35 |
| 2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目 | 35 |
| 3. 年次配当制 | 35 |
| 4. 設置科目について | 35 |
| 5. 設置科目・配当年次・カリキュラムマップ | 38 |
| 6. 社会福祉学科各種プログラム | 46 |
| 7. 科目選択の際の留意事項 | 53 |
| 8. 留学生の必修外国語科目 | 54 |
| II. 年次別履修要項 | 55 |
| III. 卒業論文について（社会福祉学科対象） | 61 |
| IV. 他学部開講授業科目の受講について | 66 |
| V. ギャップ・セメスター・プログラム | 70 |
| 第3部 諸課程 | |
| 1. 教職課程（こども教育学科対象） | 73 |
| 2. 保育士課程（こども教育学科対象） | 78 |
| 3. 社会福祉士養成課程（社会福祉学科対象） | 85 |
| 4. 社会福祉主事任用資格の指定科目 | 87 |
| 5. 本願寺派教師資格課程 | 91 |
| 6. （公財）日本障がい者スポーツ協会公認「初級スポーツ指導員」資格について（社会福祉学科対象） | 92 |
| 7. （公財）日本レクリエーション協会公認「レクリエーション・インストラクター」資格について（社会福祉学科対象） | 93 |
| 8. ビハークラ活動者養成課程（社会福祉学科対象） | 94 |
| 第4部 その他 | |
| I. 龍谷大学等への編入学について | 95 |
| II. 社会活動センターについて | 104 |
| III. 単位僅少者・休学者等への配慮 | 105 |
| 第5部 学修生活の手引き | |
| I. 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室 | |
| 1. 窓口事務 | 107 |
| 2. 保健管理センター | 107 |
| 3. 障がい学生支援室 | 107 |
| II. 授業等の休講措置に関する取扱基準 | 108 |
| III. 学籍の取り扱い | |
| 1. 学籍とは | 109 |
| 2. 学籍簿 | 109 |
| 3. 学生証 | 110 |
| 4. 学籍の喪失 | 111 |
| 5. 休学と復学 | 111 |
| 6. 再入学 | 112 |
| 7. 編入学・転入学 | 112 |
| 8. 9月卒業（3・4年生） | 112 |
| 第6部 付録 | |

龍谷大学短期大学部

2019年度履修要項

『履修要項』は一年間使用しますので、大切に保管し、活用してください。

また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦、各種日程、各学部窓口事務及び学部共通の各教育プログラム・諸課程については、履修要項WEBサイトを通じてお知らせします。

<履修要項WEBサイト>

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です
(お気に入り登録しておくと便利です)。

短期大学部のみなさんへ

4月になりました。桜の季節、春の息吹が感じられる季節です。

新入生のみなさんはこれからの2年間で、新2年生のみなさんは残る1年間で新たに始まります。

社会福祉学科とこども教育学科、それぞれの入学動機や目的は様々だと思いますが、「たかが2年、されど2年」と思って、ねばり強く自分の目的に近づいてほしいと願います。

あなたの前にグラスが1つ、ちょうど半分ほどの水が入っているとします。「あと半分しかない」と思うのか、「まだ半分もある」と思うのか。さて、あなたはどちらのタイプでしょうか（ちなみに私は後者です）。同じものをみても、感じ方や受け止め方は様々です。どちらが正解というわけではありませんが、マイナス思考でみるのか、プラス思考でみるのかで、ずいぶん変わるのではないのでしょうか。短期大学部の場合、修業年限は短いですから、「あと1年しかない」とみるのか、「まだ1年もある」とみるのか、これを機会に、自分に染みついた思考のパターンに気づき、状況によっては徐々に改善してほしいと思います。

ところで、短期大学部のみなさんのゴールは資格や免許状の取得、就職、編入学などが一般的です。ただ、短期大学部卒業は確かに1つのゴールではありますが、新たな旅のスタートです。なぜなら、在学中に学んだ様々な知識や技術は日に日に鮮度が落ちていきます。平たくいえば、お刺身をたくさん買ったつもりが、いつの間にか干物になっていたということが起こりうる、それが高度情報化社会に生きる私たちの宿命です。ですから、日々、自分を更新し続けるための基本的なノウハウを在学中に身につけたいところです。

この履修要項は、あなたのキャンパス・ライフのガイドラインとなる大切な1冊です。高校までとは違って、ホームルームもありませんし、担任の先生とも毎日会いません。頼れるのはあなた。そう、あなた自身です。友達に聞いたと安心せず、自分の目と耳、足を使って確かめるのです。例えば…

- ・掲示板やポータルサイトの情報チェックは自己責任で行う
- ・履修登録、奨学金、編入学など重要な説明会には必ず出席する
- ・疑問点は教務課や実習指導室、ゼミやクラスの担任に質問する、等々

要するに、まず自分のことは自分です。その上で、困った時は適確な人に尋ねることです。それでは、個々に実りあるキャンパス・ライフをエンジョイされますように。

2019年4月

短期大学部長 中 根 真

はじめに

この履修要項は、龍谷大学短期大学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修・修得しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、履修に関する詳細なガイダンス（履修説明会）が行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば短期大学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

2019年4月

学 年 暦

学年暦として、大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程を定めています。毎年度変更となりますので、履修要項 WEB サイトで必ず確認してください。

〈履修要項 WEB サイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です。

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学短期大学部の教育理念・目的

建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

【学科の「教育理念・目的」と3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針】

龍谷大学短期大学部の教育理念・目的を実現するために設置された学科は、広く社会に貢献できる教養教育と専門教育を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

社会福祉学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」 「教育課程編成・実施の方針」

< 2018 年度入学生対象 >

社会福祉学科の教育理念・目的

福祉全般にわたる基礎的教養を修得するとともに、専門及び隣接領域の知識や実践的能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

社会福祉学科の卒業認定・学位授与の方針 [短期大学士 (社会福祉学)]

短期大学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

< 社会福祉学科の学生に保証する基本的な資質 >

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 幅広い学問領域について基礎的な知識を持っている。
- 個人の尊厳性、権利の普遍性、社会的互恵的連帯性、貧困と差別を生む社会構造をはじめとした社会福祉についての基礎的な知識を持っている。

(思考・判断)

- 幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。
- 身近の生活問題を社会問題の脈絡で考察でき、自分の意見を発表することができる。

(興味・関心)

- 個人と社会の福祉の向上について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできる。

(態度)

- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、身近から他者の権利回復と連帯をつくっていく姿勢を持つことができる。
- 障がいの意味、老いの意味、死の意味、生命の繋がりについて洞察する姿勢を持つことができる。

(技能・表現)

- 自ら発見した課題を理論的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。
- 外国語による基本的なコミュニケーションができる。
- コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけている。
- 基本的な社会福祉の援助技術を身につけている。

< 社会福祉学科の学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法 >

- 1) 本学において、2年以上在学し所定の授業科目を履修し、その単位を修得した者に対し、学長は、教授会の議を経て卒業を認定する。
- 2) 学長は、卒業の認定を受けた者に対し、卒業証書及び本学学位規程に定める短期大学士の学位を授与する。

- 3) 卒業認定を受けるためには、所定の 68 単位以上の単位数を必要とする。
- 4) 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、担当教員によってその厳格な評価を行う。

社会福祉学科の教育課程編成・実施の方針

- 建学の精神の意味を深く理解し、高い倫理性を養うために、必修科目である「仏教の思想」（4 単位）を開講する。
- 幅広い学問領域について基礎的な知識を身につけるために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」として開講し、14 単位以上の修得を卒業要件とする。
- 社会福祉についての基礎的な知識を身につけるために、「社会福祉原論」（4 単位）、「社会福祉援助技術総論」（4 単位）、「卒業論文」（4 単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、社会福祉に関する演習および実習科目を必修科目として開講する。
- 幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができるようにするために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」として開講し、14 単位以上の修得を卒業要件とする。
- 身近の生活問題を社会問題の脈絡で考察でき、自分の意見を発表することができるようにするために、「社会福祉原論」（4 単位）、「社会福祉援助技術総論」（4 単位）、「卒業論文」（4 単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、社会福祉に関する演習および実習科目を必修科目として開講する。
- 個人と社会の福祉の向上について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできるようにするために、「社会福祉原論」（4 単位）、「社会福祉援助技術総論」（4 単位）、「卒業論文」（4 単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、社会福祉に関する演習および実習科目を必修科目として開講する。
- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、身近から他者の権利回復と連帯をつくっていく姿勢を持つとともに、障がいの意味、老いの意味、死の意味、生命の繋がりについて洞察する姿勢を持つことができるようにするために、「社会福祉原論」（4 単位）、「社会福祉援助技術総論」（4 単位）、「卒業論文」（4 単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、社会福祉に関する演習および実習科目を必修科目として開講する。
- 外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「英語Ⅰ」（2 単位）を必修科目として開講する。また、「英語Ⅱ」（2 単位）等の科目を選択科目として開講する。
- コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけるために、「情報処理基礎」（2 単位）を選択科目として複数クラス開講するとともに、いくつかの必修科目において、パソコンを使ったレポート提出を課すなど、コンピュータに触れる機会を設ける。
- 自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようにするとともに、基本的な社会福祉の援助技術を身につけるために、「社会福祉援助技術総論」（4 単位）を「学科専攻科目」の必修科目、演習や実習科目を必修科目として開講するとともに、社会福祉の援助技術に関連する科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講する。

< 2019 年度以降入学生対象 >

社会福祉学科の教育理念・目的

福祉全般にわたる基礎的教養を修得するとともに、専門及び隣接領域の知識や実践的能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

社会福祉学科の卒業認定・学位授与の方針 [短期大学士 (社会福祉学)]

短期大学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生の一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

< 社会福祉学科の学生に保証する基本的な資質・能力 >

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、その内容について説明できる。

○個人の尊厳性、権利の普遍性、社会的互恵的連帯性、貧困と差別を生む社会構造をはじめとした社会福祉についての基礎的な知識を持っている。

○自ら発見した課題を倫理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。

○外国語による基本的なコミュニケーションができる。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (「思考力・判断力・表現力」) の発展・向上

○幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。

○身の生活問題を社会問題の脈絡で考察でき、自分の意見を発表することができる。

○コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけている。

○基本的な社会福祉の援助技術を身につけている。

○社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度 (「主体性・多様性・協働性」) の発展・向上

○個人と社会の福祉の向上について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできる。

○市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、身近から他者の権利回復と連帯をつくっていく姿勢を持つことができる。

○障がいの意味、老いの意味、死の意味、生命の繋がりについて洞察する姿勢を持つことができる。

< 社会福祉学科の学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法 >

- 1) 本学において、2年以上在学し所定の授業科目を履修し、その単位を修得した者に対し、学長は、教授会の議を経て卒業を認定する。
- 2) 学長は、卒業の認定を受けた者に対し、卒業証書及び本学学位規程に定める短期大学士の学位を授与する。
- 3) 卒業認定を受けるためには、所定の 68 単位以上の単位数を必要とする。
- 4) 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、担当教員によってその厳格な評価を行う。

社会福祉学科の教育課程編成・実施の方針

短期大学部社会福祉学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」にもとづいて、以下のように教育課程を編成・展開し、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

<社会福祉学科の教育内容>

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、必修科目である「仏教の思想」（4単位）を開講する。

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○幅広い学問領域について基礎的な知識を身につけるために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」を14単位以上開講する。

○社会福祉についての基礎的な知識を身につけるとともに、自ら発見した課題を倫理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようになるために、「学科専攻科目」の必修科目として、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」、社会福祉に関する演習および実習科目を20単位、関連領域も含めた社会福祉の専門科目を選択科目として34単位以上開講する。

○外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「英語Ⅰ」（2単位）を必修科目として開講する。また、「英語Ⅱ」（2単位）教養英語ⅠⅡⅢⅣ（各1単位）等の科目を選択科目として開講する。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力）」の発展・向上

○幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができるようにするために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」として14単位以上開講する。

○身近の生活問題を社会問題の脈絡で考察でき、自分の意見を発表することができるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」、および社会福祉に関する演習および実習科目20単位を必修科目として開講する。

○基本的な社会福祉の援助技術を身につけるために、「社会福祉援助技術総論」、演習や実習科目を必修科目として20単位開講する。その他、社会福祉の援助技術に関連する科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講する。

○情報分析・発信のための基本的なスキルを身につけるために、選択科目として「情報処理基礎」（2単位）を開講する。また必修科目である演習、実習指導においてパソコンを用いてレポートを作成し、manaba courseから提出する等、コンピューターの基礎的なスキルを修得する。

○社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性）」の発展・向上

○個人と社会の福祉の向上について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」、社会福祉に関する演習および実習科目20単位を必修科目として開講する。

○市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、身边から他者の権利回復と連帯をつくっていく姿勢を持つとともに、障がいの意味、老いの意味、死の意味、生命の繋がりについて洞察する姿勢を持つことができるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」、社会福祉に関する演習および実習科目を20単位を必修科目として開講する。

<社会福祉学科の教育方法>

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

<社会福祉学科の学修成果の評価>

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によって行う。

こども教育学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」 「教育課程編成・実施の方針」

〈2017～2018年度入学生対象〉

こども教育学科の教育理念・目的

保育・幼児教育に関する専門的・実践的能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

こども教育学科の卒業認定・学位授与の方針 [短期大学士 (こども教育学)]

短期大学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

〈こども教育学科の学生に保証する基本的な資質〉

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 幅広い学問領域について基礎的な知識を持っている。
- 保育・幼児教育について基礎的な知識を持っている。

(思考・判断)

- 幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。
- 保育・幼児教育の問題や課題について多面的・多角的に考察でき、自分の意見を発表することができる。

(興味・関心)

- 少子社会における保育や幼児教育について、探求心を持ちそれを具体的な課題にできる。

(態度)

- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、子どもの最善の利益を追求していく姿勢を持つことができる。
- 発達の意味、子ども期固有の意義について洞察する姿勢を持つことができる。

(技能・表現)

- 自ら発見した課題を理論的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションでできる。
- 外国語による基本的なコミュニケーションができる。
- コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけている。
- 基本的な保育・幼児教育の技術を身につけている。

〈こども教育学科の学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

- 1) 本学において、2年以上在学し所定の授業科目を履修し、その単位を修得した者に対し、学長は、教授会の議を経て卒業を認定する。
- 2) 学長は、卒業の認定を受けた者に対し、卒業証書及び本学学位規程に定める短期大学士の学位を授与する。
- 3) 卒業時に必要な単位数は68単位とし、その履修方法は授業科目の区分により、学部共通科目の必修科目を8単位、選択科目を4単位以上、学科専攻科目の必修科目を19単位、選択科目を37単位以上とする。

こども教育学科の教育課程編成・実施の方針

- 建学の精神の意味を深く理解し、高い倫理性を養うために、必修科目である「仏教の思想」（４単位）を開講する。
- 幅広い学問領域について基礎的な知識を身につけるために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」として開講し、12単位以上の修得を卒業要件とする。
- 保育・幼児教育についての基礎的な知識を身につけるために、「保育原理Ⅰ」（２単位）、「教育原理」（２単位）、「発達心理学Ⅰ」（２単位）、「社会福祉概論」（２単位）、「児童家庭福祉」（２単位）、「社会的養護」（２単位）、「保育内容総論」（１単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（１単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（１単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。
- 幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができるようにするために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」として開講し、12単位以上の修得を卒業要件とする。
- 保育・幼児教育の問題や課題について多面的・多角的に考察でき、自分の意見を発表することができるようにするために、「保育原理Ⅰ」（２単位）、「教育原理」（２単位）、「発達心理学Ⅰ」（２単位）、「社会福祉概論」（２単位）、「児童家庭福祉」（２単位）、「社会的養護」（２単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。
- 少子社会における保育や幼児教育について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできるようにするために、「保育原理Ⅰ」（２単位）、「教育原理」（２単位）、「発達心理学Ⅰ」（２単位）、「社会福祉概論」（２単位）、「児童家庭福祉」（２単位）、「社会的養護」（２単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。
- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、子どもの最善の利益を追究していく姿勢を持つとともに、発達の意味、子ども期固有の意義について洞察する姿勢を持つことができるようにするために、「保育原理Ⅰ」（２単位）、「教育原理」（２単位）、「発達心理学Ⅰ」（２単位）、「社会福祉概論」（２単位）、「児童家庭福祉」（２単位）、「社会的養護」（２単位）、「保育内容総論」（１単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（１単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（１単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。
- 外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「英語Ⅰ」（２単位）を必修科目として開講する。また、「英語Ⅱ」（２単位）等の科目を選択科目として開講する。
- コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけるために、「情報処理基礎」（２単位）を選択科目として複数クラス開講するとともに、いくつかの必修科目において、パソコンを使ったレポート提出を課すなど、コンピュータに触れる機会を設ける。
- 自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようにするとともに、基本的な保育・幼児教育の技術を身につけるために、「保育内容総論」（１単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（１単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（１単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（１単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、保育・幼児教育の技術に関連する演習や実習科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講する。

〈2019年度以降入学生対象〉

こども教育学科の教育理念・目的

保育・幼児教育に関する専門的・実践的能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

こども教育学科の卒業認定・学位授与の方針 [短期大学士 (こども教育学)]

短期大学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生の一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

〈こども教育学科の学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○幅広い学問領域について基礎的な知識を持っている。

○保育・幼児教育について基礎的な知識を持っている。

○自ら発見した課題を理論的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。

○基本的な保育・幼児教育の技術を身につけている。

○外国語による基本的なコミュニケーションができる。

○コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけている。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上

○幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。

○保育・幼児教育の問題や課題について多面的・多角的に考察でき、自分の意見を発表することができる。

○自ら発見した課題を理論的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。

○基本的な保育・幼児教育の技術を身につけている。

○外国語による基本的なコミュニケーションができる。

コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけている。

○社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度 (「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

○少子社会における保育や幼児教育について、探求心を持ちそれを具体的な課題にできる。

○市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、子どもの最善の利益を追求していく姿勢を持つことができる。

○発達の意味、子ども期固有の意義について洞察する姿勢を持つことができる。

〈こども教育学科の学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

1) 本学において、2年以上在学し所定の授業科目を履修し、その単位を修得した者に対し、学長は、教授会の議を経て卒業を認定する。

2) 学長は、卒業の認定を受けた者に対し、卒業証書及び本学学位規程に定める短期大学士の学位を授与する。

3) 卒業時に必要な単位数は68単位とし、その履修方法は授業科目の区分により、学部共通科目の必修科目を8単位、選択科目を4単位以上、学科専攻科目の必修科目を19単位、選択科目を37単位以上とする。

こども教育学科の教育課程編成・実施の方針

短期大学部こども教育学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」にもとづいて、以下のように教育課程を編成・展開し、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

<こども教育学科の教育内容>

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、「仏教の思想」（4単位）を必修科目として開講する。

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○幅広い学問領域について基礎的な知識を身につけるために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目である「学部共通科目」を卒業要件単位として12単位以上開講する。

○保育・幼児教育についての基礎的な知識を身につけるために、「保育原理Ⅰ」（2単位）、「教育原理・社会学」（2単位）、「保育の心理学Ⅰ」（2単位）、「社会福祉」（2単位）、「子ども家庭福祉」（2単位）、「社会的養護Ⅰ」（2単位）、「保育内容総論」（1単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（1単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（1単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。

○自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようにするとともに、基本的な保育・幼児教育の技術を身につけるために、「保育内容総論」（1単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（1単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（1単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、保育・幼児教育の技術に関連する演習や実習科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講する。

○外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「英語Ⅰ」（2単位）を必修科目として開講する。また、「英語Ⅱ」（2単位）等の科目を選択科目として開講する。

○コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけるために、「情報処理基礎」（2単位）を選択科目として複数クラス開講するとともに、いくつかの必修科目において、パソコンを使ったレポート提出を課すなど、コンピュータに触れる機会を設ける。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができるようにするために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目である「学部共通科目」を卒業要件単位として12単位以上開講する。

○保育・幼児教育の問題や課題について多面的・多角的に考察でき、自分の意見を発表することができるようにするために、「保育原理Ⅰ」（2単位）、「教育原理・社会学」（2単位）、「保育の心理学Ⅰ」（2単位）、「社会福祉」（2単位）、「子ども家庭福祉」（2単位）、「社会的養護Ⅰ」（2単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。

○自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようにするとともに、基本的な保育・幼児教育の技術を身につけるために、「保育内容総論」（1単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（1単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（1単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、保育・幼児教育の技術に関連する演習や実習科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講する。

○外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「英語Ⅰ」（2単位）を必修科目として開講する。また、「英語Ⅱ」（2単位）等の科目を選択科目として開講する。

- コンピュータを操作し、情報分析・発信のために基本的なスキルを身につけるために、「情報処理基礎」（2単位）を選択科目として複数クラス開講するとともに、いくつかの必修科目において、パソコンを使ったレポート提出を課すなど、コンピュータに触れる機会を設ける。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 少子社会における保育や幼児教育について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできるようにするために、「保育原理Ⅰ」（2単位）、「教育原理・社会学」（2単位）、「保育の心理学Ⅰ」（2単位）、「社会福祉」（2単位）、「子ども家庭福祉」（2単位）、「社会的養護Ⅰ」（2単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。
- 市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、子どもの最善の利益を追究していく姿勢を持つとともに、発達の意味、子ども期固有の意義について洞察する姿勢を持つことができるようにするために、「保育原理Ⅰ」（2単位）、「教育原理・社会学」（2単位）、「保育の心理学Ⅰ」（2単位）、「社会福祉」（2単位）、「子ども家庭福祉」（2単位）、「社会的養護Ⅰ」（2単位）、「保育内容総論」（1単位）、「保育内容Ⅰ（健康）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（人間関係）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（環境）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（言葉）」（1単位）、「保育内容Ⅰ（表現）」（1単位）、「保育内容Ⅱ（表現）」（1単位）を「学科専攻科目」の必修科目として開講する。

<こども教育学科の教育方法>

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

<こども教育学科の学修成果の評価>

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

短期大学の教育目標

大学は自由の府です。自由とは、自分+経由、つまり自分から（from I）という意味であり、勝手気ままとは異なります。大学は、主体的に学び、考え、求め、関係を作り、行動する場です。手取り足取りの指導を受身で期待してはいけません。

苦難の過程なくして、知識を本当に自分のものにすることはできません。ただし、みなさんが精一杯努力をした上で支援を求める時、私たち教職員も懸命にそれに応えていきたいと思えます。

短期大学部は、2年間で一定の目標が達成されるよう設計されています。一方で、さらなるステップアップにむけて展開できる教育機能の充実にも努めています。短期大学部における学生時代を、主体的な出会いによって、自らの志を確かめるための掛けがえのない時にしてください。

< 2017年度以降入学生対象 >

1. 学部共通の教育目標（学生の達成目標）

短期大学部では、講義や演習だけでなく、社会福祉施設や保育所・幼稚園等における実習教育など、実社会での実践的・体験的な学びを重視している。そのような学びの中で、豊かな人間性、共生（ともいき）の精神、広い学識、進取の精神、福祉あるいは保育・幼児教育全般にわたる基礎的教養、専門的知識、実践的能力を身につけた人の育成を目指している。

2. 社会福祉学科の教育目標

- ① 個人の尊厳性、権利の普遍平等性、社会の互恵的連帯性について、科学的に理解し説明できる。
- ② 貧困と差別を生む社会構造について、科学的に理解し説明できる。
- ③ 基本的人権と社会権に基づく社会保障の意義を理解し説明できる。
- ④ 身近の生活問題を社会問題の脈絡で考察でき、自分の意見（ownview）を発表することができる。
- ⑤ 身近からすべての人の権利回復と連帯をつくっていく姿勢をもてる。
- ⑥ 障がいの意味、老いの意味、死の意味、生命の繋がりについて洞察する姿勢をもてる。
- ⑦ 以下の知的生産の技術を身につける。
 - ア 学術論文のルールを踏まえて論述することができる。
 - イ 公式の場で論理的・明瞭簡潔に意見発表することができる。
 - ウ 学友と小グループで弁証法的に討論することができる。

3. こども教育学科の教育目標

保育・幼児教育の専門職として、こども同士の「共生」を促し、励まし、見守り、支えることができる素養や基礎的な知識を身につける。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- ・本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人的成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

みなさんが学修の計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、以下「大学からの連絡・通知の掲示」のとおり行われるので十分注意してください。

大学からの連絡・通知の掲示

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行います。また、ポータルサイト上でも適宜、連絡や通知を行います。掲示やポータルサイトを見落したために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る、また、ポータルサイトを確認する習慣をつけましょう。

なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

〈各種掲示内容別の掲示板とその位置〉

| 掲 示 板 の 名 称 | 掲 示 の 内 容 | 設 置 場 所 |
|------------------|--|------------------------|
| 短期大学部掲示板 | 履修方法、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること（一部休講・補講情報） | 21号館1階 |
| 学 生 部 掲 示 板 | 奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること | 樹 林 |
| 教 学 部 掲 示 板 | 履修方法など教育課程に関すること | 6号館（紫英館）東側 |
| グローバル教育推進センター掲示板 | 留学生別科・JEP Kyoto・国際交流に関すること | 6号館（紫英館）東側 |
| 教職センター掲示板 | 教職課程に関すること | 6号館（紫英館）東側 |
| キャリアセンター掲示板 | 就職、資格講座などに関すること | 5号館（紫明館）1階 キャリアセンター |

（注）大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。

休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

〈アクセス方法〉

| 手 段 | アクセス方法 |
|-------|--|
| Web 版 | 本学ホームページ (https://www.ryukoku.ac.jp/) のクイックリンクにある「ポータルサイト」からアクセスしてください。 ポータルサイトの利用には全学統合認証の ID とパスワードが必要です。 |
| アプリ版 | 龍谷大学ポータルサイトアプリサポート Web (https://ru.portal.ac/support/) からアプリをダウンロードしてください。 初回利用時には全学統合認証の ID とパスワードが必要です。 |

〈公開期間〉

| 内 容 | | 公開期間 |
|------|------|----------------|
| 休 講 | | 30 日後までの情報を公開 |
| 補 講 | | 予定している全ての情報を公開 |
| 教室変更 | 臨時変更 | 30 日後までの情報を公開 |
| | 恒常変更 | 前後 30 日分の情報を公開 |

〈注意事項・補足〉

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- ・本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。
- ・休講、補講、教室変更情報の公開については、メールでの配信サービスも行っています。
Web 版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- ・休講、補講、教室変更情報については、本学のポータルサイト以外に一部掲示板でも公開しています。

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるにあたって

大学では高校までと異なり、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに、各自が履修制度について十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「共通科目」と学科専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんはこれら2つの「授業科目の区分」から、卒業するのに必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。1学年間に履修できる単位数には上限が設けられており、また、各学期（前期・後期）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお年度によって開講される科目が異なりますので、履修計画を立てるときには、同時に次年度における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

短期大学部における学業は、学科毎に定められた所定の要件を満たすことで完了しますが、その一環として一定の単位数を修得する必要があります（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組合せがあります）。明確な学修目的を持たずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修では、たとえ2年間在学したとしても、短期大学部の卒業生としてふさわしい能力と識見を持つことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて、各科目の性格やその科目の開講学年を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

短期大学部2年間において、学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組み、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめる前に、「演習」における自身のテーマの研究にとって土台となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、授業以外に自主的な学修が必要です。そのため、シラバス（講義計画や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したもの）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また授業を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とディスカッションをしたりすることで理解を深めることも大切です。

4. 履修要項記載の提出物、その他にかかる締め切りについて

卒業論文の提出をはじめ、それ以外の履修要項記載の提出物、その他にかかる締め切りは厳守する必要があります。たとえば、提出期限を過ぎて提出された卒業論文は原則として受理されず、当該年度の卒業は延期となります。学生本人に非がないと考えられる場合には、教授会の議を経て、締め切りを守った場合と同様の対応を行うこともありますが、大学における履修上の各種の締め切り期日に遅れた場合は、卒業延期や資格を得られないといった状況につながる可能性が高いので、この点十分に注意して手続き等を進める必要があります。締め切りに関連する連絡は、原則掲示板等を通しておこなわれます。高等学校までと異なり、各自が自己責任において履修に必要な締め切りの確認をおこなうことが大切です。

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

教育課程の編成方法

諸課程

その他

学修生活の手引き

学修生活の手引き

学修生活の手引き

付録

5. オフィスアワー

専任教員との面談は、紫英館（6号館）1階面談ホールの「出退表示板」にて、教員の「在」・「不在」を確認の上、受付に申し出てください。非常勤教員との面接は事前に教員とアポイントメントをとり、その指示に従ってください。

短期大学部では、みなさんに対する学修上の指導や助言のために、正課の授業のほかに、学修上の相談時間として「オフィス・アワー」を下記のとおり設置しています。その実施方法は各教員により異なります。この制度の実施方法・内容の細目については履修説明会で説明します。教員の担当体制上、多大な努力によって設けられた制度ですから、この貴重な時間をみなさんが積極的に活用されて、学修上大きな成果をあげられることを期待します。

オフィスアワー実施時間

| 教員名 | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | |
|-------|----|-------------|-------------|-------------|----|-------------|-------------|-------------|----|-------------|
| | AM | PM | AM | PM | AM | PM | AM | PM | AM | PM |
| 赤澤 正人 | | | | | | | | 13:15~14:15 | | |
| 生駒 幸子 | | | 10:45~12:15 | | | | | | | |
| 川崎 昭博 | | 15:00~16:30 | | | | | | | | |
| 北村眞佐美 | | | | | | | | 12:30~14:30 | | |
| 窪田 和美 | | | | | | | | 15:00~16:30 | | |
| 黒川雅代子 | | | | 13:00~14:00 | | | | | | |
| 齊藤真由美 | | | | | | | 11:30~12:30 | | | |
| 堺 恵 | | | | | | | | 16:30~17:30 | | |
| 阪口 春彦 | | | | | | | | | | 13:15~14:45 |
| 佐々木大悟 | | | | 13:15~14:15 | | | | | | |
| 須賀 英道 | | | | | | 12:00~15:30 | | | | |
| 田岡由美子 | | | | 13:00~14:00 | | | | | | |
| 田中 知子 | | | | | | | | | | 15:00~16:30 |
| 徳田 眞三 | | 13:00~14:00 | | | | | | | | |
| 土井 由美 | | | | | | | | 16:45~18:00 | | |
| 中根 真 | | | | 12:30~13:30 | | | | | | |
| 中村美智代 | | | | 15:00~16:30 | | | | | | |
| 野口 聡子 | | | 11:00~12:00 | | | | | | | |
| 橋本 雅子 | | | | 12:15~15:00 | | | | | | 12:15~15:00 |
| 羽溪 了 | | | 11:00~12:45 | | | | | | | |
| 姫田 慎也 | | | | | | | | 15:00~16:30 | | |
| 藤原 直仁 | | | | 13:15~14:45 | | | | | | |
| 星野 繁一 | | | 11:15~12:15 | | | | | | | |

6. 短期大学部 授業欠席届

短期大学部 授業欠席届

届出日 年 月 日

| | | | | |
|-------|----|-----|-----|--|
| 短期大学部 | 学科 | コース | 学 年 | |
| 学籍番号 | S | | 氏 名 | |

下記の理由で授業を欠席いたしました。

| | | | |
|-------|-----------|---------|--|
| 科 目 名 | | 担 当 者 名 | |
| 欠 席 日 | 年 月 日 () | 講 時 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

本届を提出しても成績に関係しない事もある旨を承知しております。
(診断書等別添書類 あり・なし)

短期大学部 授業欠席届

届出日 年 月 日

| | | | | |
|-------|----|-----|-----|--|
| 短期大学部 | 学科 | コース | 学 年 | |
| 学籍番号 | S | | 氏 名 | |

下記の理由で授業を欠席いたしました。

| | | | |
|-------|-----------|---------|--|
| 科 目 名 | | 担 当 者 名 | |
| 欠 席 日 | 年 月 日 () | 講 時 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

本届を提出しても成績に関係しない事もある旨を承知しております。
(診断書等別添書類 あり・なし)

| | |
|----------|-------------------------|
| | 履修をはじめるにあたって |
| | シラバス |
| 履修の心得 | 単位制度と単位の認定 |
| | 履修登録 |
| | 成績評価 |
| 教育課程 | 教育課程の編成方法 |
| | 諸課程 |
| | その他 |
| 学修生活の手引き | 窓口業務係様へ！ 障がい学生支援について |
| | 授業休止の取り扱い基準 |
| | 学籍の取り扱い |
| | 付録 |

Ⅱ シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。

本学で開講されている全ての科目は、あらかじめ Web 上に公開されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学習計画を立て、系統的な履修を行ってください。

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル (授業テーマ)
- ② 目的・ねらい
- ③ 講義概要
- ④ 到達目標
- ⑤ 講義方法
- ⑥ 授業時間外における指示
- ⑦ 系統的履修のための補足情報
- ⑧ 成績評価の方法
- ⑨ テキスト・参考文献
- ⑩ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑪ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑫ 講義計画 (各回の学修内容やキーワード)

※授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべて Web 上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

Ⅲ. 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

短期大学部での学修は単位制で行われています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

2. 単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

<表1>

| 単 位 数 | 学 修 時 間 | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------|----------------|-------------|-------|
| | 講義・演習科目の場合 | | | 外国語・実技・実習科目の場合 | | |
| | 自 主 | 授 業 | 合 計 | 自 主 | 授 業 | 合 計 |
| 1 | 15時間～ 30時間 | 15時間～ 30時間 | 45時間 | 0時間～15時間 | 30時間～ 45時間 | 45時間 |
| 2 | 30時間～ 60時間 | 30時間～ 60時間 | 90時間 | 0時間～30時間 | 60時間～ 90時間 | 90時間 |
| 3 | 45時間～ 90時間 | 45時間～ 90時間 | 135時間 | 0時間～45時間 | 90時間～135時間 | 135時間 |
| 4 | 60時間～120時間 | 60時間～120時間 | 180時間 | 0時間～60時間 | 120時間～180時間 | 180時間 |
| 5 | 75時間～135時間 | 75時間～135時間 | 225時間 | 0時間～75時間 | 150時間～225時間 | 225時間 |

<単位の計算方法>

短期大学部学則第7条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ①本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
 - ②本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
 - ③本学では、半期科目の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、通年科目の場合は1年間（通年）で30週としています。
- ※一部、授業期間を8週・24週としている科目もあります。

(1) 講義・演習科目の場合

| 科 目 | 必要な学修時間 |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 仏教の思想（4単位） 1単位当たりの授業時間数（※）：15時間 | 180時間 = （授業15時間 × 4単位） + （自主120時間） |
| 社会的養護内容（1単位） 1単位当たりの授業時間数：16時間 | 45時間 = （授業16時間 × 1単位） + （自主29時間） |

※1単位当たりの授業時間数：短期大学部学則第11条参照

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

教育課程の編成方法

諸課程

その他

学修生活の手引き

窓口事務係様へ！
障がい学生支援について

授業休止の取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

(2) その他の科目の場合

上記の内容とは別に、短期大学部学則第7条に基づき、学修時間を決定しています。短期大学部学則および〈表1〉を確認して下さい。

3. 単位の認定

1つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- ① 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- ② その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- ③ その科目の試験を受けその成績評価で合格（60点以上）すること。（レポート、論文等をもって試験とする場合があり、必ずしも教室における筆記試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認してください。）

4. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効におこなわれるようすべて自己の責任において取り組まなければなりません。

(1) 履修の登録要件

履修登録が有効になされるためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。この要件に反した場合は、その授業科目の登録は無効となり、場合によっては、その年次の登録はすべて無効となることもあります。

- ① 登録は、すべて自己の責任においてなされなければなりません。
- ② 規程に従って登録した科目でなければ受講、受験、単位の修得はできません。
- ③ 登録はそれぞれの基準によって授業科目を選択し、Web履修登録画面から、所定の期日までに登録しなければなりません。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）はできません。
- ⑤ 二重登録はできません。
 - ア. すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること。
 - イ. 同一年次に同一授業科目を2科目以上登録すること。
(前期・後期にそれぞれ開講されている学期完結型の同一授業科目の両方を年度初めに登録することを含みます。)

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 登録に先立って履修説明会をおこなうので必ず出席してください。
- ② **時間割・その他事項の変更は全て「短期大学部掲示板」に掲示されるので、確認してください。**
- ③ 受講者数を調整するため、通常の履修登録に先立って事前登録がおこなわれる科目があります。事前登録手続きの必要な科目は、この手続きなしには受講できません。
- ④ 登録締切日時以後の変更、追加等は認められないので、とくに半期（前期または後期）だけの授業科目に登録もれがないように注意してください。
- ⑤ 登録の不備や間違いが発見されたときは無効となりますが、この処置に異議を申し立てることはできません。
- ⑥ 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく短期大学部教務課窓口にご相談してください。
- ⑦ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。登録期間は次のとおりです。

登録期間…4月7日（日）～4月12日（金）7：00～26：00（翌日の午前2時）
 ※7日のみ12：00から開始。12日のみ16：00にて終了。
 〈予定〉…9月13日（金）～9月19日（水）7：00～26：00（翌日の午前2時）
 ※13日のみ9：00から開始。19日のみ16：00にて終了。

(3) 受講登録確認表の出力による登録確認

登録した授業科目は、登録完了後、各自でその場で「受講登録確認表」を出力して確認することができますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、短期大学部教務課窓口申し出てください。

5. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するという事は、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容は、授業形態に応じて、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。

このうち、授業時間内における学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられません（実習科目については5分の1を超えて欠席した場合は、単位認定を受けられません）。

特に資格取得に関する科目の欠席については、やむをえないものも含め、対応について十分注意してください。

また、授業時間外における自主的な学修（予・復習）は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行う学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっていると云えます。

6. 学期と授業時間

1カ年を前期【4月1日から9月30日】と後期【10月1日から翌年3月31日まで】の2学期に分け、それぞれ15週、通年30週の授業が用意されています（各学期の授業期間は学年暦を確認して下さい）。※一部、8週・24週の授業があります。

授業時間は1回90分で、それぞれの授業時間を「講時」といいます（注：各講時を単位計算上は2授業時間として計算します）。

年間を通じて各講時の始業、終業の時刻は次のとおりです。

| 講時 | 1 講時 | 2 講時 | 3 講時 | 4 講時 | 5 講時 | 6 講時 | 7 講時 | |
|----|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 始業 | 9：00 | 10：45 | 13：15 | 15：00 | 16：45 | 18：25 | 20：05 | |
| 終業 | 10：30 | 12：15 | 14：45 | 16：30 | 18：15 | 19：55 | 21：35 | |
| 備考 | 短期大学部授業時間帯 | | | | | | | |

7. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「短期大学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、68単位以上を修得しなければなりません。

履修をはじめ
 シラバス
 履修の心得
 単位制度と
 履修登録
 成績評価
 教育課程
 教育課程の
 編成方法
 諸課程
 その他
 学修生活の手引き
 学籍の取り扱い
 付録

短期大学の教育課程は2年間にわたって編成されており、卒業に必要な単位数は、「授業科目の区分」ごとに、また「必修科目」、「選択科目」の区別に従って定められています。

従って卒業の要件は次のとおりになります。

○短期大学部に2年以上在学すること。

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、2年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が2年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

○所定の単位を修得すること。

この修得すべき所定の単位は（第1表）のように定められています。この要件を欠いて履修した場合は、かりに68単位以上の単位を修得しても卒業の認定は受けることができないので、慎重に履修計画を立てなければなりません。

社会福祉学科（2018年度以降入学生適用）

（第1表-①）

| | | | |
|------|----------------|-------|-------|
| 共通科目 | 必修科目 8 単位 | 14 単位 | 68 単位 |
| | 選択科目 6 単位 以上 | | |
| 専攻科目 | 必修科目 20 単位 | 54 単位 | |
| | 選択科目 34 単位 以上※ | | |

※選択必修科目 11 単位を含む

こども教育学科（2017年度以降入学生適用）

（第1表-②）

| | | | |
|--------|---------------|-------|-------|
| 共通科目 | 必修科目 8 単位 | 12 単位 | 68 単位 |
| | 選択科目 4 単位 以上 | | |
| 学科専攻科目 | 必修科目 19 単位 | 56 単位 | |
| | 選択科目 37 単位 以上 | | |

Ⅳ. 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項 WEB サイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。

2. 履修登録制限単位数

短期大学部での学修においては、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、短期大学部では、1年間を通して以下のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

| 年次 | 1年次生 | 2年次生以上 |
|---------|----------|----------|
| 履修制限単位数 | 通年 80 単位 | 通年 80 単位 |

※ただしやむを得ない事情がある場合のみ、教授会の判断により、履修登録制限を超えての履修登録を許可する場合があります。履修登録期間中に必ず短期大学部教務課に申し出てください。

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

| | | |
|--------------|-----------------------|--|
| 履修登録 (広義) | 1) 予備登録 …………… | 受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。一部の科目や選択外国語科目においてこの手続きが必要です。 |
| | 2) 事前登録 …………… | 受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより審査します。必修外国語の再履修や一部の科目においてこの手続きが必要です。 |
| | 3) 履修登録（本登録）… (狭義) | 履修科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が確定します。 |

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件とは

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、配当されている年次に登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外に下級年次配当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講期（配当セメスター）が変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結型授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください）。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同一年次に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。

履修をはじめるにあたって
シラバス
履修の心得
単位制度と単位の認定
履修登録
成績評価
教育課程
教育課程の編成方法
諸課程
その他
窓口事務係様へ！
障がい学生支援について
学修生活の手引き
授業休止の取り扱い基準
学籍の取り扱い
付録

- ⑥ 各学期（セメスター）および各年次について、定められている履修制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示します。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、短期大学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web 履修登録画面から、定められた期間に必ず登録してください。
履修登録スケジュールは毎年度変更されますので、履修 WEB サイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。
- ④ 履修登録は確実に行うため、パソコンで行ってください。
- ⑤ 受講登録確認表の出力による登録確認
登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに短期大学部教務課窓口申し出てください。また、出力した受講登録確認表は、必ず保管してください。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、受講登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正」や「取消」するものであり、以前の履修は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および『シラバス』を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点や GPA の計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の学業成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

| 科目区分 | 備考 |
|--|---|
| 必修科目 | 選択必修科目については、学部（学科・専攻・コース）によって取扱が異なる場合があります。 |
| 事前登録が必要となる科目 | 教室の規模や教室の設備、授業の企画規模にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。 |
| 「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目 | 本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。 |
| 教育実習、介護等体験に関する科目 教育実習指導Ⅰ・ⅡA、ⅡB | 実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。 |
| サマーセッション・集中講義科目 | 本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。 |
| その他各学部が設定する科目 | 各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目別表「学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり。 |

◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧

| 学部等 | 履修辞退の対象外とする科目 |
|-------|---|
| 短期大学部 | 他学部受講科目（本願寺派教師資格科目を含む）、矯正・保護課程提供科目 実技・実習科目（保育士、社会福祉士受験基礎資格に関する実習科目も含む） |

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中に、ポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に短期大学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

履修辞退申し出による授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

| |
|--------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 窓口業務センター！ 障がい学生支援について |
| 学修生活の手引き |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

V. 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するためにおこなわれます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 不合格科目の再履修によって合格点を得た場合は、その合格点をもって評点とします。ただし、不合格点も学業成績表に記録されます。
- ④ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は、0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ⑤ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

| 段階評価と評点 | | | |
|-------------|------------|------------|------------|
| S (90～100点) | A (80～89点) | B (70～79点) | C (60～69点) |

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑥ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、なお、不合格科目は表示しません。
- ⑦ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月中旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。期日と場所は、別途掲示等でお知らせします。

3. GPA 制度

GPA とは、Grade Point Average(成績加重平均値)のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

GPA は、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

短期大学部では参考までに GPA 評点を学業成績表に記載しています。

[算出方法]

| 評価点 | グレードポイント |
|---------|----------|
| 100～90点 | 4 |
| 89～80点 | 3 |
| 79～70点 | 2 |
| 69～60点 | 1 |
| 59点以下 | 0 |

$$GPA = \frac{\sum (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「英語Ⅰ」（2単位）90点、「保育内容総論」（1単位）80点、「保育原理Ⅰ」（2単位）40点、「社会学」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$GPA = \frac{(2 \times 4) + (1 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2+1+2+4} = \frac{19}{9} = 2.11$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、申出期間内に短期大学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、別途掲示等で確認してください。

5. 試験の方法

試験の方法は次の3種類があります。これらのうちのひとつまたは2つ以上を合わせて実施されます。

(1) 筆答試験

定期試験を実施する科目の試験の実施方法は、原則次のような取り扱いとなります。

- ・半期開講科目のうち前期配当科目の場合は、前期の定期試験期間に実施。
- ・半期開講科目のうち後期配当科目の場合は、後期の定期試験期間に実施。
- ・通年開講科目の場合は、後期の定期試験期間に実施（但し、前期終了時にも試験を実施する科目については、前期、後期の両方の定期試験期間に実施）。

(2) レポート試験

(3) 実技試験

※ 授業科目によっては、その性格上、授業時間中の学修態度・中間試験・小テスト等を成績評価に加味したり、あるいは、試験そのものに代える場合があります。

6. 筆答試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の3種類となります。

(1) 定期試験

定期試験期間（半期の授業科目であれば学期末、通年の授業科目であれば学年末）に実施する試験をいいます。

| |
|-------------------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 単位制度と 単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 編成方法 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き 窓口業務は随時！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

(2) 追試験

定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する試験をいいます（詳細は追試験の項を参照のこと）。

(3) 再試験

詳細は再試験の項を参照のこと。

7. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することはできません（追試験、再試験については、追試験、再試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること（原則として3分の2以上の出席があること）。
- (4) 授業担当者の定める諸条件を満たしていること。

8. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始 20 分以上の遅刻および 30 分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、短期大学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

9. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度が不良な場合

10. 筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録している全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
 - ② 監督者の指示に従わない場合
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行かせた場合
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合

- ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
- ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
- ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
- ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
- ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

11. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

12. 追試験

(1) 追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、所属学部が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目の試験受験
- ⑨ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ 短期大学部における実習等への参加により本学学部の定期試験を受験できなかった場合
- ⑫ その他所属学部が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に短期大学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取り扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取り扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に短期大学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 実技・実習科目、(例えば、「スポーツ文化I B」)、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。ただし、こども教育学科専攻科目の「基礎技能I（音楽）」および「基礎技能II（音楽）」・「基礎技能III（音楽）」については、追試験を実施します。

詳細については、定期試験前に短期大学部掲示板にて確認してください。

| |
|----------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口業務確保センター！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

13. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルサイトにより発表します。試験時間は、次のとおりです。

| 講時 | 開始時刻 | 終了時刻 |
|---------|---------|---------|
| 1 講 時 | 9 : 00 | 10 : 00 |
| 2-A 講 時 | 10 : 30 | 11 : 30 |
| 2-B 講 時 | 12 : 00 | 13 : 00 |
| 3-A 講 時 | 13 : 30 | 14 : 30 |
| 3-B 講 時 | 15 : 00 | 16 : 00 |
| 4 講 時 | 16 : 30 | 17 : 30 |
| 5 講 時 | 18 : 00 | 19 : 00 |

(注1)「2-A 講時」、「3-B 講時」は、他学部受講科目のみの試験時間となります。

(注2)科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

14. 再試験

(1) 再試験の受験資格

① 2年次生以降・必修科目、選択科目

成績開示時において当該開講期に50点以上59点以下で不合格と成績開示された科目のうち3科目(12単位)以内が合格となれば卒業(見込)要件を満たすことができる場合、当該の不合格科目の内3科目(12単位)以内に限り再試験を願い出ることができます。

② 1年次生・必修科目

成績開示時において、当該開講期に履修した必修科目が50点以上59点以下で不合格と成績開示された場合、当該の不合格科目の内2科目以内に限り再試験を願い出ることができます。

※ 上記に該当する場合であっても、短期大学部学則第8条に則り、授業への出席回数が足りない学生は受験することができません。

(2) 再試験対象科目

定期試験として「教室筆記試験」あるいは「レポート試験」を実施する科目のみ再試験対象科目とします。但し、定期試験の実施方法や有無に拘わらず、こども教育学科専攻科目の内1年次配当の必修科目は全て再試験対象科目とします。他学部開講授業科目・単位互換制度を用いて履修した科目は再試験の対象になりません。

(3) 該当者には短期大学部より通知します。

(4) 再試験受験希望者は、再試験願を指定された期日以内に短期大学部教務課に提出しなければなりません。

(5) 再試験の評点における最高点は60点です。

(6) 再試験料は、1科目3,000円です。

第2部 教育課程

I. 教育課程の編成方法（2017年度以降入学生対象）

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、2年間にわたっており、その内容は**共通科目**と**学科専攻科目**から編成されています。これらの分類のことを「**授業科目の区分**」といいます。

外国語科目は、第一外国語（英語）および第二外国語（ドイツ語、フランス語）の2種類に区分されています。

保健体育科目は、理論に関する科目と実技に関する科目とに区分されています。

本学で開設されている授業科目は、上記区分のいずれかに該当しますが、例外的に、いずれの区分にも属さない科目もあります。これを「**随意科目**」といいます。随意科目は、主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。

2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに指定されています。

「**必修科目**」とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、卒業の認定を受けることができません。

「**選択必修科目**」とは、指定された科目群の中から決められた単位数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。なお、これらの科目は、一部の科目群を除いて、指定された単位数を超えて修得しても、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることはできません。

「**選択科目**」とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。

ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

「**随意科目**」とは、主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。随意科目は、それゆえ、共通科目あるいは学科専攻科目の区分の外に置かれます。

3. 年次配当制

すべての授業科目は、「年次配当制」となっています。この年次配当制というのは、より学修成果を高めるために、授業科目の性格、他の授業科目との関連等により、個々の授業科目について、その履修年次を指定する制度をいいます。従って授業科目は、配当された年次において履修されなければなりません。

ただし、2年次生が1年次配当科目を履修することはできます。

4. 設置科目について

本学の教育課程は、共通科目と学科専攻科目とが有機的に組み合わせられて、年次別に系統的に配当されています。学科専攻科目では、入門科目・基本科目の履修を基礎に自らの関心や将来の進路に従い専攻するテーマを選び、専門ゼミナールや専門科目を受講することによって特定の分野に接近していくこととなります。

これに対し、共通科目は、数千年にわたる人類の広く深い営みの中で生まれてきたさまざまな学問分野にふれることによって、みなさんが幅広い見識と豊かな教養を身につけるために開講されています。学科専攻科目との関連でいえば、共通科目で身につける広く総合的な知識が専門的学問研究の進展を助け、豊かなものにさせることでしょう。従って、自分が専攻するテーマに直接関係がないからといって、共通科目の受講をおろそかにすることは誤りといわなければなりません。

| |
|--------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

知的活動は、専門化への傾向とともに、他分野との関連を求めようとする内的衝動をもっています。共通科目のカリキュラムは、この必然性を大学教育の中に系統的に配置したものです。

(1) 共通科目

1) 仏教の思想

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。

この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通じて自己をふり返り、幅広い物の見方と心の豊かさを育てることを目的としています。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想」は、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあり、クラス指定で一年次に開講されています。この「仏教の思想」を平易に理解するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

2) 外国語科目

外国語としては、共通科目において、第一外国語（英語Ⅰ、英語Ⅱ）、社会福祉学科専攻科目において、第二外国語（ドイツ語、フランス語）を開講しています。

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の実用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を規定している言語に対する認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがそのより深い目的です。また母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に理論的思考能力の錬磨のため古来大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっていることも指摘しておかなければなりません。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしているわけです。

みなさんがこの目標に近づくためには、大学の外国語教育に対する正しい理解をもつとともに、訓練にたえる忍耐力・持続力が不可欠なことを特に強調しておきます。教室外での自発的研修ももちろん必要となります。

3) 保健体育科目

大学の保健体育教育の目的は体育文化の全体像を把握すること、そして具体的にはスポーツ技術を獲得し、健康の維持・増進の法則を理解して、これらを自主的に実践していく能力を身につけることをいいます。

保健体育科目における「スポーツ」の意義は、「健康」という目的からみての手段というところにあるばかりでなく、それ独自の目的にあります。スポーツには何より楽しさがなくてはなりません。この楽しさとは、長い歴史の中で発展してきたスポーツ文化をわがものとしながら、同時に自然の一部としての身体が持つ法則を理解していくところにあります。スポーツ技術を獲得し深めるためには

個人の身体的能力を伸ばすだけでなく、科学的なスポーツ知識もまた必要です。これらを通して、すべての人がスポーツを普遍的なものとして享受できるようになります。

健康をつくり出す要因としては一人一人の努力のほかに、一定の社会的諸条件がまた必要です。従って健康や体力を増進させていくための法則的事柄を認識するとともに、健康と社会的条件との関係を正しく分析し、自ら健康な生活を創造していくことが重要となります。

みなさんがスポーツの全体像を把握することを通して、健全な知的活動と健全な身体活動の相互の関係を正しく、かつ深く認識してくれることを期待します。

(2) 学科専攻科目

1) 社会福祉学科専攻科目

学科専攻科目は必修科目と選択科目からなっています。必修科目は、社会福祉の諸領域に共通する基本的な原理・原論を学び、また実践的性格の強い社会福祉の活動や制度の基礎を理論的・体験的に学ぶことをめざす科目群によって構成されています。

つづいて選択科目には、今日の広範におよぶ社会福祉についての学習に必要とされる多様な科目が設置されています。これらの中から、学生各自の関心や将来の進路に沿ってしかもバランスよく、いわば各論的に社会福祉の諸領域を学んでいくものです。とくに選択科目の中には、社会福祉士・初級スポーツ指導員・レクリエーション・インストラクターの諸資格取得に関する科目等が多く含まれているので、計画的に科目を選択し履修するように心掛けなければなりません。

2) こども教育学科専攻科目

こども教育学科の教育目標は、保育や幼児教育の現場においてこども同士の「共生」を促し、励まし、見守り、支える専門職を養成することにあります。こうした目標を達成するため教育課程の中核に、①保育・幼児教育の本質理解および対象理解に関わる科目、②現代社会福祉、なかでも児童福祉の法制度とサービス内容の理解に関わる科目、③保育・幼児教育の方法理解に関わる科目を必修科目として配置します。

選択科目には、第1に、保育・幼児教育の専門職が対象とするこどもとその家族について、心理学や医学、栄養学、家政学、社会福祉学の知見を踏まえて多面・多角的に理解を深めるための科目を配置しています。第2に、属性別の保育内容や教育方法に関する科目、第3に、保育や幼児教育の実践における基礎技能としての図画工作、体育、音楽について理論的な知識と実践的な技術の習得をめざす科目、また絵本やおもちゃ等を含め、広く児童文化の現状や課題の理解を深める科目、専門職として養成される基本的な文章作法の習得をめざす科目を配置しています。第4に、保育士、または幼稚園教諭二種免許状取得に必要な学外実習科目、第5に、保育・幼児教育の専門職志望者向けに開講される演習科目を配置します。

| |
|---|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| <small>窓口事務係様へ！ 障がい学生支援について</small> 授業休止の取り扱い基準 学籍の取り扱い |
| 付録 |

5. 設置科目・配当年次・カリキュラムマップ

設置科目

本学における授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

(1) 共通科目

〈2017年度以降入学生適用〉

◎：必修科目 ○：選択科目 (第2表)

| | 授 業 科 目 | 期 間 | 配当年次(単位数) | | 資格科目 | | | | | | | 卒業単位 | 備 考 |
|---------|---------------|-----|-----------|-----|---------|-------|---------|--------|-----------|----------|---------------------------------|------|------------|
| | | | 1年次 | 2年次 | 社会福祉士資格 | 保育士資格 | 教職(幼稚園) | 本願寺派教師 | 初級スポーツ指導員 | レクリエーション | ビハラー活動者 | | |
| 必修科目 | 仏教の思想 | 通年 | 4 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 8 | }いずれか2単位必修 |
| | 英語 I | 通年 | 2 | | | ◎ | ◎ | | | | | | |
| | スポーツ文化 I A | 半年 | 2 | | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | |
| | スポーツ文化 I B | 通年 | 2 | | | ◎ | ◎ | | ② | ③ | | | |
| 選択科目 | 哲学 | 通年 | 4 | | | | | | | | 社会福祉学科 6 こども教育学科 4 | | |
| | 心理学 | 半年 | 2 | | ① | | | | | | | | |
| | 法学(日本国憲法を含む。) | 半年 | 2 | | ① | | | | | | | | |
| | 社会学 | 通年 | 4 | | ① | | | | | | | | |
| | 英語 II | 通年 | | 2 | | | | | | | | | |
| | 宗教教育 | 半年 | 2 | | | ○ | | | | | | | |
| | 情報処理基礎 | 半年 | 2 | | | ◎ | ◎ | | | | | | |
| | ゼンダール論 | 通年 | 4 | | | | | | | | | | |
| | 言語表現論 | 半年 | 2 | | | | | | | | | | |
| | キャリアデザイン論 | 半年 | 2 | | | | | | | | | | |
| | 共生(ともいき)論 | 半年 | 2 | | 2 | | | | | | | | |
| | バークレー語学 | 半年 | 12 | | | | | | | | | | |
| バークレー講義 | 半年 | 2 | | | | | | | | | | | |

①：社会福祉学科専攻科目「医学概論」を含めて、いずれか1科目、あるいは社会福祉学科専攻科目「発達心理学」と「臨床心理学」の2科目必修

②：「スポーツ文化 I B」(レクリエーション・スポーツ)必修

③：「スポーツ文化 I B」(レクリエーション・スポーツ)選択

(2) 社会福祉学科専攻科目

〈2018年度以降入学生適用〉

◎：必修科目 ○：選択科目 (第3表)

| | 授業科目 | 期間 | 配当年次(単位数) | | 資格科目 | | | | | 卒業単位 | 備考 | |
|--------------|-----------------|----|-----------|-----|---------|--------|-----------|----------|------------|------|------------|----------|
| | | | 1年次 | 2年次 | 社会福祉士資格 | 本願寺派教師 | 初級スポーツ指導員 | レクリエーション | ビハークラ活動者 | | | |
| 必修科目 | 社会福祉原論 | 通年 | 4 | | ◎ | | | | | 20 | | |
| | 社会福祉援助技術総論 | 通年 | 4 | | ◎ | | | | | | | |
| | 卒業論文 | 通年 | | 4 | | | | | | | | |
| | 基礎演習 | 半年 | 2 | | | | | | | | | |
| | ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ | 通年 | 4 | | ◎ | | | | | | | |
| 選択必修科目 | 社会福祉実習指導Ⅰ | 通年 | | 2 | | | | | | 11 | | |
| | 社会福祉演習Ⅰ | 通年 | 4 | | ◎ | | | | | | } いずれか選択必修 | |
| | ソーシャルワーク演習Ⅰ | 通年 | 4 | | ◎ | | | | | | | |
| | 社会福祉演習Ⅱ | 半年 | | 2 | | | | | | | } いずれか選択必修 | |
| | ソーシャルワーク演習Ⅱ | 半年 | | 2 | ◎ | | | | | | | |
| | 社会福祉実習Ⅰ | 集中 | | 1 | | | | ⑤ | | | } いずれか選択必修 | |
| | 社会福祉実習Ⅱ | 集中 | | 2 | | | | ⑤ | | | | |
| | ソーシャルワーク現場実習Ⅰ | 集中 | | 2 | ◎ | | | ⑤ | | | | |
| 社会福祉援助技術Ⅰ | 通年 | | 4 | ◎ | | | | | } いずれか選択必修 | | | |
| 社会福祉援助技術Ⅱ | 通年 | | 4 | ◎ | | | | | | | | |
| 選択科目 | ソーシャルワーク現場実習Ⅱ | 集中 | | 2 | ◎ | | | | | 23 | | |
| | ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ | 通年 | | 4 | ◎ | | | | | | | |
| | ソーシャルワーク演習Ⅲ | 通年 | | 4 | ◎ | | | | | | | |
| | 介護技術演習 | 半年 | | 1 | | | | | | | | |
| | 総合講座人間・科学・宗教 | 半年 | 2 | | | | | | | | | |
| | 国際福祉学特講 | 半年 | 2 | | | | | | | | | |
| | 教養英語Ⅰ | 半年 | 1 | | | | | | | | | |
| | 教養英語Ⅱ | 半年 | 1 | | | | | | | | | |
| | 教養英語Ⅲ | 半年 | 1 | | | | | | | | | |
| | 教養英語Ⅳ | 半年 | | 1 | | | | | | | | |
| | 日本語表現 | 通年 | 4 | | | | | | | | | |
| | ドイツ語 | 通年 | 2 | | | | | | | | | |
| | フランス語 | 通年 | 2 | | | | | | | | | |
| | スポーツ文化Ⅱ | 通年 | | 2 | | | ◎ | | | | | |
| | 情報処理応用 | 半年 | 2 | | | | | | | | | |
| | 民法 | 半年 | 2 | | | | | | | | | |
| | マクロ経済学入門 | 通年 | 4 | | | | | | | | | |
| | ミクロ経済学入門 | 通年 | | 4 | | | | | | | | |
| | 国際福祉論 | 通年 | 4 | | | | | | | | 2019年度休講 | |
| | 医学概論 | 半年 | 2 | | ③ | | | | ○ | | 23 | |
| | 介護概論 | 通年 | 4 | | ◎ | | | | ◎ | | | |
| | 社会保障論 | 通年 | 4 | | ◎ | | | | ○ | | | |
| | 発達心理学 | 半年 | 2 | | ③ | | | | | | | |
| | 児童文化 | 半年 | 1 | | | | | | | | | 2019年度休講 |
| | 更生保護制度 | 半年 | | 2 | ④ | | | | | | | |
| | 仏教福祉論 | 半年 | 2 | | | | | | ◎ | | | |
| | カウンセリング基礎論 | 通年 | | 4 | | | | | ◎ | | | |
| | コミュニケーション論 | 通年 | | 4 | | | | | ◎ | | | |
| | 余暇活動論 | 半年 | | 2 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| | 社会福祉学特殊講義Ⅰ | 通年 | 4 | | | | | | | | | 2019年度休講 |
| | 社会福祉学特殊講義Ⅱ | 通年 | 4 | | | | | | | | | 2019年度休講 |
| | 社会福祉学特殊講義Ⅲ | 通年 | 4 | | | | | | | | | |
| 社会福祉学特殊講義Ⅳ | 通年 | 4 | | | | | | | | | | |
| 社会福祉学特殊講義Ⅴ | 通年 | 4 | | | | | | | | | | |
| 社会福祉学特殊講義Ⅵ | 通年 | 4 | | | | | | | | | | |
| 高齢者福祉論 | 通年 | | 4 | ◎ | | | | ○ | | | | |
| 障害者福祉論 | 通年 | | 4 | ◎ | | ◎ | | ○ | | | | |
| 児童福祉論 | 通年 | | 4 | ◎ | | | | | | | | |
| 社会福祉調査論 | 半年 | 2 | | ◎ | | | | | | | | |
| 福祉行財政と福祉計画 | 半年 | 2 | | ◎ | | | | | | | | |
| 福祉サービスの組織と経営 | 通年 | | 4 | ◎ | | | | | | | | |
| 保健医療サービス | 半年 | 2 | | ◎ | | | | | | | | |
| 就労支援サービス | 半年 | 2 | | ④ | | | | | | | | |

履修をはじめ
るにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と
単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

教育課程の
編成方法

諸課程

その他

窓口事務係様へ
障がい学生支援について

学修生活の手引き

授業休止の
取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

〈2018年度以降入学生適用〉

◎：必修科目 ○：選択科目 (第3表)

| | 授業科目 | 期間 | 配当年次(単位数) | | 資格科目 | | | | | | 卒業単位 | 備考 | |
|---------------------|-----------------|----|-----------|-----|---------|--------|-----------|----------|---------|---|------|----|----------|
| | | | 1年次 | 2年次 | 社会福祉士資格 | 本願寺派教師 | 初級スポーツ指導員 | レクリエーション | ビハーラ活動者 | | | | |
| 選択科目 | 権利擁護と成年後見制度 | 半年 | | 2 | ④ | | | | | | | | 2019年度休講 |
| | 地域福祉論 | 半年 | | 2 | ◎ | | | | | | | | |
| | 公的扶助論 | 半年 | | 2 | ◎ | | | | | | | | |
| | 臨床心理学 | 通年 | | 4 | ③ | | | | | ○ | | | |
| | 精神保健 | 半年 | | 2 | | | | | | ○ | | | |
| | 哲学概論 | 通年 | | 4 | | | | | | | | | 2019年度休講 |
| | 高齢者・障害者の心理 | 半年 | | 2 | | | | | | ◎ | | | |
| | ビハーラ活動論 | 半年 | 2 | | | | | | | ◎ | 23 | | |
| | リハビリテーション概論 | 半年 | | 2 | | | ◎ | | | | | | |
| | 福祉とセラピー | 半年 | 2 | | | | | | | | | | 2019年度休講 |
| | ビハーラ活動内容総論 | 半年 | 2 | | | | | | | ◎ | | | |
| | ビハーラ活動実習 | 集中 | | 2 | | | | | | ◎ | | | |
| | パークレーボランテニア | 集中 | 6 | | | | | | | | | | |
| | 特別講座(海外研修) | 集中 | 2 | | | | | | | | | | |
| | 特別講座(海外英語研修ハワイ) | 集中 | 2 | | | | | | | | | | |
| 特別講座(海外英語研修オーストラリア) | 集中 | 2 | | | | | | | | | | | |

③：共通科目「心理学」「社会学」を含めていずれか1科目、あるいは「発達心理」と「臨床心理学」の2科目必修

④：1科目以上必修

⑤：いずれか1科目必修

〈2019年度入学生適用〉

◎：必修科目 ○：選択科目 (第5表)

| | 授業科目 | 期間 | 配当年次(単位数) | | 資格科目 | | 卒業単位 | 備考 |
|----------------|--------------|----|-----------|-----|-------|---------|------------|---------------|
| | | | 1年次 | 2年次 | 保育士資格 | 教職(幼稚園) | | |
| 必修科目 | 社会福祉学 | 半年 | 2 | | ◎ | | 19 | |
| | 子ども家庭福祉学 | 半年 | | 2 | ◎ | | | 2020年度より開講 |
| | 社会的養育の原理・社会学 | 半年 | 2 | | ◎ | | | |
| | 保育の心と総論 | 半年 | | 2 | ◎ | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 保育内容Ⅰ(健康) | 半年 | 2 | | ◎ | ◎ | | ※1 |
| | 保育内容Ⅰ(人間関係) | 半年 | 1 | | ◎ | ◎ | | ※1 |
| | 保育内容Ⅰ(環境) | 半年 | 1 | | ◎ | ◎ | | ※1 |
| | 保育内容Ⅰ(言葉表現) | 半年 | 1 | | ◎ | ◎ | | ※1 |
| | 保育内容Ⅱ(言葉) | 半年 | | 1 | ◎ | ◎ | | ※1 2020年度より開講 |
| | 保育内容Ⅱ(言葉) | 半年 | | 1 | ◎ | ◎ | | ※1 2020年度より開講 |
| 選択科目 | 保育内容Ⅱ(言葉) | 半年 | | 1 | ○ | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 教育課程総論 | 半年 | | 2 | ◎ | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 教育特別支援法 | 半年 | 2 | | ◎ | ◎ | | |
| | 幼児理解と教育相談 | 半年 | 2 | | ◎ | ◎ | | |
| | 国語 | 半年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 児童文化 | 半年 | | 1 | | ◎ | ◎ | ※1 2020年度より開講 |
| | 基礎技能Ⅰ(図画工作) | 半年 | 1 | | ◎ | ◎ | ◎ | ※1 |
| | 基礎技能Ⅱ(図画工作) | 半年 | 1 | | ◎ | ◎ | ◎ | ※1 |
| | 基礎技能Ⅰ(体育) | 半年 | 1 | | ○ | ◎ | ◎ | ※1 |
| | 基礎技能Ⅰ(音楽) | 半年 | | 1 | | ◎ | ◎ | ※1 2020年度より開講 |
| | 基礎技能Ⅱ(音楽) | 半年 | | 2 | | ◎ | ◎ | 2020年度より開講 |
| | 基礎技能Ⅲ(音楽) | 半年 | | 2 | | ◎ | ◎ | 2020年度より開講 |
| | 作文指導Ⅰ | 半年 | 2 | | ◎ | | | 2020年度より開講 |
| | 保育実習指導Ⅰ | 半年 | 1 | | ◎ | | | |
| | 保育実習指導Ⅱ | 半年 | | 1 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 保育実習指導Ⅲ | 半年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 保育の心理学 | 半年 | 2 | | ◎ | ◎ | 37 | |
| | 教育の心理学 | 半年 | | 2 | | ◎ | ◎ | |
| | 子どもの家庭支援 | 通年 | | 1 | | ◎ | | 2019年度休講 |
| | 子どもの理解と援助 | 通年 | 1 | | ◎ | | | ※2 2020年度より開講 |
| | 子どもの家庭支援の心理学 | 通年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 子どもの健康と安全 | 半年 | 2 | | ◎ | | | |
| | 子どもの健康と栄養 | 半年 | 1 | | ◎ | | | |
| | 精神保健 | 通年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 乳児保育Ⅰ | 半年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 乳児保育Ⅱ | 半年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 社会的養育Ⅰ | 半年 | | 1 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 社会的養育Ⅱ | 半年 | | 1 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 家庭養育Ⅰ | 半年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| | 家庭養育Ⅱ | 半年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 |
| 子ども教育学研究演習 | 半年 | | 2 | | ○ | | 2020年度より開講 | |
| 教育実践演習Ⅰ(幼稚園) | 通年 | 5 | | | ◎ | | 2019年度休講 | |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | 半年 | | 2 | | ◎ | ◎ | 2020年度より開講 | |
| 保育実習Ⅰ(保育所) | 半年 | 2 | | | ◎ | | | |
| 保育実習Ⅰ(施設) | 半年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 | |
| 保育実習Ⅱ | 通年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 | |
| 保育実習Ⅲ | 通年 | | 2 | | ◎ | | 2020年度より開講 | |
| 卒業研究 | 半年 | | 2 | | | | 2019年度休講 | |
| パークレボランティア | 集中 | 6 | | | | | | |

④：「保育実習指導Ⅱ」、「保育実習指導Ⅲ」および「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」を修得すること
 ⑤：「国語」「基礎技能Ⅰ(音楽)」「基礎技能Ⅰ(図画工作)」「基礎技能Ⅰ(体育)」の4科目を含め、計4単位以上修得すること。

※1 授業回数が8回の科目
 ※2 授業回数が24回の科目

【2018年度以前入学生】こども教育学科カリキュラムマップ【保育・幼児教育に関する専門的・実践的能力を身に付けた人材を養成することを目的とします。

| 1年次 | | 2年次 | |
|--|---|--|----------------------------|
| 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 仏教の思想・英語I・スポーツ文化IA・スポーツ文化IB・法学I・情報処理基礎など 【基礎的な専攻科目】 保育・教職の基礎理論を学びます | | 英語II・共生(ともいき)論 【発展的な専攻科目】 | |
| 社会福祉概論 教職論 保育原理I 保育内容総論 保育内容I(健康) 保育内容I(人間関係) 保育内容I(環境) 保育内容I(言葉) | 保育と人権 社会的養護 児童文化 小児保健演習 小児保健 | 児童家庭福祉 教育課程総論 教育原理 社会的養護内容 保育内容I(表現) 保育内容II(言葉) | 保育原理II 保育内容II(表現) |
| 理論系科目 | | 実技系科目 | |
| 保育士養成課 教職課程 | 基礎技能I(音楽) I期・II期・III期 基礎技能I(図画工作) 基礎技能I(図画工作) | 研究 こども教育学研究演習 基礎技能II(音楽) 基礎技能I(体育) | 卒業研究 基礎技能III(音楽) |
| 実習科目について | | 実習科目について | |
| 保育実習指導I | 保育実習指導II 保育実習I(保育所) 保育実習(春期) | 保育実習指導III 保育実習II OR 保育実習III 保育実習 | 保育・教職実践演習(幼稚園) 保育実習(秋期) |

実社会で活躍する

四年制大学への編入

【2019年度入学生 こども教育学科カリキュラムマップ】保育・幼児教育に関する専門的・実践的能力を身に付けた人材を養成することを目的とします。

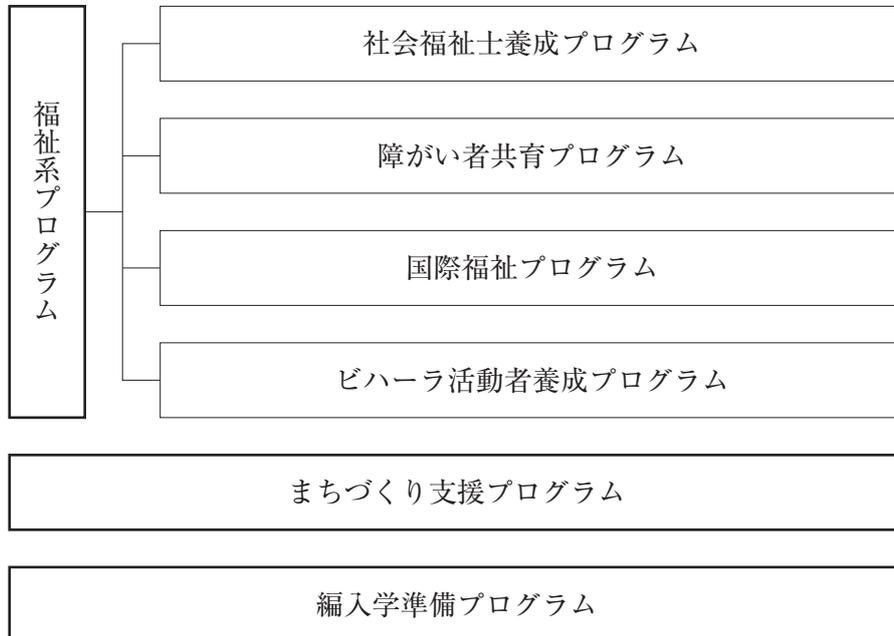
| 1年次 | 2年次 | |
|---|--|--|
| | 前期 | 後期 |
| <p>前期</p> <p>【共通科目】…幅広い教養と社会人として必要な知識・スキルを養います。 英語Ⅰ・スポーツ文化ⅠA・スポーツ文化ⅠB・法学Ⅰ・情報処理基礎など</p> <p>【基礎的な専攻科目】 保育・教職の基礎理論を学びます</p> <p>社会福祉 教職論 保育原理Ⅰ 保育内容総論 保育内容Ⅰ(健康) 保育内容Ⅰ(人間関係) 保育内容Ⅰ(環境) 保育内容Ⅰ(言葉) 子どもの健康と安全 子どもの保健</p> <p>理論系科目</p> | <p>前期</p> <p>【発展的な専攻科目】</p> <p>子ども家庭福祉 教育課程総論 教育原理・社会学 社会的養護Ⅱ 保育内容Ⅰ(表現) 保育内容Ⅱ(言葉) 子どもの食と栄養 子ども教育研究演習 基礎技能Ⅱ(音楽) 基礎技能Ⅱ(体育) 研究</p> <p>保育と人権 社会的養護Ⅰ 児童文化 子どもの健康と安全 子どもの保健</p> <p>実技系科目</p> | <p>後期</p> <p>保育原理Ⅱ 保育内容Ⅱ(表現) 卒業研究 基礎技能Ⅲ(音楽)</p> <p>保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅰ OR 保育実習Ⅲ 保育実習Ⅱ (施設) 保育実習 保育・教職実践演習(幼稚園) 教育実習(秋期)</p> <p>保育士養成課 教職課程</p> <p>実習科目について</p> |
| <p>実社会で活躍する</p> | | |
| <p>四年制大学への編入</p> | | |

| 付録 | 卒業生活のサポート | | | 講義課程 | 教育課程の編成方法 | 成績評価 | 履修登録 | 単位制度と単位の認定 | シラバス | 履修をはじめにわたって |
|----|-----------|--------|---------|------|-----------|------|------|------------|------|-------------|
| | 学籍の取り扱い | 取り扱い基準 | 授業休止の基準 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

6. 社会福祉学科各種プログラム

なりたい自分になるためのキャリアアッププログラム一覧

※自分にあったプログラムを任意で選択（複数選択可）。



福祉系プログラム

(1) 社会福祉士養成プログラム

①到達目標

- ・社会福祉の専門的な知識を身につける。
- ・社会福祉士国家試験受験基礎資格を取得する。

②対象

- ・社会福祉士国家試験受験基礎資格取得を目指す人
- ・社会福祉領域への就職を目指す人

③プログラム内容

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|-----------------|-----|-------------|
| 医学概論 | 2 | 必修※ |
| 心理学 | 2 | 必修※ |
| 臨床心理学 | 4 | 2科目 |
| 発達心理学 | 2 | 必修※ |
| 社会学 | 4 | 必修※ |
| 社会福祉原論 | 4 | 必修 |
| 社会福祉調査論 | 2 | 必修 |
| 社会福祉援助技術総論 | 4 | 必修 |
| 社会福祉援助技術Ⅰ | 4 | 必修 |
| 社会福祉援助技術Ⅱ | 4 | 必修 |
| 地域福祉論 | 2 | 必修 |
| 福祉行財政と福祉計画 | 2 | 必修 |
| 福祉サービスの組織と経営 | 4 | 必修 |
| 社会保障論 | 4 | 必修 |
| 高齢者福祉論 | 4 | 必修 |
| 介護概論 | 4 | 必修 |
| 障害者福祉論 | 4 | 必修 |
| 児童福祉論 | 4 | 必修 |
| 公的扶助論 | 2 | 必修 |
| 保健医療サービス | 2 | 必修 |
| 就労支援サービス | 2 | 1科目以上 必修 |
| 権利擁護と成年後見制度 | 2 | |
| 更生保護制度 | 2 | |
| ソーシャルワーク演習Ⅰ | 4 | 必修 |
| ソーシャルワーク演習Ⅱ | 2 | 必修 |
| ソーシャルワーク演習Ⅲ | 4 | 必修 |
| ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ | 4 | 必修 |
| ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ | 4 | 必修 |
| ソーシャルワーク現場実習Ⅰ | 2 | 必修 |
| ソーシャルワーク現場実習Ⅱ | 2 | 必修 |

※医学概論、心理学、社会学のいずれか1科目、あるいは臨床心理学と発達心理学の2科目必修

④プログラム修了条件

必修科目を全て修得すること

履修をはじめるにあたって
シラバス
履修の心得
単位制度と単位の認定
履修登録
成績評価
教育課程
教育課程の編成方法
諸課程
その他
学修生活の手引き
窓口事務保健センター！
障がい者支援について
授業休止の取り扱い基準
学籍の取り扱い
付録

(2) 障がい者共育プログラム

①到達目標

自己の内にある、知的障がいのある人に対する偏見を自覚できるようになる。知的障がいのある人を、尊厳ある個人として尊敬し、個性の伸張を互いに進めることを学ぶ。自己決定、自立支援の意味を理解し、そのサポートのコツや姿勢を実際的に身につける。学習し身につけたものを、公開の場でプレゼンテーションできるようになる。

②対象

- ・社会福祉士国家試験受験基礎資格取得を目指す人
※社会福祉士国家試験受験基礎資格を取得するためには、社会福祉士養成プログラムを修了する必要があります。
- ・障害の有無に関わらず、人を尊重することを学びたいと考える人
- ・障がい者にかかわる仕事に就きたい人
- ・音楽療法や演劇療法に関心がある人

③プログラム内容

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|------------------------|-----|-------|
| 社会福祉学特殊講義Ⅲ | 4 | 必修 |
| 社会福祉学特殊講義Ⅳ | 4 | 選択必修 |
| 社会福祉学特殊講義Ⅴ | 4 | 選択必修 |
| 障害者福祉論 | 4 | 選択 |
| 社会福祉実習Ⅱ（学内実習） | 2 | 選択 |
| 社会福祉実習指導Ⅰ（学内実習指導プログラム） | 2 | 選択 |

④プログラム修了条件

合計8単位以上修得すること。

※ともいき大学学習支援に参加することが望ましい。

(3) 国際福祉プログラム

①到達目標

- ・国際福祉について理解する。
- ・英検2級、TOEIC (IPでも可) 400点以上、TOEFL-PBT (ITPでも可) 430点以上またはTOEFL-iBT 39点以上のいずれかの取得を目指す。

②対象

- ・国際福祉に関心のある人
- ・国際福祉領域に就職を希望する人
- ・国際学部、経済学部国際経済学科に編入学を希望する人

③プログラム内容

〈2018年度以降入学生対象〉

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|----------------------------------|-----|---------|
| 国際福祉学特講 | 2 | 必修 |
| 社会福祉演習Ⅰ（国際福祉クラス） | 4 | 選択 |
| 社会福祉演習Ⅱ（国際福祉クラス） | 2 | 選択 |
| 特別講座（海外研修） | 2 | 選択 |
| ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ（国際福祉系の福祉体験活動を含む） | 4 | 必修 |
| 社会福祉実習Ⅰ（国際福祉実習） | 1 | 選択 |
| 社会福祉実習指導Ⅰ（国際福祉実習指導プログラム） | 2 | 選択 |
| 英語Ⅰ | 2 | 4単位以上必修 |
| 英語Ⅱ | 2 | |
| 教養英語Ⅰ | 1 | |
| 教養英語Ⅱ | 1 | |
| 教養英語Ⅲ | 1 | |
| 教養英語Ⅳ | 1 | |

④プログラム修了条件

合計10単位以上修得すること。

| |
|-------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務センター！ 障がい生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

(4) ビハーラ活動者養成プログラム

①到達目標

- ビハーラ活動者となる。
- 死にゆく人への支援を理解する。

②対象

- ターミナルケアについて学びたい人
- ビハーラ活動者をめざす人
- 仏教福祉に関心のある人

③プログラム内容

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|----------------------------|-----|-------|
| ビハーラ活動論 | 2 | 必修 |
| 仏教福祉論 | 2 | 必修 |
| 社会保障論 | 4 | 選択 |
| 高齢者福祉論 | 4 | 選択 |
| 障害者福祉論 | 4 | 選択 |
| 高齢者・障害者の心理 | 2 | 必修 |
| 医学概論 | 2 | 選択 |
| 精神保健 | 2 | 選択 |
| 臨床心理学 | 4 | 選択 |
| ビハーラ活動内容総論 | 2 | 必修 |
| カウンセリング基礎論 | 4 | 必修 |
| 介護概論 | 4 | 必修 |
| スポーツ文化 I B (レクリエーション・スポーツ) | 2 | 選択 |
| ビハーラ活動実習 | 2 | 必修 |

④プログラム修了条件

合計 26 単位以上修得すること。

まちづくり支援プログラム

①到達目標

- ・地域の中に住む住民のひとりであるという意識をもつ。
- ・地域が活性化するための住民の役割について理解する。

②対象

地域活動、まちづくりに関心がある人

③プログラム内容

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|--|-----|-------|
| 社会学 | 4 | 必修 |
| 地域福祉論 | 2 | 選択 |
| 社会福祉実習 I (地域実習) | 1 | 必修 |
| 社会福祉実習指導 I | 2 | 必修 |
| ソーシャルワーク現場実習指導 I (まちづくり支援系の福祉体験活動を含む) | 4 | 必修 |

④プログラム修了条件

合計 11 単位以上修得すること。 ※ゼミは地域実習担当者に配属

編入学準備プログラム

①到着目標

- ・自分にあったキャリアデザインを実現するために、希望大学、学部の編入学試験に合格する。
- ・編入学後の学修をスムーズに進めるための学力を身につける。

②対象

- ・編入学をめざす人

③プログラム内容

1) 共通プログラムおよび2) 学部別プログラム修得見込み者は、龍谷大学指定校推薦編入学試験の短期大学部内選考において、社会福祉学科内に限り優先されます。

※3月に実施されるオープンキャンパスに参加し、編入希望学部について調べておくこと。

1) 共通プログラム ※プログラム修了の条件 合計8単位以上修得

| 科目名等 | 単位数 | 必修／選択 |
|---------------|-----|-------------|
| 総合講座 人間・科学・宗教 | 2 | 必修 |
| 英語Ⅰ | 2 | 4単位以上 必修 |
| 英語Ⅱ | 2 | |
| 教養英語Ⅰ | 1 | |
| 教養英語Ⅱ | 1 | |
| 教養英語Ⅲ | 1 | |
| 教養英語Ⅳ | 1 | |
| 言語表現論 | 2 | |
| 日本語表現 | 4 | 必修 |

2) 学部別プログラム

文学部 ※プログラム修了の条件 合計8単位以上修得

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|----------------------|-----|-------|
| ドイツ語 | 2 | 選択必修 |
| フランス語 | 2 | |
| 言語表現論 | 2 | 必修 |
| 文学部開講科目（希望学科に関連した科目） | 2 | 選択必修 |
| 心理学 | 2 | |
| 哲学 | 4 | |

※「スタディガイド」、「各学科専攻における課題図書」を参考に自己学修すること。

※基礎演習科目等の履修

経済学部 ※プログラム修了の条件 合計8単位以上修得

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|----------|-----|-------|
| マクロ経済学入門 | 4 | 必修 |
| ミクロ経済学入門 | 4 | 必修 |

経営学部 ※プログラム修了の条件 合計18単位以上修得

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|--------------|-----|-------|
| 福祉行財政と福祉計画 | 2 | 必修 |
| 福祉サービスの組織と経営 | 4 | 必修 |
| マクロ経済学入門 | 4 | 必修 |
| ミクロ経済学入門 | 4 | 必修 |
| 情報処理基礎 | 2 | 必修 |
| 情報処理応用 | 2 | 必修 |

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得
単位制度と
単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程
編入方法
教育課程の

諸課程

その他

窓口事務係センター！
障がい学生支援について

学修生活の手引き
授業休止の
取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

法学部 ※プログラム修了の条件 合計8単位修得

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|--------------|-----|-----------------|
| 法学（日本国憲法含む。） | 2 | 必修 |
| 民法 | 2 | 必修 |
| 法と裁判 | 2 | 4単位 以上 履修 |
| 労働と法 | 2 | |
| 民法Ⅰ-A | 2 | |
| 日本法制史A | 2 | |
| 刑事法入門 | 2 | |
| 民法Ⅰ-B | 2 | |
| 憲法Ⅰ（4単位） | 4 | |

政策学部 ※プログラム修了の条件 合計10単位修得

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|--------------|-----|-------|
| 法学（日本国憲法含む。） | 2 | 必修 |
| マクロ経済学入門 | 4 | 必修 |
| ミクロ経済学入門 | 4 | 必修 |

社会学部 ※プログラム修了の条件 合計6単位以上修得

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|---------|-----|-------|
| 社会学 | 4 | 必修 |
| 社会福祉調査論 | 2 | 必修 |

※編入説明会に参加すること。

国際学部 ※プログラム修了の条件 合計6単位以上修得

| 科目名 | 単位数 | 必修／選択 |
|-------|-----|-------|
| 教養英語Ⅰ | 1 | 必修 |
| 教養英語Ⅱ | 1 | 必修 |
| 教養英語Ⅲ | 1 | 必修 |
| 教養英語Ⅳ | 1 | 必修 |
| 英語Ⅱ | 2 | 選択 |
| ドイツ語 | 2 | 選択 |
| フランス語 | 2 | 選択 |

7. 科目選択の際の留意事項＜2018年度以降入学生適用【社会福祉学科対象】＞

下記の科目については選択方法を熟読のうえ、今年度の履修にあたってください。

(1) 演習（ゼミ）の選択について

「社会福祉演習Ⅰ」（4単位）
「ソーシャルワーク演習Ⅰ」（4単位） } 1年次後期、2年次前期配当・通年・選択必修科目
※いずれかの科目を必ず履修してください。なお、次の基準を確認してください。

「社会福祉演習Ⅰ」を選択できる学生

「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を選択しない学生です。

「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を選択できる学生

社会福祉士国家試験受験基礎資格の取得を希望し、履修許可を得た学生が選択できます。それ以外の学生は原則履修できません。

(2) 実習科目等の履修について

1) 「社会福祉実習Ⅰ」（1単位）
2) 「社会福祉実習Ⅱ」（2単位）
3) 「ソーシャルワーク現場実習Ⅰ」（2単位） } 2年次配当・選択必修科目

※1)、2)、3) いずれかのパターンで履修してください。なお、次の基準を確認してください。

1) 「社会福祉実習Ⅰ」

① 選択できる学生

「社会福祉実習Ⅱ」、「ソーシャルワーク現場実習Ⅰ」を選択しない学生が履修します。

② 実習先及び内容

原則として、大学が指定する施設等にて以下の内容で実習を行います。

a. 地域実習

NPO法人や自治会・町内会のまちづくり活動（2018年度生のみ）、または社会福祉施設等で実習を行います。

b. 国際実習

国際福祉に関する活動に取り組むNPO法人や社会福祉法人等での実習、ギャップ・ Semester・プログラム、海外研修、学生自身が企画・開拓するプログラムのいずれかで実習を行います。

2) 「社会福祉実習Ⅱ」

① 選択できる学生

「社会福祉実習Ⅰ」、「ソーシャルワーク現場実習Ⅰ」を選択しない学生が履修します。

② 実習先及び内容

原則として、大学が指定する施設等にて実習を行います。

特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者支援施設等において利用者支援に関する実習を行います。

3) 「ソーシャルワーク現場実習Ⅰ」

① 選択できる学生

ソーシャルワーク演習Ⅰを受講し、社会福祉士国家試験受験基礎資格の取得を希望している学生のみが選択できます。原則それ以外の学生は履修できません。

② 実習先及び内容

原則として、大学が指定する福祉施設で実習を行います。

| |
|------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務保健センター！障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

8. 留学生の必修外国語科目

<留学生対象>

留学生は、必修外国語として「英語 I」の代わりに「日本語」を2単位まで履修し修得することができます。

ただし、登録にあたっては必ず短期大学部教務課で相談してください。

| 科目名 | 単位 | 配当年次 | 開講形態 |
|-----|----|-------|--------------------|
| 日本語 | 1 | 1年次以上 | がっきかんけつがた 学期完結型 |

Ⅱ．年次別履修要項

1 年次生履修要項 < 2017 年度こども教育学科入学生対象 >

1 年次においては、「卒業要件」の第 1 表－②（こども教育学科）にもとづき、「設置科目」第 2 表（共通科目）・第 4 表（こども教育学科）の 1 年次配当科目の中から履修科目を決めなければなりません。幼稚園教諭二種免許状の取得、保育士資格の取得、編入学を希望するものは特に登録にあたってその計画を立てなければなりません。

また、1 年次生は 2 年次配当科目を受講することはできません。

1. 共通科目

共通科目は、**必修科目 8 単位・選択科目 4 単位以上**を履修しなければなりません。

「**仏教の思想**」（4 単位）は**必修科目**であり、必ず修得しなければなりません。

2. 外国語科目

外国語としては、共通科目「**英語 I**」（2 単位）が**必修科目**であり、共通科目「**英語 II**」は**選択科目**となります。

3. 保健体育科目

- (1) 保健体育科目は**2 単位が必修**であって、講義（「スポーツ文化 I A」2 単位）または実技（「スポーツ文化 I B」2 単位）を履修しなければなりません。
- (2) 1 年次においては、スポーツ理論の修得を目的とする「スポーツ文化 I A」（2 単位・週 1 講時・半年）またはスポーツ技術の実践と修得を目的とする「スポーツ文化 I B」（2 単位・週 1 講時・通年）を履修しなければなりません。
- (3) **保育士資格、幼稚園教諭二種免許状取得希望者**は「スポーツ文化 I A」「スポーツ文化 I B」のいずれも必修となります。（こども教育学科対象）
- (4) 「スポーツ文化 I A」及び「スポーツ文化 I B」を修得した場合、一方の 2 単位を必修・共通科目、他方の 2 単位を選択・共通科目として取り扱います。
- (5) 「スポーツ文化 I B」の登録方法
指定された種目（担当者）を確認の上、**事前登録する必要があります。**
- (6) 「スポーツ文化 I B」開講科目
バドミントン、レクリエーション・スポーツ、卓球の 3 種目
- (7) 健康診断の受診について
「スポーツ文化 I B」を登録履修する者は、**大学で行う健康診断（4 月に実施予定）を受けておかなければなりません。**日程等については、掲示板およびホームページを確認してください。

4. 学科専攻科目

学科専攻科目は「設置科目」第 4 表を参照の上、1 年次配当科目を履修してください。

5. 実習費の納入について

納入期限までに納入されない場合、実習等を履修できないことがありますので、注意してください。
※詳細については別途掲示にて連絡します。

保育士資格または幼稚園教諭二種免許状取得を希望する学生は、1 年次に「委託費等実費」（¥25,000）を、両資格取得希望の学生は、2 年次にも「委託費等実費」（¥25,000）を納入してください。

| |
|-------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務係様へ！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

6. 諸課程

教職課程、保育士課程、本願寺派教師資格課程の履修については、諸課程の項を参照してください。

1 年次生履修要項 < 2018 年度以降入学生対象 >

1 年次においては、「卒業要件」の第 1 表-①（社会福祉学科）・第 1 表-②（こども教育学科）にもとづき、「設置科目」第 2 表（共通科目）・第 3 表（社会福祉学科）・第 4 表または第 5 表（こども教育学科）の 1 年次配当科目の中から履修科目を決めなければなりません。

幼稚園教諭二種免許状の取得、保育士資格の取得、社会福祉士国家試験受験基礎資格の取得、編入学を希望する者は特に登録にあたってその計画を立てなければなりません。

また、1 年次生は 2 年次配当科目を受講することはできません。

1. 共通科目

共通科目は、**社会福祉学科：必修科目 8 単位・選択科目 6 単位以上、こども教育学科：必修科目 8 単位・選択科目 4 単位以上**を履修しなければなりません。

- (1) 「**仏教の思想**」（4 単位）は必修であり、必ず修得しなければなりません。
- (2) **社会福祉士国家試験受験基礎資格取得希望者**は、共通科目「心理学」「社会学」社会福祉学科専攻科目「医学概論」のうち 1 科目以上、あるいは社会福祉学科専攻科目「発達心理学」「臨床心理学」の 2 科目を修得しなければなりません。

2. 外国語科目

外国語としては、共通科目「**英語 I**」（2 単位）が必修科目であり、共通科目「英語 II」（社会福祉学科・こども教育学科共通）、社会福祉学科専攻科目「ドイツ語」、「フランス語」は選択科目（社会福祉学科対象）となります。

- (1) 第一外国語
「英語 I」は 1 年次において、2 単位（必修）を履修しなければなりません。「英語 II」（2 年次配当）は選択科目です。
- (2) 第二外国語
「ドイツ語」・「フランス語」は選択科目（社会福祉学科対象）ですが、指定校推薦編入学を希望する場合は、各学部が推薦基準として指定している科目を確認し、履修しなければなりません。

3. 保健体育科目

- (1) 保健体育科目は **2 単位が必修**であって、講義（「スポーツ文化 I A」2 単位）または実技（「スポーツ文化 I B」2 単位）を履修しなければなりません。
- (2) 1 年次においては、スポーツ理論の修得を目的とする「スポーツ文化 I A」（2 単位・週 1 講時・半年）またはスポーツ技術の実践と修得を目的とする「スポーツ文化 I B」（2 単位・週 1 講時・通年）を履修しなければなりません。
- (3) **保育士資格、幼稚園教諭二種免許状取得希望者**は「スポーツ文化 I A」「スポーツ文化 I B」のいずれも必修となります。（こども教育学科対象）
- (4) 「スポーツ文化 I A」及び「スポーツ文化 I B」を修得した場合、一方の 2 単位を必修・共通科目、他方の 2 単位を選択・共通科目として取り扱います。
- (5) 「スポーツ文化 I B」の登録方法
指定された種目（担当者）を確認の上、**事前登録する必要があります。**
- (6) 「スポーツ文化 I B」開講科目
バドミントン、レクリエーション・スポーツ、卓球の 3 種目
- (7) 社会福祉学科 2 年次以上について、「スポーツ文化 II」（2 単位）を開講します。
「スポーツ文化 II」は、スポーツ文化 I を履修した後、スポーツ文化を引き続き受講したい学生を対象に選択科目として設置します。

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得
単位制度と
単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程
教育課程の
編成方法

諸課程

その他

窓口事務係様へ
障がい学生支援について

学修生活の手引き
授業休止の
取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

(8) 健康診断の受診について

「スポーツ文化ⅠB」を登録履修する者は、大学で行う健康診断（4月に実施）を受けておかなければなりません。日程等については、掲示板およびホームページを確認してください。

4. 学科専攻科目

学科専攻科目は「設置科目」第3表（社会福祉学科）・第4表または第5表（こども教育学科）を参照の上、1年次配当科目を履修してください。

5. 演習について（社会福祉学科対象）

演習については、学問研究の中心となる授業科目で、自らが選んだテーマに主体的に取り組み、専門的視野から研究を行うため、小集団教育体制がとられます。

| 配当年次 | 期間 | 科目名（単位数） | 備考 |
|------|----|------------------------------|-----------|
| 1年次 | 前期 | 基礎演習（2） | 必修 |
| | 後期 | 社会福祉演習Ⅰ（4） | いずれか1科目必修 |
| 2年次 | 前期 | ソーシャルワーク演習Ⅰ（4） | |
| | 後期 | 社会福祉演習Ⅱ（2） ソーシャルワーク演習Ⅱ（2） | いずれか1科目必修 |

(1) 「基礎演習」（2単位・必修）

1年次前期開講

演習（ゼミナール）というのは、指導教員（ゼミ担当教員）のもとで少数の学生が一定のテーマを研究討議する学習法です。

各ゼミナールは、それぞれのテーマにそって討論を中心とした形です。同時にこの時間では、大学における学び方、資料や文献の調べ方、レポートやレジュメの書き方などが指導されるとともに、各人の問題関心を整理し、次の「社会福祉演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」（1年次後期・2年次前期）に進んでいくための準備と動機づけをおこないます。つまりこの時間は、大学教育入門という意味と、次の本格的なゼミナールのための前段階という意味とをもっているといえます。

(2) 「社会福祉演習Ⅰ」（4単位・選択必修）

「ソーシャルワーク演習Ⅰ」（4単位・選択必修）

1年次後期・2年次前期開講

社会福祉士国家試験受験基礎資格の取得希望者は、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を履修してください。

(3) 「社会福祉演習Ⅱ」（2単位・選択必修）

「ソーシャルワーク演習Ⅱ」（2単位・選択必修）

卒業論文指導

社会福祉士国家試験受験基礎資格の取得希望者は、「ソーシャルワーク演習Ⅱ」を履修してください。

(4) 「ソーシャルワーク演習Ⅲ」（4単位・選択）

社会福祉士国家試験受験基礎資格を取得するための必修科目です。

6. 実習費の納入について

納入期限までに納入されない場合、実習等を履修できないことがありますので、注意してください。
※詳細については別途掲示にて連絡します。

社会福祉学科

社会福祉士国家試験受験基礎資格取得を希望する学生は、2年次に「委託費等実費（社会福祉士受験基礎資格）」（¥15,000）を納入してください。

こども教育学科

保育士資格または幼稚園教諭二種免許状取得を希望する学生は、1年次に「委託費等実費」（¥25,000）を、両資格取得希望の学生は、2年次にも「委託費等実費」（¥25,000）を納入してください。

7. 諸課程

教職課程、保育士課程、社会福祉士養成課程、本願寺派教師資格課程、初級スポーツ指導員課程、レクリエーション・インストラクター課程、ビハーラ活動者養成課程の履修については、諸課程の項を参照してください。

| |
|-------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務健闘セヨ！ 障がい生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

2 年次生履修要項（3・4 年生を含む）＜2017 年度以降入学生対象＞

前年次で履修した科目が不合格であった場合、それが必修科目であれば必ずその科目を再履修しなければなりません。

選択科目であれば再びその科目を履修してもよいし、他の科目を履修してもかまいません。

1. 共通科目

- (1) 2 年次配当の共通科目については第 2 表参照の上、履修してください。

なお、2 年次生は、1 年次配当科目を履修することができます。

- (2) 仏教の思想

1 年次において、単位を修得できなかった者は、「仏教の思想」（金 1・金 2）より任意のクラスを選び必ず再履修してください。

2. 外国語科目

- (1) 第一外国語

英語Ⅰ ……1 年次において単位を修得できなかった者は、「英語Ⅰ（再）」（月 5）を履修しなければなりません。「英語Ⅰ（再）」は「英語Ⅰ」未修得者のみ受講できます。

英語Ⅱ ……「英語Ⅱ」は選択科目です。編入学希望者は「英語Ⅱ」を履修しておくことが望ましいです。

- (2) 第二外国語

「ドイツ語」・「フランス語」（1 年次配当）は選択科目です。興味に応じて履修してください。

3. 保健体育科目

「スポーツ文化ⅠA」または「スポーツ文化ⅠB」の未修得者は再履修してください。

「スポーツ文化ⅠB」または「スポーツ文化Ⅱ」を履修する者は、大学で行う健康診断（4 月に実施）を受けておかなければなりません。日程等については、掲示板およびホームページを確認してください。

4. 学科専攻科目

学科専攻科目は「設置科目」第 5 表（社会福祉学科）・第 6 表（こども教育学科）を参照の上、各自のコースまたは体系的学修計画に従って履修してください。

なお、2 年次生は、1 年次配当科目を履修することができます。

5. 「基礎演習」（社会福祉学科対象）

未修得者は、必ず再履修してください。

6. 「社会福祉演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」（社会福祉学科対象）

1 年次後期から 2 年次前期にかけての継続受講（同一担当者）を原則とします。

なお、1 年次後期において長期欠席した者は、再履修しなければなりません。

※不合格となった場合は、後期履修を認めることがありますので、必ず短期大学部教務課に相談に来てください。

7. 諸課程

教職課程、保育士課程、社会福祉士養成課程、本願寺派教師資格課程等の履修については、諸課程の項を参照してください。

Ⅲ. 卒業論文について（社会福祉学科対象）

卒業年次生で、その年度に卒業しようとする者は、卒業論文を提出しなければなりません。卒業論文の作成にあたっては、後述の『卒業論文の書き方』を参照の上、演習担当教員の十分な指導を受けてください。

注意事項：提出期限（最終提出日の午後4時45分）に遅れた場合は、特段の理由（学生の本人の責に帰することができないような場合に限る。但しその場合でも、たとえば遅延証明がない交通機関の遅れや、診断書等のない病気等は原則として理由とは認められない）がない限り卒業延期となるので、十分注意してください。

1. 卒業論文の提出

- (1) 論文用紙 A4サイズの白色上質紙（感熱紙は不可）。
- (2) 基準文字数 12,000字（400字詰め原稿用紙30枚換算）
- (3) 論文提出期間 11月20日（水）～11月22日（金） 午前9時～午後4時45分（厳守）
- (4) 論文提出先 短期大学部教務課
- (5) 提出部数 正本1部

口述試問に備え、各自その控え（コピー）を1部保持すること。

- ※ 提出にあたっては、指定された色の紙ファイルに綴じ、表紙には演習の時間に配布するカードを貼ってください。ファイルの色指定や形式等、詳細は掲示にてお知らせします。
- ※ 後述の『卒業論文の書き方』を熟読の上、作成してください。なお、提出前には再度演習担当教員の指導、確認を十分に受けた上で、提出してください。

2. 論文口述試問

12月～1月にゼミ毎に実施（掲示板及び演習担当教員より指示する）

| |
|--------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口業務センター！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

3. 「卒業論文」の書き方

これは、みなさんが内容・形式の整った「卒業論文」を作成する際に、必要と思われる一般的な注意事項をしるしたものです。したがって、研究テーマ等との関連で生じる特殊な問題については、別途に演習担当教員等と相談する必要があります。

(1) 「卒業論文」とは

「卒業論文」は、講義等で要求されるいわゆる「レポート」とは違って、文字どおりひとつの「論文」でなければなりません。それは、2年間の演習の研究成果であるばかりでなく、2年間の大学生活の勉強のしめくりという意味をもつべきものです。一般に、研究論文は、ある研究対象についてのひとつのまとまった考え方を理論的に展開させたものであり、さらに一定の独創性が要求されます。したがって、「卒業論文」を書く場合にも、そのような気持ちで取り組まなければなりません。その際、「卒業論文」には、これまでの研究者の業績を自分自身の考えにそって正確に整理することと、結論にいたるまでの論理の組立ての厳密さが要求されます。

提出された「卒業論文」は、長期間保存され、その間には閲覧希望者に公開されることがあります。

(2) 卒業論文の作成方法

卒業論文を作成する手順としては、必ずしも決まったものがあるとはいえませんが、1) テーマ（題目）の選定、2) テーマに関連した文献・資料の収集、3) 文献・資料の収集と通読、4) 論文骨子の作成、5) 下書きと推敲、の順で作業を進めるのが一般的です。

1) テーマ（題目）の選定

卒業論文のテーマを選ぶ際にとりわけ注意しなければならないのは、それが、①演習のテーマと関連したものであること、②自分が本当に興味、関心を抱いているものであること、③大きすぎたりあいまいであったりしないこと、の3点です。テーマを決めるきっかけはさまざまありますが、適当なテーマが思いつかない場合には、まず、演習に関連した領域の文献を、一冊でも二冊でも、丹念に読んでみることです。そうすれば、必ず、「この点はどうなるのだろう」とか、「この結論はおかしくないだろうか」とか、「自分ならこう考えるがどうだろう」といった箇所につつまれるはずで、そのように、既存の文献の中にある記述だけでは満足できない点を見つけだし、それを手がかりにしてテーマを決めることは、創意性、主体性のある論文をつくるうえできわめて大切なことです。

もちろん、はじめから最終的題目を確定できる場合は比較的少なく、かなり大きな漠然とした対象領域の設定からはじまる場合のほうがむしろ多いでしょう。しかし、その場合にも、2)、3)、4)、といった前記の作業をすすめていく間にテーマがしだいにしぼられ、それにともなって、題目も、論文の実質的内容をできるかぎりの確に表現する具体的なものにされなければなりません。

また、テーマの選定については演習担当教員とよく相談する必要がありますが、その際には、ただなんとなく思いついたテーマについて担当教員の意見をきくというのではなく、そのテーマのもとで自分がとりあげようとする主要な問題点についてある程度考えをまとめたうえで相談することが大切です。

2) テーマに関連した文献・資料の収集

論文の出来、不出来を決める重要な指標の一つは、その論文の中で、過去の研究成果がどれだけ広くふまえられ、とり入れられているかという点にあります。視野の広さ、問題点に対する接

近の多様さ、丹念さ、説得力の強さといった点ですぐれた論文は、必ずといってよいほど豊富な文献、資料を利用して書かれたものであり、逆に、一冊二冊の書物だけをもとにして書かれた論文は、およそ「論文」の名に値しないものであることが多いです。したがって、論文の執筆に先立って、テーマに関連した文献、資料を収集することは、きわめて重要です。

3) 文献・資料の収集と通読

文献、資料の目録がある程度までできれば、それをもとに文献、資料そのものを入手し、通読しなければなりません。その場合、そうした文献の入手、とりわけその通読が多く時間を要する作業であることを考え、自分の論文にとってとりわけ参考になるとされるものがある程度重点的に（たとえば、最初は数点ないし十数点）を選びだす必要があります。その際にも、演習担当教員のアドバイスが貴重な手助けとなるはずで

す。文献、資料の通読にあたっては、論文作成全体のスケジュールを念頭において、その速度（それが限られた時間内で通読できる文献の量をきめる）や、方法（たとえば、ある程度とばし読みしてよい箇所と念入りに読むべき箇所とを区別する、など）について、よく工夫する必要があります。そして、自分の論文にとってとくに関係があると思われる箇所については、すでに通読の過程で、当該箇所のページ数を付記したメモや抜書きを作成しておくようにします。それは、あとの執筆作業にとって、必ず大きな助けとなるでしょう。また、そうしたメモや抜書きに簡単な見出しをつけておくと、あとでそうして書きとめられた多くのメモや抜書きの中から必要なものをすばやく選びだすうえで便利です。

4) 論文骨子の作成

文献、資料の通読、研究を通じて自分の論文の主な内容についてのイメージがある程度はつきりしてくれば、そこで論文全体のおよそのあらすじ、骨子を組み立ててみます。その際には、どの問題、どの論点に論文全体の重点をおくかをはっきりさせ、そうした主要内容をわかりやすく、説得的に展開できるようにするための論文全体の流れをどのように構成すればよいか、よく考える必要があります。いわゆる「起承転結」といった配列や、「序論、本論、結論」といった構成が、たんに論文にそれらしい体裁を与えるためにだけ使われるのではなく、論文の趣旨をもっとも効果的に読者に伝えるために必要とされるのです。

論文の骨組みを具体的に作りあげるためには、論文全体をいくつかの節や小節にわけ、そのそれぞれの名称と内容、分量をどのようなものにするかを決めねばなりません。この意味での構想（節編成）は、その後の執筆の過程で変更を余儀なくされる場合がしばしばあるとはいえ、まとまった分量の論文を執筆する際には、必ずそうした構想（節編成）を事前にたてておくことが前提となります。この構想が緻密、詳細にたてられていればいるほど論文を実際に執筆する作業が容易になることはいうまでもありません。また、少しでも早い時期にこの構想を仕上げようと努めることです。

5) 下書きと推敲

以上のような準備作業が終われば、いよいよ下書きにとりかかります。下書きの段階でもっとも大切なことは、構想全体を念頭において、とにかく一度、デッサン風にでも本論部分全体を書きあげることです。そのうえで、不足していると思われる箇所、もっと強調したい、もっと詳しく説明したいという箇所を書き加えていけばよいのです。

下書きの場合には必ずしも、「前書き」や「序論」から書きはじめる必要はありません。論文全体の対象範囲、意図、方法などを要約的に説明する部分としての「前書き」は、論及しえなかった問題点や今後の研究課題などの説明にあてられることの多い「むすび」や「あとがき」と同様、むしろ論文の主要部分を書きおえてから書いたほうがよいでしょう。そのほか、論文の最初と最

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------|-------|------------|------|------|------|-----------|-----|-----|-------------------------|----------|-------------|---------|----|
| 履修をはじめるにあたって | シラバス | 履修の心得 | 単位制度と単位の認定 | 履修登録 | 成績評価 | 教育課程 | 教育課程の編成方法 | 諸課程 | その他 | 窓口事務係様へ！ 障がい学生支援について | 学修生活の手引き | 授業休止の取り扱い基準 | 学籍の取り扱い | 付録 |
|--------------|------|-------|------------|------|------|------|-----------|-----|-----|-------------------------|----------|-------------|---------|----|

後には、目次と参考文献をつけておくことが望ましいです。

どれほど文筆になれた人の場合でも、はじめからすぐに最終の原稿ができあがることはまれです。ふつうは、誰しも、いく度となく表現を改めたり、順序を入れかえたりしながら最終稿に到達するものです。そうした推敲の過程で、より正確に、よりわかり易く、しかも少しでも簡潔に言わんとするところを伝えるための工夫をこらさねばなりません。友人や演習担当教員に見せて、改善のための意見を乞うこともよいでしょう。自分でくりかえして音読してみることも文章上のまずい点を改めるのに役立ちます。大学生活のよき記念となるような論文を「自分自身の作品」として生み出すためには、それなりの苦勞を惜しんではなりません。そうした推敲が十分終わっていない段階で清書に移ると、しばしば論文の仕上がりが悪くなるだけでなく、かえってより多くの時間がかかってしまうものです。

(3) 卒業論文の仕上げ方

卒業論文を清書して仕上げる際に留意すべき具体的な事項として、次のようなものがあります。

- ① 文体は「である」体を用いて、「ます」体は用いない。
- ② 主語と述語、修飾語と被修飾語とを明確にし、能動態と受動態とを混合してはいけない。文章は、あまり長くならないように注意すると読み易い。
- ③ 誤字・脱字に気をつけるだけでなく、略字・当て字は決して使ってはならない。送り仮名などがわからない時は『国語辞典』を参照すること。
- ④ 原稿の各ページには、必ず通し番号をつけること。
- ⑤ 文章の書き出しや改行の時は1字さげ、表題や見出しは、1字か2字分さげて書く。
- ⑥ 本文中、引用については出典を明示しなければならない。
- ⑦ 引用文は、短い場合には「……」でくくり、資料等の引用で長い場合は、各行のアタマを2字分さげて書く。
- ⑧ 引きつづいて同じ文献から引用する場合には、出典は、上掲書、同上、のように略してよい。
- ⑨ 図および表は、所定の用紙からはみ出さないこと。1ページで書けない場合には2ページ以上にわけて書く。
- ⑩ 図および表にはそれぞれ、図1、表1のように通し番号と表題とをつけ、出拠を図または表の下に明示しておく。

(4) 卒業論文の形式

ワープロ（パソコン）を使って作成する場合

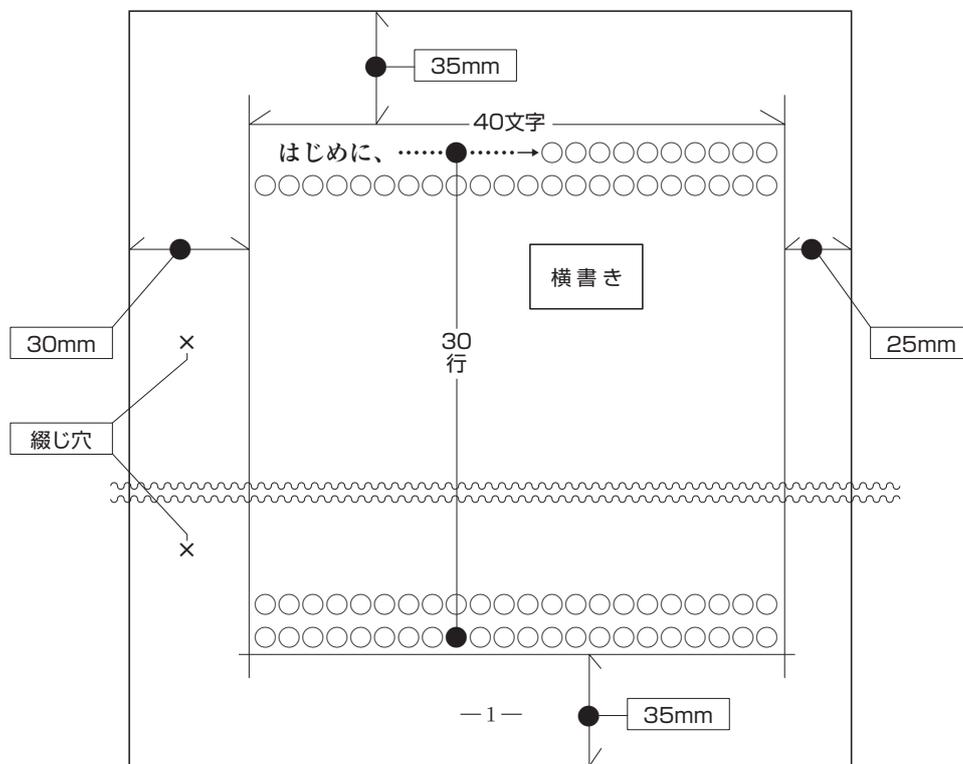
下記の書式等に関する説明を参照の上、作成してください。

- ① 用紙は A4 サイズを使用し、片面（表面）のみ使用すること。
- ② ページの印刷仕様は、横書きで、40 文字× 30 行とし、左綴じとする。（下図参照）
- ③ 基本文字数は 12,000 字（市販 A4 横書き原稿用紙 400 字詰× 30 枚相当）とする。ただし、中表紙、目次、注、参考文献・図・表等は含まない。
- ④ 文字は、原則として 10.5 ポイントの明朝体を使用する。ただし章や節等の見出しについては、明朝体以外の書体も可（ただし、文字の大きさは 10.5 ポイント）。
- ⑤ その他のワープロ付属の各種機能を利用できる技術をもつ場合は積極的に利用し、体裁よく仕上げてください。但し、そうした機能を利用する場合においても、演習担当教員から十分指導を受けた上で作成してください。なお、演習担当教員の許可がない場合は、字数の設定は次ページ記載図の内容を守ってください。余白については、演習担当教員の指導を受け変更する場合においても、文章や図・表等に綴じ穴がかかることがないように注意してください。

その他提出様式について

必ず下欄中央にページ番号を付けてください。

ただし中表紙、目次、参考文献、資料（図表、写真等）は論文本文とは別のページに記載し、これらのページにはページ番号は付けなくてください。図表、写真等の資料を記載する場合は、論文本文の中に図表、写真等挿入するのではなく図表、写真等だけを記載したページを作り、その図表、写真等に関連する本文の次のページに、図表、写真等だけを記載したページを綴じて下さい。



Ⅳ. 他学部開講授業科目の受講について

短期大学部では、学則第13条の3による「他の短期大学等における授業科目の履修単位認定」を龍谷大学文学部、経済学部、経営学部、法学部、政策学部、社会学部との間でおこなっています。修得した単位について16単位までは本学の卒業要件単位（学科専攻科目の選択科目）として認められます。

また、指定校推薦の編入学資格要件として定めている学部があります。

受講希望者は次の事項に注意し、所定の手続きをとってください。

1. 単位の取り扱い 16単位以内を卒業要件単位（学科専攻科目の選択科目）として取り扱います。（他大学受講を含めて）
17単位以上履修した場合は「随意科目」扱いとします。
2. 履修登録方法 Web履修登録画面から定められた期日に登録してください。
3. 注意事項 ① 大宮および瀬田学舎と深草学舎間の連続受講は、第2講時と第3講時の組み合わせを除き認められません。学舎間の移動時間を考慮して登録してください。
② 人数制限のある科目は抽選のうえで許可します。
③ 追・再試験は原則として実施されません。
④ 授業科目に係る休講、教室変更、試験等については当該学部掲示板によるので、各自で注意してください。（試験期間は、短期大学部と他学部とでは異なります。）
⑤ 龍谷大学4年制学部への編入学を希望する学生は、編入学希望学部から指定されている推薦基準や履修推奨事項を確認の上、受講するようにしてください。（とくに指定のない場合でも、編入学希望学部の開講授業科目を積極的に履修することが望ましいです。）
4. 受講申込期間 [2年次生以上]
3月18日（月）9時～26時（翌日の午前2時）まで
19日（火）7時～26時（翌日の午前2時）まで
20日（水）7時～26時（翌日の午前2時）まで
21日（木）7時～26時（翌日の午前2時）まで
22日（金）7時～13時まで
[1年次生]
4月4日（木）16時～26時（翌日の午前2時）まで
5日（金）7時～14時まで
5. 受講許可発表 4月7日（日）12時 Web履修登録画面にて発表
6. 備考 学科専攻科目として開講している科目と同一名の科目については、原則、当該学科所属の学生は履修できません。

<他学部開講授業科目一覧>

文学部関係

| 授業科目名 | | 単位数 | 開講期間 | 曜講時 | 配当年次 | 備考 |
|-------------|------------------|-----|------|-----|-------|--------|
| 真宗学 | 真宗学概論 B1 | 2 | 前期 | 火 4 | 1年次 | 各5名以内 |
| | 真宗学概論 B2 | 2 | 後期 | 火 4 | 1年次 | |
| | 教理学史講読 A1 | 2 | 前期 | 木 4 | 2年次 | |
| | 教理学史講読 A2 | 2 | 後期 | 木 4 | 2年次 | |
| | 教理学史講読 A1 | 2 | 前期 | 金 3 | 2年次 | |
| | 教理学史講読 A2 | 2 | 後期 | 金 3 | 2年次 | |
| | 教義学講読 A1 | 2 | 前期 | 月 3 | 2年次 | |
| | 教義学講読 A2 | 2 | 後期 | 月 3 | 2年次 | |
| | 教伝道学講読 A1 | 2 | 前期 | 水 2 | 2年次 | |
| 教伝道学講読 A2 | 2 | 後期 | 水 2 | 2年次 | | |
| 仏教 | 日本仏教史 A | 2 | 前期 | 月 2 | 2年次 | 各5名以内 |
| | 日本仏教史 B | 2 | 後期 | 月 2 | 2年次 | |
| | インド仏教史 A | 2 | 前期 | 火 2 | 2年次 | |
| | インド仏教史 B | 2 | 後期 | 火 2 | 2年次 | |
| | 仏教美術(イコノロジー)入門 A | 2 | 前期 | 月 4 | 1年次 | |
| | 仏教美術(イコノロジー)入門 B | 2 | 後期 | 月 4 | 1年次 | |
| アジアの仏教と文化 | 2 | 前期 | 月 3 | 1年次 | 各5名以内 | |
| 日本の仏教と文化 | 2 | 後期 | 木 2 | 1年次 | | |
| 哲学専攻 | 哲学講読 G1 | 2 | 前期 | 火 3 | 2年次 | 各5名以内 |
| | 哲学講読 G2 | 2 | 後期 | 火 3 | 2年次 | |
| | 社会学 | 2 | 後期 | 火 2 | 2年次 | |
| 教育学専攻 | 教育学概論 | 4 | 通年 | 火 3 | 2年次 | 各10名以内 |
| | 教育心理学 | 4 | 通年 | 月 3 | 2年次 | |
| 臨床心理学専攻 | 特別支援教育論 | 2 | 後期 | 月 3 | 2年次 | 各10名以内 |
| | 臨床心理学概論 A | 2 | 前期 | 水 1 | 1年次 | |
| 歴史学専攻 | 臨床心理学概論 B | 2 | 後期 | 水 2 | 1年次 | 各10名以内 |
| | 臨床心理学概論 A | 2 | 前期 | 木 2 | 1年次 | |
| | 臨床心理学概論 B | 2 | 後期 | 木 2 | 1年次 | |
| | 臨床心理学概論 A | 2 | 後期 | 木 2 | 1年次 | |
| 歴史学専攻 | 日本史講読 F1 | 2 | 前期 | 火 5 | 2年次 | 各5名以内 |
| | 日本史講読 F2 | 2 | 後期 | 火 5 | 2年次 | |
| | 日本史講読 G1 | 2 | 前期 | 火 3 | 2年次 | |
| | 日本史講読 G2 | 2 | 後期 | 火 3 | 2年次 | |
| 歴史学専攻 | 中国文化史 I | 2 | 前期 | 金 3 | 2年次 | 各5名以内 |
| | 中国文化史 II | 2 | 後期 | 金 3 | 2年次 | |
| 歴史学専攻 | 仏教文化史概論 A | 2 | 前期 | 火 2 | 2年次 | 各5名以内 |
| | 仏教文化史概論 B | 2 | 後期 | 火 2 | 2年次 | |
| | 仏教史入門 A | 2 | 前期 | 水 3 | 1年次 | |
| | 仏教史入門 B | 2 | 後期 | 水 3 | 1年次 | |
| | 考古学(仏教) A | 2 | 前期 | 土 2 | 1年次 | |
| 歴史学専攻 | 考古学(仏教) B | 2 | 後期 | 土 2 | 1年次 | 各5名以内 |
| | 文化遺産学概論 A | 2 | 前期 | 水 2 | 1年次 | |
| | 文化遺産学概論 B | 2 | 後期 | 水 2 | 1年次 | |
| 日本語日本文学 | 文化遺産学概説 | 2 | 通年 | 火 3 | 2年次 | 各5名以内 |
| | 日本文学概論 A | 2 | 前期 | 木 2 | 1年次 | |
| | 日本文学概論 B | 2 | 後期 | 木 2 | 1年次 | |
| | 日本語学概論 A | 2 | 前期 | 水 2 | 1年次 | |
| | 日本語学概論 B | 2 | 後期 | 水 2 | 1年次 | |
| | 古典文学講読(A) A | 2 | 前期 | 月 4 | 2年次 | |
| | 古典文学講読(A) B | 2 | 後期 | 月 4 | 2年次 | |
| | 近代文学講読(C) A | 2 | 前期 | 月 1 | 2年次 | |
| | 近代文学講読(C) B | 2 | 後期 | 月 1 | 2年次 | |
| | 情報出版学講読(B) A | 2 | 前期 | 火 3 | 2年次 | |
| | 情報出版学講読(B) B | 2 | 後期 | 火 3 | 2年次 | |
| 日本語学講読(A) A | 2 | 前期 | 金 3 | 2年次 | | |
| 日本語学講読(A) B | 2 | 後期 | 金 3 | 2年次 | | |
| 英語英米文学 | 英語圏文学概論 A | 2 | 前期 | 土 2 | 1年次 | 各5名以内 |
| | 英語圏文学概論 B | 2 | 後期 | 土 2 | 1年次 | |
| | 英米文化概論 A | 2 | 前期 | 月 4 | 1年次 | |
| | 英米文化概論 B | 2 | 後期 | 月 4 | 1年次 | |
| | 英米語学概論 A | 2 | 前期 | 土 1 | 1年次 | |
| | 英米語学概論 B | 2 | 後期 | 土 1 | 1年次 | |

深草学舎開講

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

教育課程の編成方法

諸課程

その他

窓口事務係様へ！
障がい学生支援について

学修生活の手引き

授業休止の取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

経済学部関係

| 授業科目名 | 単位数 | 開講期間 | 曜講時 | 配当年次 | 備考 | |
|-----------|-----|------|-------|------|--------|---------------|
| マクロ経済学入門Ⅰ | 2 | 前期 | 月・1 | 1年次 | | 2018年度以降入学生対象 |
| マクロ経済学入門Ⅱ | 2 | 後期 | 月・1 | 1年次 | | 2018年度以降入学生対象 |
| ミクロ経済学入門Ⅰ | 2 | 前期 | 木・1 | 1年次 | | 2018年度以降入学生対象 |
| ミクロ経済学入門Ⅱ | 2 | 後期 | 木・1 | 1年次 | | 2018年度以降入学生対象 |
| マクロ経済学入門 | 4 | 前期 | 月、木・5 | 2年次 | 各10名以内 | |
| ミクロ経済学入門 | 4 | 後期 | 月、木・2 | 2年次 | 各10名以内 | |
| 現代と経済 | 2 | 前期 | 水・2 | 1年次 | 各10名以内 | |
| 経済学の技法Ⅰ | 2 | 前期 | 月・4 | 1年次 | 各2名以内 | |
| | | | 火・2 | | | |
| | | | 木・4 | | | |
| 社会経済学入門 | 2 | 前期 | 金・4 | 1年次 | 各10名以内 | |
| | | 後期 | 水・3 | | | |
| 経済学の技法Ⅱ | 2 | 後期 | 月・4 | 1年次 | 各2名以内 | |
| | | | 火・2 | | | |
| | | | 木・4 | | | |
| マクロ経済学 | 4 | 前期 | 月、木・1 | 2年次 | 各10名以内 | |
| マクロ経済学 | | 後期 | 月、木・2 | | | |
| ミクロ経済学 | | 前期 | 月、木・3 | | | |
| ミクロ経済学 | | 後期 | 月、木・3 | | | |

経営学部関係

| | 単位数 | 開講期間 | 曜講時 | 配当年次 | 備考 | |
|-------------|-----|------|-----|------|----|--|
| 現代のビジネス | 2 | 前期 | 火・1 | 1年次 | | |
| 現代のビジネス | 2 | 前期 | 木・2 | 1年次 | | |
| 現代の企業会計 | 2 | 後期 | 木・2 | 1年次 | | |
| 現代の企業情報 | 2 | 後期 | 月・2 | 1年次 | | |
| 経営と情報 | 2 | 前期 | 木・2 | 1年次 | | |
| 経営と情報 | 2 | 前期 | 木・4 | 1年次 | | |
| 簿記入門 | 2 | 前期 | 火・3 | 1年次 | | |
| 簿記入門 | 2 | 前期 | 月・4 | 1年次 | | |
| 簿記入門 | 2 | 前期 | 木・2 | 1年次 | | |
| 現代企業の成り立ち | 2 | 後期 | 金・1 | 2年次 | | |
| 現代社会と企業 | 2 | 後期 | 木・2 | 1年次 | | |
| 経営とコンピュータ利用 | 2 | 後期 | 火・1 | 1年次 | | |
| マーケティングの基礎 | 2 | 後期 | 火・1 | 2年次 | | |
| 企業の国際化 | 2 | 後期 | 水・3 | 2年次 | | |
| 企業経営の管理 | 2 | 後期 | 月・2 | 1年次 | | |
| 日本と世界の経済 | 2 | 後期 | 月・2 | 1年次 | | |
| 初級商業簿記 | 2 | 後期 | 木・3 | 1年次 | | |
| 経営学基礎論 | 2 | 前期 | 金・1 | 2年次 | | |

法学部関係

| 授業科目名 | 単位数 | 開講期間 | 曜講時 | 配当年次 | 備考 | |
|---------|-----|------|-------|------|--------|--|
| 裁判と人権 | 2 | 前期 | 木・1 | 1年次 | 各15名以内 | |
| 法と裁判 | 2 | 前期 | 木・4 | 1年次 | 各15名以内 | |
| 労働と法 | 2 | 後期 | 火・4 | 1年次 | 各15名以内 | |
| 民法Ⅰ - A | 2 | 前期 | 火・4 | 1年次 | 各15名以内 | |
| 日本法制史 A | 2 | 前期 | 金・4 | 2年次 | 各15名以内 | |
| 刑事法入門 | 2 | 前期 | 火・2 | 2年次 | 各15名以内 | |
| 民法Ⅰ - B | 2 | 前期 | 木・2 | 2年次 | 各15名以内 | |
| 現代社会と政治 | 2 | 前期 | 火・2 | 1年次 | 各15名以内 | |
| 現代世界の政治 | 2 | 後期 | 金・2 | 1年次 | 各15名以内 | |
| 憲法Ⅰ | 4 | 後期 | 月、木・4 | 1年次 | 各15名以内 | |

(矯正・保護課程)

| 授業科目名 | 単位数 | 開講期間 | 曜講時 | 配当年次 | 備考 | |
|-------|-----|------|-------|------|----|------|
| 矯正教育学 | 4 | 通年 | 月・3 | 2年次 | | |
| 矯正社会学 | 4 | 通年 | 土・1～2 | 2年次 | | 隔週開講 |

政策学部関係

| 授業科目名 | 単位数 | 開講期間 | 曜講時 | 配当年次 | 備考 |
|-------------|-----|------|-----|------|--------|
| 現代社会の市民性を学ぶ | 2 | 前期 | 月・4 | 1年次 | |
| 持続可能性と共生を学ぶ | 2 | 前期 | 月・1 | 1年次 | |
| 政策学を学ぶ A | 2 | 前期 | 火・2 | 1年次 | 履修推奨科目 |
| 政策学入門(政治学) | 2 | 前期 | 木・1 | 1年次 | |
| 政策学を学ぶ B | 2 | 後期 | 火・2 | 1年次 | 履修推奨科目 |
| 政策学入門(法学) | 2 | 後期 | 月・1 | 1年次 | |
| 政策学入門(経済学) | 2 | 前期 | 金・2 | 1年次 | |

社会学部関係 (瀬田学舎開講)

| 授業科目名 | 単位数 | 開講期間 | 曜講時 | 配当年次 | 備考 |
|------------|-----|------|-----|------|--------|
| 青年社会学 | 2 | 前期 | 水・2 | 2年次 | 瀬田学舎開講 |
| 社会意識論 | 2 | 後期 | 水・2 | 2年次 | |
| 家族社会学 | 2 | 後期 | 月・3 | 2年次 | |
| 性と人権 | 2 | 後期 | 月・2 | 2年次 | |
| 臨床哲学 | 2 | 前期 | 月・2 | 1年次 | |
| 現代ニュース論 I | 2 | 前期 | 火・1 | 1年次 | |
| メディアと倫理 | 2 | 後期 | 月・2 | 1年次 | |
| ファシリテーション論 | 2 | 前期 | 火・4 | 2年次 | |
| コミュニティ論 | 2 | 後期 | 火・4 | 2年次 | |
| 社会人類学 | 2 | 前期 | 水・2 | 2年次 | |
| 文化社会学 | 2 | 前期 | 金・2 | 2年次 | |
| 環境社会学 | 2 | 後期 | 月・3 | 2年次 | |
| 観光社会学 | 2 | 後期 | 火・3 | 2年次 | |
| 消費社会学論 | 2 | 後期 | 月・3 | 2年次 | |
| 社会福祉史 | 2 | 後期 | 水・3 | 1年次 | |
| 社会生活問題論 | 2 | 後期 | 木・2 | 1年次 | |
| 社会貢献論 | 2 | 前期 | 火・2 | 2年次 | |

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

教育課程の編成方法

諸課程

その他

学修生活の手引き

窓口事務係様へ
障がい学生支援について

授業休止の取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

V. ギャップ・セメスター・プログラム

本学部社会福祉学科では、海外での福祉にかかわる社会体験等をとおして、社会福祉に関する知識・技能・価値観や、国際的視点・語学力等の国際関係能力を身につけるとともに、キャンパスから長期間離れ、自己や社会を見つめなおすことにより、現代社会の中で自分らしく豊かに生きていく力としての教養を身につけることをねらいとしたプログラムがあります。

このプログラムは、英国等で普及しているギャップ・イヤー（大学入学前等においてボランティア活動等の社会活動を行い、視野を広げるための猶予期間）を参考にして構築されたものであり、1学期間キャンパスから離れ、社会活動を行いながら視野を広げること等をめざしたプログラムであることから、ギャップ・セメスター・プログラムと呼ばれています。

1. ギャップ・セメスター・プログラムの概要

ギャップ・セメスター・プログラムの概要は次のとおりです。

(1)対象

希望学生

(2)ギャップ・セメスター・プログラムを構成する科目

- ①「社会福祉演習Ⅰ」
- ②「社会福祉実習Ⅰ」
- ③「社会福祉実習指導Ⅰ」
- ④「バークレー語学」(BIE Program 選択者のみ)
- ⑤「バークレー講義」(BIE Program 選択者のみ)
- ⑥「バークレーボランティア」(BIE Program 選択者のみ)

(3)ギャップ・セメスター・プログラムの大まかな流れ

①1年次4月～3月

学内でのオリエンテーション、事前指導（オリエンテーションへの参加、事前学習、活動計画書の提出、個別相談等を含む）

※ ギャップ・セメスター・プログラムに参加を希望する学生は、必ず1年次の6月中旬に担当教員まで申し出てください。

②1年次3月下旬～2年次7月下旬

社会体験プログラム（教員による巡回指導やゼミ担当教員による電子メール等での指導等を含む）

③2年次9月下旬以降

学内での事後指導（報告会での報告、レポート提出等）

表1 ギャップ・セメスター・プログラムの概要

| 科目名等 | 1年次 | | 2年次 | |
|-----------------------------------|--|------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 社会福祉演習 I | | 学内での事前指導 (活動計画書の提出、個別相談等) | 電子メール等での指導等 | |
| 社会福祉実習 I | | | 社会体験プログラム | |
| 社会福祉実習指導 I | | | 巡回指導や電子メール等での指導等 | 学内での事後指導 (報告会での報告、レポート提出等) |
| バークレー語学 バークレー講義 バークレーボランティア | | | RUBeC での講義等 (BIE Program 選択者のみ) | |
| グローバル教育推進センター 等によるプログラム | 学内での事前指導 (オリエンテーションへの参加、事前学習、活動計画書の提出) | | | 学内での事後指導 (留学報告会での報告等) |

2. 社会体験プログラム

ギャップ・セメスター・プログラムを選択する学生は、原則として龍谷大学の教育・研究の海外拠点であるカリフォルニア州バークレーの「Ryukoku University Berkeley Center (RUBeC)」を利用して実施されている英語学習、ボランティア活動(福祉関係のプログラムのみ選択可)、講義を組み合わせた BIE Program の Spring semester program に参加することになります。

※ BIE Program に参加するためには、所定の時期・方法で応募し、選考される必要があるため、BIE Program の説明会には必ず参加するようにするとともに、BIE Program 関係の掲示に十分注意してください。

BIE Program 以外のプログラムを希望する場合は、1年次の7月末までに活動計画書を大学に提出し、提出した活動計画書が認められた場合は、そのプログラムに参加することができます。この場合、次の条件を満たしている必要があります。

- (1) 社会体験プログラムを行う場所は、治安や衛生環境などが安全と判断され、かつインターネットが日常的に利用できる国外の地域であること
- (2) 社会体験プログラムを行う期間は、原則として1年次3月下旬～2年次7月下旬であること
- (3) 福祉関係の活動を滞在期間中に継続的に行うこと
- (4) 福祉関係の活動を行う受入先から受け入れの内諾書が得られていること
- (5) 社会体験プログラムに関するねらい、内容等について活動計画書に明記されていること

3. 成績評価方法

BIE Program 選択者については、「社会福祉実習」(1単位)、「バークレー語学」(最大12単位)、「バークレー講義」(最大2単位)、「バークレーボランティア」(最大4単位)、全体で最大19単位分まで単位認定を行います。

BIE Program 選択者以外については、「社会福祉実習 I」(1単位)の単位認定を行います。

なお、「社会福祉演習 I」(4単位)と「社会福祉実習指導 I」(2単位)の成績評価対象に含めます。

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

教育課程の編成方法

諸課程

その他

学修生活の手引き

窓口事務係様へ！
障がい学生支援について

授業休止の取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

第 3 部 諸課程

1. 教職課程【こども教育学科対象】

教職課程の概要

龍谷大学短期大学部の教職課程は、教員を目指す学生のために設置されたものであり、これまで多くの優秀な人材を教育界に送り出してきたという誇るべき実績を持っています。

教育改革が叫ばれる今日、教員の資質向上が特に大きな課題となっています。そのため本学では、教科等に関する確かな専門的知識を身につけ、その上に、広く豊かな教養、人間の成長・発達についての深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感等を持ち、これらを基盤とした実践的指導力を養成することを目的として教職課程を編成しています。

教員は常に生徒と向き合い、実践的に対応しなければなりません。単なる批判者ではなく、何事にも自主的・主体的・集団的な取組ができる力を身につけてほしいものです。また、積極的・意欲的に教職を目指すとともに、社会的な常識も身につけるよう心がけてください。教職課程の中で教育実習は大きな意味をもちます。教育実習は学校現場で行うので、社会的な責任を負うことにもなります。みなさんが十分に研鑽を積み、実り豊かな教育実習を行い、また、教員採用試験を突破して教壇に立つて欲しいと願っています。

なお、短期大学部の教職課程は、法定最低限度以上の講義を開設しています。また、免許法関係の変更も多く、免許取得の道が複雑にもなっていますので、この履修要項をよく読み、理解することが大切です。

※掲示板には常に注意を

幼稚園免許状教職課程履修者は短期大学部掲示板を常に見るように心がけてください。

また、諸手続や説明会等への参加は厳守してください。無断欠席等の場合、履修できなくなることがあります。

1. 短期大学部において取得できる教育職員免許状の種類

教育職員免許法に基づき、短期大学部が認定を受けている免許状の種類は下記のとおりです。

| 学 科 | 免許状の種類 | 教 科 |
|---------|------------|-----|
| こども教育学科 | 幼稚園教諭二種免許状 | — |

2. 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める法律上の最低修得単位数は、下記のとおりです。そのほかに、『教育職員免許法』第5条および『教育職員免許法施行規則』第66条の6に定める「日本国憲法」2単位、「体育」2単位、「外国語コミュニケーション」2単位、「情報機器の操作」2単位が必要です。

なお、本学の教職課程で免許を取得する為に必要な単位数等については、本学が定める履修基準により、下記の表に記載している科目の区分や単位数とは異なりますので、留意してください。

| 免許状の種類 | 基礎資格 | 最低修得単位数 | | | |
|------------|----------------|----------|----------|--------------|----|
| | | 教科に関する科目 | 教職に関する科目 | 教科又は教職に関する科目 | 合計 |
| 幼稚園教諭二種免許状 | 短期大学士の学位を有すること | 4 | 27 | — | 31 |

履修をはじめ
るにあたって

シラバス

履修の心得
単位制度と
単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程
編成方法
教育課程の

諸課程

その他

窓口事務係
「窓口事務係」
「窓口事務係」

学修生活の手引き
授業休止の
取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

3. 短期大学部で教員免許状を取得するには

短期大学部で下記教員免許状を取得するには、基礎資格を卒業時に充たすことと、次のように単位を修得することが必要です。

| 免許状 | 基礎資格 | 本学における最低修得単位数 | | | | |
|------------|----------------|---------------|----------|----------|-------------|------------|
| | | 66条の6に定める科目 | 教科に関する科目 | 教職に関する科目 | 介護等体験に関する科目 | 大学独自に定める科目 |
| 幼稚園教諭二種免許状 | 短期大学士の学位を有すること | 10 | 4 | 29 | - | 2 仏教の思想 |

4. 幼稚園教諭二種免許状 履修について

(1) 免許法施行規則 66 条の 6 に定める科目

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 左記に対応する開設授業科目 | | 履修要件 |
|-----------------|---------------|-----|------|
| | 授業科目 | 単位数 | |
| 日本国憲法 | 法学（日本国憲法を含む。） | 2 | 必修 |
| 体育 | スポーツ文化 I A | 2 | 必修 |
| | スポーツ文化 I B | 2 | 必修 |
| 外国語コミュニケーション | 英語 I | 2 | 必修 |
| 情報機器の操作 | 情報処理基礎 | 2 | 必修 |

(2) 教科に関する科目

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 左記に対応する開設授業科目 | | 履修要件 |
|---|---------------|-----|--|
| | 授業科目 | 単位数 | |
| 国 語 | 国語* | 1 | *を付した4科目を含め、計4単位以上修得すること。「基礎技能Ⅱ（音楽）」、「基礎技能Ⅲ（音楽）」、「基礎技能Ⅱ（図画工作）」、「基礎技能Ⅱ（図画工作）」、「児童文化」については積極的な履修が望ましい。 |
| 音 楽 | 基礎技能Ⅰ（音楽）* | 1 | |
| | 基礎技能Ⅱ（音楽） | 2 | |
| | 基礎技能Ⅲ（音楽） | 2 | |
| 図画工作 | 基礎技能Ⅰ（図画工作）* | 1 | |
| | 基礎技能Ⅱ（図画工作） | 1 | |
| 体 育 | 基礎技能Ⅰ（体育）* | 1 | |
| これら科目に含まれる内容を合わせた内容に係る科目その他これら科目に準ずる内容の科目 | 児童文化 | 1 | |

(3) 教職に関する科目
 〈2018年度以前入学生〉

| 免許法施行規則に定める科目区分 | | 左記に対応する開設授業科目 | | 履修要件 |
|-----------------|--|---------------|-----|------|
| 科目 | 各科目に含める必要事項 | 授業科目 | 単位数 | |
| 教職に関する意義科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等 | 教職論 | 2 | 必修 |
| 教育に関する基礎理論科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | 教育原理 | 2 | 必修 |
| | | 教育心理学 | 2 | 必修 |
| 教育課程及び指導法に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・保育内容の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | 教育課程総論 | 2 | 必修 |
| | | 保育内容総論 | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ（健康） | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ（人間関係） | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ（環境） | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ（言葉） | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ（表現） | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅱ（表現） | 1 | 必修 |
| 保育内容Ⅱ（言葉） | 1 | 必修 | | |
| 生徒指導、指導等に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 教育相談 | 2 | 必修 |
| | | 教育実習 | 5 | 必修 |
| 教職実践演習 | 保育・教職実践演習（幼稚園） | 2 | 必修 | |

| |
|--------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務健康ゼミ！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

〈2019年度入学生〉

| 免許法施行規則に定める科目区分 | | 左記に対応する開設授業科目 | | 履修要件 |
|--|--|--------------------|-----|------|
| 科目 | 各科目に含める必要事項 | 授業科目 | 単位数 | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | 保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。) | 保育内容総論 | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ(健康) | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ(人間関係) | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ(環境) | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ(言葉) | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅰ(表現) | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅱ(表現) | 1 | 必修 |
| | | 保育内容Ⅱ(言葉) | 1 | 必修 |
| 教育の基礎理論に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 教育原理・社会学 | 2 | 必修 |
| | ・教職の意義及び教育の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) | 教職論 | 2 | 必修 |
| | ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) | | | |
| | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | 教育心理学 | 2 | 必修 |
| | ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | 特別支援保育 | 2 | 必修 |
| ・教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。) | 教育課程総論 | 2 | 必修 | |
| 道徳総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談等に関する科目 | ・教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。) | 教育方法論 | 2 | 必修 |
| | ・幼児理解の理論及び方法 | 幼児理解と教育相談 | 2 | 必修 |
| | ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 | | | |
| 教育実習 | | 教育実習 | 5 | 必修 |
| 教職実践演習 | | 保育・教職実践演習 (幼稚園) | 2 | 必修 |

(4) 「教育実習」の受講資格について

「教育実習」を受講するには、次の条件を充たしていることが必要です。

〈2018年度以前入学生〉

① 春期 ※1年次

以下に掲げる科目を修得済みであること。

- ・授業科目 教職論 2単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（環境） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育内容総論 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 基礎技能Ⅰ（図画工作） 1単位 1年次前期開設

② 秋期 ※2年次

以下に掲げる科目を履修登録時までに修得済みであること。

- ・授業科目 保育内容Ⅰ（健康） 1単位 1年次前期・後期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（言葉） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 教育方法論 2単位 1年次後期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（人間関係） 1単位 1年次前期・後期開設
- ・授業科目 障害児保育 2単位 1年次後期開設
- ・授業科目 基礎技能Ⅰ（音楽） 1単位 1年次前期・前期後期・後期開設

〈2019年度入学生〉

① 春期 ※1年次

以下に掲げる科目を修得済みであること。

- ・授業科目 教職論 2単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（環境） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育内容総論 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 基礎技能Ⅰ（図画工作） 1単位 1年次前期開設

② 秋期 ※2年次

以下に掲げる科目を履修登録時までに修得済みであること。

- ・授業科目 保育内容Ⅰ（健康） 1単位 1年次前期・後期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（言葉） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 教育方法論 2単位 1年次後期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（人間関係） 1単位 1年次前期・後期開設
- ・授業科目 特別支援保育 2単位 1年次後期開設
- ・授業科目 基礎技能Ⅰ（音楽） 1単位 1年次前期・前期後期・後期開設

| |
|---|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き 窓口業務健闘セヨ！ 障がい生支援について 授業休止の取り扱い基準 学籍の取り扱い |
| 付録 |

2. 保育士課程（保育士養成課程定員 135 名）【こども教育学科対象】

本学部のこども教育学科は、保育士資格の取得が可能です。

保育士資格を取得しようとする者は、各学科の卒業要件単位（68 単位）を修得するとともに、児童福祉法施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。〔児童福祉法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号〕

保育士資格取得希望者は 1 年次に「委託費等実費（保育士資格）」を短期大学部教務課窓口に入納してください（金額・納入期日は後日掲示します）。

■ 電子ピアノ教室の使用方法等について

1. 使用対象者

- (1) 基礎技能 I・II・III（音楽）、および保育内容 I・II（表現）の履修者
 - (2) 本学短期大学部こども教育学科在籍者の保育士資格取得希望者
 - (3) 本学短期大学部こども教育学科在籍者の幼稚園教諭二種免許状取得希望者
- 課外活動・個人の趣味での使用は認めません。

2. 使用時間帯

- (1) 授業のおこなわれない時間帯
 - (2) 月曜日から金曜日の午前 9 時～午後 6 時、土曜日の午前 9 時～午後 3 時とします。
(火曜日のみ、午前 10 時 30 分～午後 6 時となります。)
- ただし、夏・冬・春休み等授業の行われない期間については午前 9 時～午後 4 時までとします。
- (3) 一回の使用時間は原則として 90 分以内とします。

3. 使用方法

- (1) 使用者は短期大学部実習指導室で使用台帳に必要事項を記入の上、「ピアノ室の鍵」を受取ります。鍵の貸し出し受付は、午後 5 時 15 分までとします。土曜日については、基礎技能 I（音楽）担当教員に申し出て下さい。
- (2) 使用後は短期大学部実習指導室へ鍵を返却します。
なお、ピアノ室を最後に退室するものは、ピアノ室を施錠して鍵をすみやかに短期大学部実習指導室まで返却してください。
返却時間が午後 5 時 15 分以降となる場合は、鍵を紫英館受付（守衛室）へ返却してください。
- (3) ピアノ室内外に私物を放置しないでください。一定期間経過後処分することがあります。

★ ピアノ教室の鍵を持ったまま食事等、行方不明になる学生が時々います。他の利用者の迷惑になりますので、注意してください。

〈2018年度以前入学生〉

1. 「保育実習Ⅰ（保育所）」・「保育実習Ⅰ（施設）」・「保育実習Ⅱ」・「保育実習Ⅲ」の受講資格について

これらの保育実習を受講するには、次の条件を充たしていることが必要です。

①「保育実習Ⅰ（保育所）」（1年次春期休暇期間中）

以下に掲げる科目を修得済みであること。

- ・授業科目 社会福祉概論 2単位 2019年度休講
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（環境） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育実習指導Ⅰ 2単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育原理Ⅰ 2単位 1年次前期開設
- ・授業科目 基礎技能Ⅰ（図画工作） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育内容総論 1単位 1年次前期開設

なお、保育実習指導Ⅱ（1年次後期開設）は実習指導の授業科目であるため、1年次後期授業15回中、12回（5分の4）以上出席していることが必要です。

②「保育実習Ⅰ（施設）」・「保育実習Ⅱ」・「保育実習Ⅲ」（2年次）

以下に掲げる科目を修得済みであること。

- ・授業科目 社会的養護 2単位 1年次後期開設
- ・授業科目 小児保健 4単位 2019年度休講
- ・授業科目 小児保健演習 1単位 2019年度休講
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（健康） 1単位 1年次前期・後期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（言葉） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（人間関係） 1単位 1年次前期・後期開設
- ・授業科目 発達心理学Ⅰ 2単位 2019年度休講
- ・授業科目 障害児保育 2単位 2019年度休講

なお、保育実習指導Ⅲ（2年次前期開設）は実習指導の授業科目であるため、2年次前期授業15回中、12回（5分の4）以上出席していることが必要です。

2. 保育士資格取得に必要な単位数

本学こども教育学科で保育士資格を取得するには、卒業要件単位（68単位）を修得するとともに、以下のとおり定められた単位を修得する必要があります。

| 厚生労働省告示278号による修業教科目・単位数 | | | 左記に対応する本学こども教育学科開講の科目 | | | | 履修要件 | |
|-----------------------------------|----------------------|-------------------------|-----------------------|--------------|-----------|----|---|----|
| 系列 | 教科目 | 単位数 | 授業科目 | 開講期間 | 配当年次(単位数) | | | |
| | | | | | 1年 | 2年 | | |
| 教養科目 | 外国語、体育以外の科目 (-) | 6単位以上 | 仏教の思想（講義） | 通年 | 4 | | 必修 | |
| | | | 情報処理基礎（講義） | 半年 | 2 | | 必修 | |
| | 外国語 | (演習) | 2単位以上 | 英語Ⅰ（演習） | 通年 | 2 | | 必修 |
| | 体育 | (講義) | 1単位 | スポーツ文化ⅠA（講義） | 半年 | 2 | | 必修 |
| (実技) | | 1単位 | スポーツ文化ⅠB（実技） | 通年 | 2 | | 必修 | |
| 保育士養成課程（必修科目） 〈告示別表第1による教科目〉 | | 51単位 | 表1（必修科目）に記載 | | 51単位 | | 必修 | |
| 保育士養成課程（選択必修科目） 〈告示別表第2による教科目〉 | | 18単位以上 (うち保育実習3単位以上) | 表2（選択必修科目）に記載 | | 24単位 | | 「保育実習指導Ⅱ」（必修）、「保育実習指導Ⅲ」（必修）及び「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」のいずれか（選択必修）を含め、9単位以上履修すること。 | |

履修をはじめ
るにあたって
シラバス
履修の心得
単位制度と
単位の認定
履修登録
成績評価
教育課程
教育課程の
編成方法
諸課程
その他
学籍の取り扱い
学修生活の手引き
付録

表 1(必修科目) 下記の本学部開講の科目をすべて履修すること。

| 所定の教科目 | | | 本学部開講の科目 | | | | 備 考 |
|-------------------|--------------|---------|-----------------|------|-----------|-----|-----|
| 系列 | 教 科 目 | 単位数 | 授 業 科 目 | 開講期間 | 配当年次(単位数) | | |
| | | | | | 1 年 | 2 年 | |
| 保育の本質・目的の理解に関する科目 | 保育原理 講義 | 2 | 保育原理 I | 半年 | 2 | | |
| | 教育原理 講義 | 2 | 教育原理 | 半年 | | 2 | |
| | 児童家庭福祉 講義 | 2 | 児童家庭福祉 | 半年 | | 2 | |
| | 社会福祉 講義 | 2 | 社会福祉概論 | 半年 | 2 | | |
| | 相談援助 演習 | 1 | 臨床心理学 | 通年 | | 1/3 | |
| | 社会的養護 講義 | 2 | 社会的養護 | 半年 | 2 | | |
| 保育の対象の理解に関する科目 | 保育者論 講義 | 2 | 教職論 | 半年 | 2 | | |
| | 保育の心理学 I 講義 | 2 | 発達心理学 I | 半年 | 2 | | |
| | 保育の心理学 II 演習 | 1 | 臨床心理学 | 通年 | | 1/3 | |
| | 子どもの保健 I 講義 | 4 | 小児保健 | 通年 | 4 | | |
| | 子どもの保健 II 演習 | 1 | 小児保健演習 | 半年 | 1 | | |
| | 子どもの食と栄養 演習 | 2 | 小児栄養 | 半年 | | 2 | |
| 保育の内容・方法の理解に関する科目 | 家庭支援論 講義 | 2 | 家族援助論 | 半年 | | 2 | |
| | 保育課程論 講義 | 2 | 教育課程総論 | 半年 | | 2 | |
| | 保育内容総論 演習 | 1 | 保育内容総論 | 半年 | 1 | | |
| | 保育内容演習 演習 | 5 | 保育内容 I (健康) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 I (人間関係) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 I (環境) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 I (言葉) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 I (表現) | 半年 | | 1 | |
| | 乳児保育 演習 | 2 | 乳児保育 | 半年 | | 2 | |
| | 障害児保育 演習 | 2 | 障害児保育 | 半年 | 2 | | |
| 社会的養護内容 演習 | 1 | 社会的養護内容 | 半年 | | 1 | | |
| 保育相談支援 演習 | 1 | 臨床心理学 | 通年 | | 1/3 | | |
| 保育の表現技術 | 保育の表現技術 演習 | 4 | 基礎技能 I (音楽) | 半年 | 1 | | |
| | | | 基礎技能 I (図画工作) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 II (表現) | 半年 | | 1 | |
| | | | 児童文化 | 半年 | 1 | | |
| 保育実習 | 保育実習 I 実習 | 4 | 保育実習 I (保育所) | 半年 | 2 | | |
| | | | 保育実習 I (施設) | 半年 | | 2 | |
| | 保育実習指導 I 演習 | 2 | 保育実習指導 I | 半年 | 2 | | |
| 総合実習 | 保育実践演習 演習 | 2 | 保育・教職実践演習 (幼稚園) | 半年 | | 2 | |
| 合 計 | | 51 | 合 計 | | 29 | 22 | |

注) 1/3 は保育士資格のための科目としては 1 単位として取り扱う。

表2 (選択必修科目) 「保育実習指導Ⅱ」(必修)、「保育実習指導Ⅲ」(必修)及び「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」のいずれか(選択必修)を含め、9単位以上履修すること。

| 所定の教科目 | | | 本学部開講の科目 | | | | 備考 | |
|-------------------|----------------|----------|-------------|---------|-----------|----|----------|---|
| 系列 | 教科目 | 単位数 | 授業科目 | 開講期間 | 配当年次(単位数) | | | |
| | | | | | 1年 | 2年 | | |
| 保育の理解の本質・目的の科目 | 保育原理Ⅱ 講義 | 15 以上 | 保育原理Ⅱ | 半年 | | 2 | | |
| | 保育と人権 講義 | | 保育と人権 | 半年 | 2 | | | |
| | | | | | | | | |
| 保育の理解の対象の科目 | 発達心理学Ⅱ 講義 | | 発達心理学Ⅱ | 半年 | | 2 | 2019年度休講 | |
| | 教育心理学 講義 | | 教育心理学 | 半年 | | 2 | | |
| | | | | | | | | |
| 保育の内容・方法の理解に関する科目 | 保育内容Ⅱ(言葉) 演習 | | 保育内容Ⅱ(言葉) | 半年 | | 1 | | |
| | 家庭管理 講義 | | 家庭管理 | 半年 | | 2 | | |
| | 宗教教育 講義 | | 宗教教育 | 半年 | 2 | | | |
| | | | | | | | | |
| 保育の表現技術 | 基礎技能Ⅱ(音楽) 演習 | | 基礎技能Ⅱ(音楽) | 半年 | | 2 | | |
| | 基礎技能Ⅱ(図画工作) 演習 | | 基礎技能Ⅱ(図画工作) | 半年 | 1 | | | |
| | 基礎技能Ⅲ(音楽) 演習 | | 基礎技能Ⅲ(音楽) | 半年 | | 2 | | |
| 保育実習 | 保育実習Ⅱ 実習 | | 2 | 保育実習Ⅱ | 通年 | | 2 | 「保育実習指導Ⅱ」(必修)、「保育実習指導Ⅲ」(必修)及び「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」のいずれか選択必修 |
| | 保育実習指導Ⅱ 演習 | | 1 | 保育実習指導Ⅱ | 半年 | 1 | | |
| | 保育実習Ⅲ 実習 | 2 | 保育実習Ⅲ | 通年 | | 2 | | |
| | 保育実習指導Ⅲ 演習 | 1 | 保育実習指導Ⅲ | 半年 | | 1 | | |
| 合計 | | 18単位以上 | 合計 | | 24単位 | | | |

| |
|------------------------------------|
| 履修をはじめ るにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 単位制度と 単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 編成方法 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き 窓口事務係様へ 障がい学生支援について |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

〈2019年度入学生〉

1. 「保育実習Ⅰ（保育所）」・「保育実習Ⅰ（施設）」・「保育実習Ⅱ」・「保育実習Ⅲ」の
受講資格について

これらの保育実習を受講するには、次の条件を充たしていることが必要です。

①「保育実習Ⅰ（保育所）」（1年次春期休暇期間中）

以下に掲げる科目を修得済みであること。

- ・授業科目 保育内容Ⅰ（環境） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育実習指導Ⅰ 2単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育原理Ⅰ 2単位 1年次前期開設
- ・授業科目 基礎技能Ⅰ（図画工作） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育内容総論 1単位 1年次前期開設

なお、保育実習指導Ⅱ（1年次後期開設）は実習指導の授業科目であるため、1年次後期授業15回中、12回（5分の4）以上出席していることが必要です。

②「保育実習Ⅰ（施設）」・「保育実習Ⅱ」・「保育実習Ⅲ」（2年次）

以下に掲げる科目を修得済みであること。

- ・授業科目 社会福祉 2単位 1年次後期開設
- ・授業科目 社会的養護 2単位 1年次後期開設
- ・授業科目 子どもの保健 2単位 1年次前期開設
- ・授業科目 子どもの健康と安全 1単位 1年次後期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（健康） 1単位 1年次前期・後期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（言葉） 1単位 1年次前期開設
- ・授業科目 保育内容Ⅰ（人間関係） 1単位 1年次前期・後期開設
- ・授業科目 保育の心理学Ⅰ 2単位 1年次後期開設
- ・授業科目 特別支援保育 2単位 1年次後期開設

なお、保育実習指導Ⅲ（2年次前期開設）は実習指導の授業科目であるため、2年次前期授業15回中、12回（5分の4）以上出席していることが必要です。

2. 保育士資格取得に必要な単位数

本学こども教育学科で保育士資格を取得するには、卒業要件単位（68単位）を修得するとともに、以下のとおり定められた単位を修得する必要があります。

| 厚生労働省告示278号による修業教科目・単位数 | | | 左記に対応する本学こども教育学科開講の科目 | | | | 履修要件 | | | |
|-----------------------------------|-------------|-------------------------|-----------------------|------------|-----------|---|--------------|----|---|----|
| 系列 | 教科目 | 単位数 | 授業科目 | 開講期間 | 配当年次(単位数) | | | | | |
| | | | | | 1年 | 2年 | | | | |
| 教養科目 | 外国語、体育以外の科目 | (-) | 6単位以上 | 仏教の思想（講義） | 通年 | 4 | | 必修 | | |
| | | | | 情報処理基礎（講義） | 半年 | 2 | | 必修 | | |
| | 外国語 | (演習) | 2単位以上 | 英語Ⅰ（演習） | 通年 | 2 | | 必修 | | |
| | | | | 体育 | (講義) | 1単位 | スポーツ文化ⅠA（講義） | 半年 | 2 | 必修 |
| | | | | | (実技) | 1単位 | スポーツ文化ⅠB（実技） | 通年 | 2 | 必修 |
| 保育士養成課程（必修科目） 〈告示別表第1による教科目〉 | | 51単位 | 表1（必修科目）に記載 | | 51単位 | 必修 | | | | |
| 保育士養成課程（選択必修科目） 〈告示別表第2による教科目〉 | | 18単位以上 (うち保育実習3単位以上) | 表2（選択必修科目）に記載 | | 24単位 | 「保育実習指導Ⅱ」（必修）、「保育実習指導Ⅲ」（必修）及び「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」のいずれか（選択必修）を含め、9単位以上履修すること。 | | | | |

表 1 (必修科目) 下記の本学部開講の科目をすべて履修すること。

| 所定の教科目 | | | 本学部開講の科目 | | | | 備 考 |
|----------------|----------------|----------|-----------------|------|-----------|-----|-----|
| 系列 | 教 科 目 | 単位数 | 授 業 科 目 | 開講期間 | 配当年次(単位数) | | |
| | | | | | 1 年 | 2 年 | |
| 保育の本質・目的に関する科目 | 保育原理 講義 | 2 | 保育原理 I | 半年 | 2 | | |
| | 教育原理 講義 | 2 | 教育原理・社会学 | 半年 | | 2 | |
| | 子ども家庭福祉 講義 | 2 | 子ども家庭福祉 | 半年 | | 2 | |
| | 社会福祉 講義 | 2 | 社会福祉 | 半年 | 2 | | |
| | 子ども家庭支援論 講義 | 2 | 子ども家庭支援論 | 通年 | | 2 | |
| | 社会的養護 I 講義 | 2 | 社会的養護 I | 半年 | 2 | | |
| | 保育者論 講義 | 2 | 教職論 | 半年 | 2 | | |
| 理解に関する対象の科目 | 保育の心理学 講義 | 2 | 保育の心理学 I | 半年 | 2 | | |
| | 子ども家庭支援の心理学 講義 | 2 | 子ども家庭支援の心理学 | 通年 | | 2 | |
| | 子どもの理解と援助 演習 | 1 | 子どもの理解と援助 | 通年 | 1 | | |
| | 子どもの保健 講義 | 2 | 子どもの保健 | 半年 | 2 | | |
| | 子どもの食と栄養 演習 | 2 | 子どもの食と栄養 | 通年 | | 2 | |
| 保育の内容・方法に関する科目 | 保育の計画と評価 講義 | 2 | 教育課程総論 | 半年 | | 2 | |
| | 保育内容総論 演習 | 1 | 保育内容総論 | 半年 | 1 | | |
| | 保育内容演習 演習 | 5 | 保育内容 I (健康) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 I (人間関係) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 I (環境) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 I (言葉) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 I (表現) | 半年 | | 1 | |
| | 保育内容の理解と方法 演習 | 4 | 基礎技能 I (音楽) | 半年 | 1 | | |
| | | | 基礎技能 I (図画工作) | 半年 | 1 | | |
| | | | 保育内容 II (表現) | 半年 | | 1 | |
| | | | 児童文化 | 半年 | 1 | | |
| | 乳児保育 I 講義 | 2 | 乳児保育 I | 半年 | | 2 | |
| | 乳児保育 II 演習 | 1 | 乳児保育 II | 半年 | | 1 | |
| | 子どもの健康と安全 演習 | 1 | 子どもの健康と安全 | 半年 | 1 | | |
| 障害児保育 演習 | 2 | 特別支援保育 | 半年 | 2 | | | |
| 社会的養護 II 演習 | 1 | 社会的養護 II | 半年 | | 1 | | |
| 子育て支援 演習 | 1 | 子育て支援 | 通年 | | 1 | | |
| 保育実習 | 保育実習 I 実習 | 4 | 保育実習 I (保育所) | 半年 | 2 | | |
| | | | 保育実習 I (施設) | 半年 | | 2 | |
| | 保育実習指導 I 演習 | 2 | 保育実習指導 I | 半年 | 2 | | |
| 総合実習 | 保育実践演習 演習 | 2 | 保育・教職実践演習 (幼稚園) | 半年 | | 2 | |
| 合 計 | | 51 | 合 計 | | 28 | 23 | |

| |
|--------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口業務センター！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

表2 (選択必修科目) 「保育実習指導Ⅱ」(必修)、「保育実習指導Ⅲ」(必修)及び「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」のいずれか(選択必修)を含め、9単位以上履修すること。

| 所定の教科目 | | | 本学部開講の科目 | | | | 備 考 | |
|----------------|----------------|----------|-------------|---------|-----------|----|----------|---|
| 系列 | 教 科 目 | 単位数 | 授 業 科 目 | 開講期間 | 配当年次(単位数) | | | |
| | | | | | 1年 | 2年 | | |
| 保育の本質・目的に関する科目 | 保育原理Ⅱ 講義 | 15 以上 | 保育原理Ⅱ | 半年 | | 2 | | |
| | 保育と人権 講義 | | 保育と人権 | 半年 | 2 | | | |
| | | | | | | | | |
| 保育の理解の対象の理 | 保育の心理学Ⅱ 講義 | | 保育の心理学Ⅱ | 半年 | | 2 | 2019年度休講 | |
| | 教育心理学 講義 | | 教育心理学 | 半年 | | 2 | | |
| | | | | | | | | |
| 保育の内容・方法に関する科目 | 保育内容Ⅱ(言葉) 演習 | | 保育内容Ⅱ(言葉) | 半年 | | | 1 | |
| | 基礎技能Ⅱ(音楽) 演習 | | 基礎技能Ⅱ(音楽) | 半年 | | | 2 | |
| | 基礎技能Ⅱ(図画工作) 演習 | | 基礎技能Ⅱ(図画工作) | 半年 | | 1 | | |
| | 基礎技能Ⅲ(音楽) 演習 | | 基礎技能Ⅲ(音楽) | 半年 | | | 2 | |
| | 家庭管理 講義 | | 家庭管理 | 半年 | | | 2 | |
| | 宗教教育 講義 | | 宗教教育 | 半年 | | 2 | | |
| | | | | | | | | |
| 保育実習 | 保育実習Ⅱ 実習 | | 2 | 保育実習Ⅱ | 通年 | | 2 | 「保育実習指導Ⅱ」(必修)、「保育実習指導Ⅲ」(必修)及び「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」のいずれか選択必修 |
| | 保育実習指導Ⅱ 演習 | | 1 | 保育実習指導Ⅱ | 半年 | 1 | | |
| | 保育実習Ⅲ 実習 | 2 | 保育実習Ⅲ | 通年 | | 2 | | |
| | 保育実習指導Ⅲ 演習 | 1 | 保育実習指導Ⅲ | 半年 | | 1 | | |
| 合 計 | | 18単位以上 | 合 計 | | 24単位 | | | |

3. 社会福祉士養成課程 (社会福祉士国家試験受験基礎資格課程 定員 40 名) 【社会福祉学科対象】

(1) 社会福祉士の職務

社会福祉士は、身体上もしくは精神上の障害があること、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に、専門的知識及び技術をもって応じ、助言、指導、福祉サービス関係者等との連絡及び調整その他の援助を行うことを職務とします。

(2) 社会福祉士の資格の取得

社会福祉士となる資格を得るには、本学部において、社会福祉士国家試験を受験するために必要である厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の単位を修得し、所定の施設において2年間の実務経験を経たのち社会福祉士国家試験に合格しなければなりません。また、社会福祉士の資格を取得した者は、指定登録機関における社会福祉士登録簿に登録する必要があります。

(3) 文部科学省令・厚生労働省令で定める社会福祉士に関する科目、及び本学部でのそれに該当する科目と単位の表は、次頁の通りです。

(4) 社会福祉士養成課程の履修希望者は、原則として、次表の科目の必修科目（1年次配当）を1年次に修得しておいてください。

(5) 本学部における養成課程を受講できるものは、本学部社会福祉学科学生に限ります。しかし、下記の表における「指定科目」については、正規の手続きを経た者に限ってこれを科目等履修することができます。ただし、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「ソーシャルワーク現場実習Ⅰ・Ⅱ」並びに「ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ・Ⅱ」の受講は本学部社会福祉学科在学生に限ります。それ以外の者は、原則として受講できません。

(6) 社会福祉士養成課程を受講する者は、卒業のための選択必修科目である「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク現場実習Ⅰ」並びに「ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ」の履修に加えて、「ソーシャルワーク演習Ⅲ」、「ソーシャルワーク現場実習Ⅱ」並びに「ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ」を履修しなければなりません。

「ソーシャルワーク演習Ⅲ」、「ソーシャルワーク現場実習Ⅱ」並びに「ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ」は2年次配当であり、「ソーシャルワーク現場実習Ⅱ」の履修に際しては、必ずこれらの科目を受講しなければなりません。

「ソーシャルワーク現場実習Ⅱ」は、社会福祉機関・施設の実地について実地に学習するものです。実習は7月末（5泊6日）及び12月末（8泊9日）に実施します。実習先については、学校の指定する施設において実施することを原則とし、実習に際しては、特別実習費として、一定額の費用を徴収することとします。

| |
|-------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編成方法 |
| 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務係様へ！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

| 指定科目等名 | 本学部開講の科目 | 時間数 | 配当年次(単位数) | | 履修方法 |
|-------------------------|-----------------|-----|-----------|----|-------------|
| | | | 1年 | 2年 | |
| 人体の構造と機能及び疾病 ★ | 医学概論 | 30 | 2 | | 必修※ |
| 心理学理論と心理的支援 ★ | 心理学 | 30 | 2 | | 必修※ |
| | 臨床心理学 | 60 | | 4 | 2科目必修※ |
| | 発達心理学 | 30 | 2 | | |
| 社会理論と社会システム ★ | 社会学 | 60 | 4 | | 必修※ |
| 現代社会と福祉 | 社会福祉原論 | 60 | 4 | | 必修 |
| 社会調査の基礎 ★ | 社会福祉調査論 | 30 | 2 | | 必修 |
| 相談援助の基盤と専門職 ★ | 社会福祉援助技術総論 | 60 | 4 | | 必修 |
| 相談援助の理論と方法 | 社会福祉援助技術Ⅰ | 60 | | 4 | 必修 |
| | 社会福祉援助技術Ⅱ | 60 | | 4 | 必修 |
| 地域福祉の理論と方法 | 地域福祉論 | 30 | | 2 | 必修 |
| 福祉行財政と福祉計画 ★ | 福祉行財政と福祉計画 | 30 | 2 | | 必修 |
| 福祉サービスの組織と経営 ★ | 福祉サービスの組織と経営 | 60 | | 4 | 必修 |
| 社会保障 ★ | 社会保障論 | 60 | 4 | | 必修 |
| 高齢者に対する支援と介護保険制度 ★ | 高齢者福祉論 | 60 | | 4 | 必修 |
| | 介護概論 | 60 | 4 | | 必修 |
| 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ★ | 障害者福祉論 | 60 | | 4 | 必修 |
| 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 ★ | 児童福祉論 | 60 | | 4 | 必修 |
| 低所得者に対する支援と生活保護制度 ★ | 公的扶助論 | 30 | | 2 | 必修 |
| 保健医療サービス ★ | 保健医療サービス | 30 | | 2 | 必修 |
| 就労支援サービス ★ | 就労支援サービス | 30 | | 2 | 1科目以上 必修 |
| 権利擁護と成年後見制度 ★ | 権利擁護と成年後見制度 | 30 | | 2 | |
| 更生保護制度 ★ | 更生保護制度 | 30 | | 2 | |
| 相談援助演習 | ソーシャルワーク演習Ⅰ | 60 | ④ | ④ | 必修 |
| | ソーシャルワーク演習Ⅱ | 30 | | 2 | 必修 |
| | ソーシャルワーク演習Ⅲ | 60 | | 4 | 必修 |
| 相談援助実習指導 | ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ | 60 | 4 | | 必修 |
| | ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ | 60 | | 4 | 必修 |
| 相談援助実習 | ソーシャルワーク現場実習Ⅰ | 90 | | 2 | 必修 |
| | ソーシャルワーク現場実習Ⅱ | 90 | | 2 | 必修 |
| 計 76 単位 (最低単位数) | | | | | |

★印は社会福祉に関する基礎科目（平成20年文部科学省・厚生労働省令第3号）

※ 医学概論、心理学、社会学のいずれか1科目、あるいは臨床心理学と発達心理学の2科目必修

【参考資料】

■社会福祉士国家試験の概要

○形態

年1回の筆記試験（1月の下旬に実施）

○実施機関（問い合わせ先）

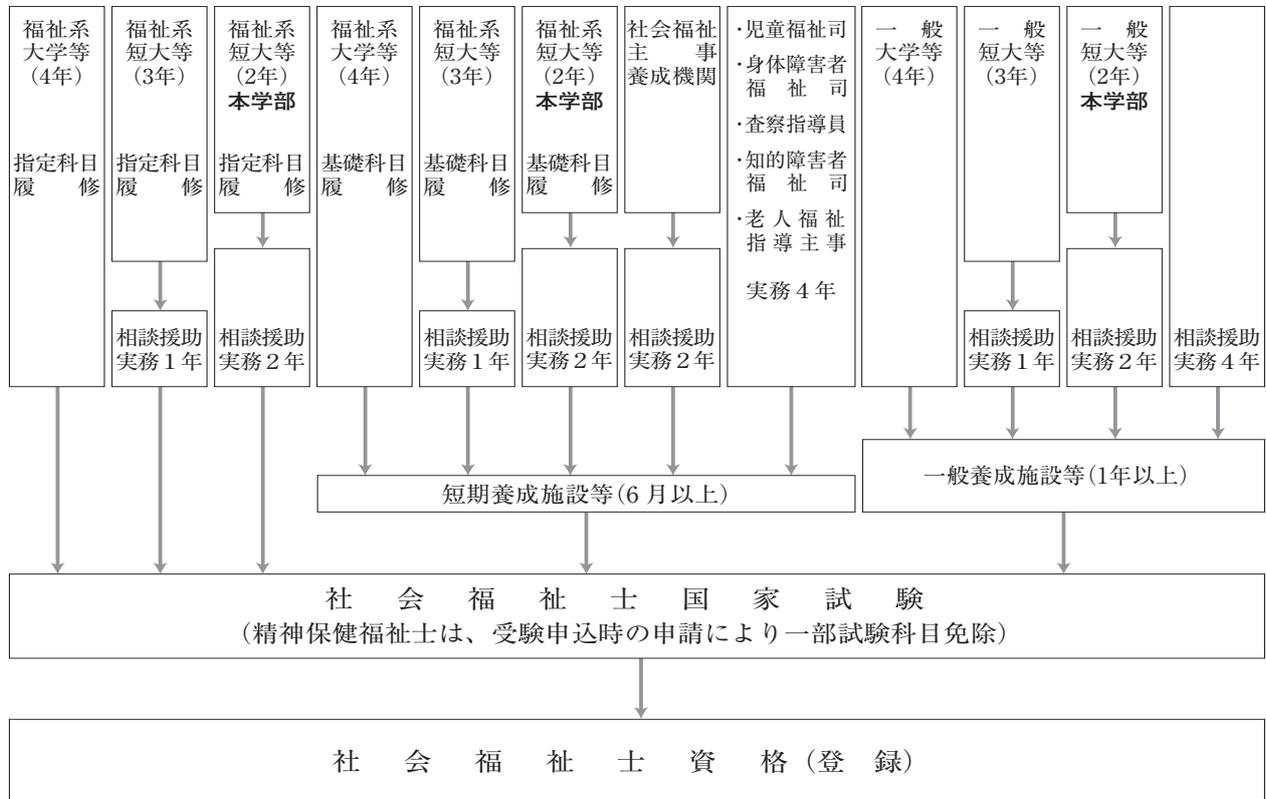
（財）社会福祉振興・試験センター（厚生労働大臣の指定）

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 TEL：03-3486-7521

HP：http://www.sssc.or.jp/

■社会福祉士資格取得ルート図

次のいずれかに該当する方は、受験資格があります。



4. 社会福祉主事任用資格の指定科目

社会福祉主事任用資格

社会福祉主事とは、福祉に関する事務所などで、生活保護法、児童福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法および知的障害者福祉法に定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務とします。

任用資格とは、その資格を保持しているだけでは資格として認められない資格のことで、職務に採用されてはじめて資格として生かされるものです。都道府県市町村の行政職や福祉職などの公務員資格に合格し、福祉事務所などでケースワーカーとして採用される際の受験資格となる場合や、社会福祉施設や病院などで採用された際に活用できる場合があります。

履修をはじめ
るにあたって
シラバス
履修の心得
単位制度と
単位の認定
履修登録
成績評価
教育課程
編成方法の
教育課程
諸課程
その他
窓口事務
簿記
学修生活の手引き
授業休止の
取り扱い基準
学籍の取り扱い
付録

〈社会福祉学科 2018 年度以降入学生適用〉

次表の科目中、3 科目以上取得してください。

社会福祉法第 19 条第 1 項第 1 号の規定による社会福祉に関する科目

| 指定科目名 | 社会福祉学科の開講科目 | 区 分 |
|------------|--------------|-------|
| 社会福祉概論 | 社会福祉原論 | 専攻・必修 |
| 社会福祉事業史 | — | — |
| 社会福祉援助技術論 | 社会福祉援助技術総論 | 専攻・必修 |
| 社会福祉調査論 | 社会福祉調査論 | 専攻・選択 |
| 社会福祉施設経営論 | 福祉サービスの組織と経営 | 専攻・選択 |
| 社会福祉行政論 | 福祉行財政と福祉計画 | 専攻・選択 |
| 社会保障論 | 社会保障論 | 専攻・選択 |
| 公的扶助論 | 公的扶助論 | 専攻・選択 |
| 児童福祉論 | 児童福祉論 | 専攻・選択 |
| 家庭福祉論 | — | — |
| 保育理論 | — | — |
| 身体障害者福祉論 | — | — |
| 知的障害者福祉論 | — | — |
| 精神障害者保健福祉論 | 精神保健 | 専攻・選択 |
| 老人福祉論 | 高齢者福祉論 | 専攻・選択 |
| 医療社会事業論 | — | — |
| 地域福祉論 | 地域福祉論 | 専攻・選択 |
| 法 学 | — | — |
| 民 法 | 民 法 | 専攻・選択 |
| 行 政 法 | — | — |
| 経 済 学 | — | — |
| 社 会 政 策 | — | — |
| 経 済 政 策 | — | — |
| 心 理 学 | 心理学 | 共通・選択 |
| 社 会 学 | 社会学 | 共通・選択 |
| 教 育 学 | — | — |
| 倫 理 学 | — | — |
| 公衆衛生学 | — | — |
| 医学一般 | 医学概論 | 専攻・選択 |
| リハビリテーション論 | リハビリテーション概論 | 専攻・選択 |
| 看 護 学 | — | — |
| 介 護 概 論 | 介護概論 | 専攻・選択 |
| 栄 養 学 | — | — |
| 家 政 学 | — | — |

〈こども教育学科 2018 年度以前入学生適用〉
次表の科目中、3 科目以上取得してください。

社会福祉法第 19 条第 1 項第 1 号の規定による社会福祉に関する科目

| 指定科目名 | こども教育学科の開講科目 | 区 分 |
|------------|--------------|-------|
| 社会福祉概論 | 社会福祉概論 | 専攻・必修 |
| 社会福祉事業史 | — | — |
| 社会福祉援助技術論 | — | — |
| 社会福祉調査論 | — | — |
| 社会福祉施設経営論 | — | — |
| 社会福祉行政論 | — | — |
| 社会保障論 | — | — |
| 公的扶助論 | — | — |
| 児童福祉論 | 児童家庭福祉 | 専攻・必修 |
| 家庭福祉論 | 家族援助論 | 専攻・選択 |
| 保 育 理 論 | — | — |
| 身体障害者福祉論 | — | — |
| 知的障害者福祉論 | — | — |
| 精神障害者保健福祉論 | 精神保健 | 専攻・選択 |
| 老人福祉論 | — | — |
| 医療社会事業論 | — | — |
| 地域福祉論 | — | — |
| 法 学 | — | — |
| 民 法 | — | — |
| 行 政 法 | — | — |
| 経 済 学 | — | — |
| 社会政策 | — | — |
| 経済政策 | — | — |
| 心 理 学 | 心理学 | 共通・選択 |
| 社 会 学 | 社会学 | 共通・選択 |
| 教 育 学 | — | — |
| 倫 理 学 | — | — |
| 公衆衛生学 | — | — |
| 医学一般 | — | — |
| リハビリテーション論 | — | — |
| 看 護 学 | — | — |
| 介 護 概 論 | — | — |
| 栄 養 学 | — | — |
| 家 政 学 | — | — |

履修をはじめるにあたって
シラバス
履修の心得
単位制度と
履修登録
成績評価
教育課程
編成方法の
諸課程
その他
学修生活の手引き
窓口事務健康セマ!
障がい学生支援について
授業休止の
取り扱い基準
学籍の取り扱い
付録

〈こども教育学科 2019 年度入学生適用〉

次表の科目中、3 科目以上取得してください。

社会福祉法第 19 条第 1 項第 1 号の規定による社会福祉に関する科目

| 指定科目名 | こども教育学科の開講科目 | 区 分 |
|------------|--------------|-------|
| 社会福祉概論 | 社会福祉 | 専攻・必修 |
| 社会福祉事業史 | — | — |
| 社会福祉援助技術論 | — | — |
| 社会福祉調査論 | — | — |
| 社会福祉施設経営論 | — | — |
| 社会福祉行政論 | — | — |
| 社会保障論 | — | — |
| 公的扶助論 | — | — |
| 児童福祉論 | 子ども家庭福祉 | 専攻・必修 |
| 家庭福祉論 | 子ども家庭支援論 | 専攻・選択 |
| 保 育 理 論 | — | — |
| 身体障害者福祉論 | — | — |
| 知的障害者福祉論 | — | — |
| 精神障害者保健福祉論 | 精神保健 | 専攻・選択 |
| 老人福祉論 | — | — |
| 医療社会事業論 | — | — |
| 地域福祉論 | — | — |
| 法 学 | — | — |
| 民 法 | — | — |
| 行 政 法 | — | — |
| 経 済 学 | — | — |
| 社会政策 | — | — |
| 経済政策 | — | — |
| 心 理 学 | 心理学 | 共通・選択 |
| 社 会 学 | 社会学 | 共通・選択 |
| 教 育 学 | — | — |
| 倫 理 学 | — | — |
| 公衆衛生学 | — | — |
| 医学一般 | — | — |
| リハビリテーション論 | — | — |
| 看 護 学 | — | — |
| 介 護 概 論 | — | — |
| 栄 養 学 | — | — |
| 家 政 学 | — | — |

5. 本願寺派教師資格課程

次の通り、本学部開講の科目を履修してください。※他学部との合同開講科目となります。

| 本山教師科目 | 本学部開講の科目 |
|---------|------------|
| 真 宗 教 義 | ※真 宗 学 概 論 |
| 仏 教 教 義 | ※仏 教 学 概 論 |
| 真 宗 史 | ※真 宗 教 団 史 |
| 仏 教 史 | 仏 教 の 思 想 |
| 宗 教 概 説 | ※宗 教 学 入 門 |
| 勤 式 作 法 | ※勤 式 |
| 宗 門 法 規 | ※宗 門 法 規 |
| 布 教 法 | ※教 化 法 |

| | |
|----------|--------------------------|
| 履修の心得 | 履修をはじめるにあたって |
| | シラバス |
| | 単位制度と単位の認定 |
| | 履修登録 |
| | 成績評価 |
| 教育課程 | 教育課程の編成方法 |
| | 諸課程 |
| 学修生活の手引き | その他 |
| | 窓口事務健闘セヨ！ 障がい学生支援について |
| | 授業休止の 取り扱い基準 |
| | 学籍の取り扱い |
| | 付録 |

6. (公財)日本障がい者スポーツ協会公認「初級スポーツ指導員」資格について【社会福祉学科対象】

(1) 「初級スポーツ指導員」の役割

(公財)日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度によるスポーツ指導員資格です。主として身近な障がい者を対象とする18歳以上の指導者で、障がい者の障がい内容に基づいた活動上の健康や安全管理を重視し、スポーツの喜びや楽しさを理解させることを役割としています。

(2) 「初級スポーツ指導員」資格の認定

資格を得るには、本学部において所定の科目の単位を修得し、卒業しなければなりません。また単位を修得後、申請書類に申請料(5,500円)と年会費(3,800円)を添えて(公財)日本障がい者スポーツ協会に資格取得のための手続きをしなければなりません。(手続きは大学が一括しておこないます。)

なお、申請手続き等の詳細については、別途掲示等により連絡します。

(3) 「初級スポーツ指導員」資格の登録

協会スポーツ指導者として認定を受けた者は、毎年登録しなければならないこととなっています。登録の期間は毎年4月1日から翌年3月31日までとなっています。次年度も引き続き登録する場合には、所定の書類に年会費を添えて更新の手続きをおこなうこととなっています。

(4) 資格取得のための必修科目

| 授 業 科 目 | 開講期間 | 単 位 | 配当年次 |
|---------------------|------|--------|------|
| 障 害 者 福 祉 論 | 通 年 | 4 単 位 | 2 |
| リハビリテーション概論 | 半 年 | 2 単 位 | 2 |
| 余 暇 活 動 論 | 半 年 | 2 単 位 | 2 |
| ス ポ ー ツ 文 化 I A | 半 年 | 2 単 位 | 1 |
| ス ポ ー ツ 文 化 II ※ | 通 年 | 2 単 位 | 2 |
| 計 | | 12 単 位 | |

【注意点】

※「スポーツ文化II」の登録は、3月末に事前登録をし、受講許可を受けた者に限ります。

7. (公財)日本レクリエーション協会公認「レクリエーション・インストラクター」資格について【社会福祉学科対象】

(1) レクリエーション・インストラクターの役割

(財)日本レクリエーション協会の公認資格です。余暇やレクリエーションに関する理論と実技の基本的な学習を積み、「コミュニケーション・ワーク」の援助を中心に、レクリエーションを楽しく教える指導者として、地域を中心に社会福祉や企業等あらゆる領域で活動します。

(2) レクリエーション・インストラクターの資格の取得

資格を得るには、本学部において所定の科目の単位を修得しなければなりません。

また、単位を取得後、申請費用として17,280円を添えて、資格取得のための手続きをしなければなりません。(手続きは大学が取りまとめ申請は個人で行っていただきます。)

●申請に要する費用(初回申請費用)

登録料：17,280円

課程認定校の卒業生は、最初の有効期限が2年間となります。

次回更新手続き時には、別途登録関係費用が必要となりますが、資格有効期限は2年間となります。

(3) 資格取得のための必修科目
〈2018年度以降入学生適用〉

| 授 業 科 目 | 開講期間 | 単 位 | 配当年次 | 備 考 |
|----------------------------------|------|-----|------|------------------------|
| 余 暇 活 動 論 | 半年 | 2 | 2 | 共通科目 |
| スポーツ文化 I B (レクリエーション・スポーツ) ※① | 通年 | 2 | 1 | 共通科目 |
| ソーシャルワーク現場実習 I | 集中 | 2 | 2 | いずれか 1科目 専攻科目 必修 |
| 社 会 福 祉 実 習 I | 集中 | 1 | 2 | |
| 社 会 福 祉 実 習 II | 集中 | 2 | 2 | |
| 事 業 参 加 ※② | 集中 | - | - | 2回以上の事業参加が必要 |

【注意点】

※① スポーツ文化 I Bは、レクリエーション・スポーツのみ有効です。登録するには、1年次生は4月当初に、2年次生は3月末に事前登録をすることが必要で、受講許可を受けたものに限りま。

※② 「事業参加」とは、日本レクリエーション協会、都道府県レクリエーション協会、市町村レクリエーション協会が関係する事業に参加するものです。

これらの事業に2年次生の12月末までに2回以上参加しなければなりません。事業の日程等については、短期大学部教務課の閲覧資料や掲示板等で別途お知らせしますので、各自で確認し、主催者団体に申し込んでください。

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

教育課程の編成方法

諸課程

その他

学修生活の手引き

窓口事務係様へ！
障がい学生支援について

授業休止の取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

8. ビハーラ活動者養成課程【社会福祉学科対象】

(1) ビハーラ活動とは

ビハーラ（Vihara）とは、サンスクリット語で「休息の場所」「僧院」「寺院」などという意味のほか、「安住」と漢訳されており、「存立する」「身も心も安んじる」などの意味もあります。

ビハーラ活動は、病院や施設であるいは家庭で病床に伏す人々（患者）及びその家族・知人などの関係者がもつ様々な悩みに対して、宗教者としてそれを和らげ、人間としての尊厳を保ちつつ生きられるよう、精神的介護を行うものです。それがビハーラ活動者の役割でもあります。

(2) ビハーラ活動者の認定について

本学部において所定の科目の単位を修得し卒業した者に対して、課程修了認定書が与えられます。

(3) 修了要件

修了要件は、必修科目 18 単位を含めて 26 単位以上です。

(4) 資格取得のための開講科目と単位は次のとおりです。

ビハーラ活動者養成課程カリキュラム

〈2014 年度以降入学生適用〉

| 系列 | 所定の教科目 | | 本学部開講の教科目 | | | | |
|-----------------------|--------------------------|----|-------------------------|----|----|----|------|
| | 科目名 | 時間 | 科目名 | 期間 | 単位 | 備考 | |
| ビハーラ活動の本質・目的の理解に関する科目 | 真宗教義 | 5 | ビハーラ活動論 | 必修 | 半年 | 2 | 専攻科目 |
| | 宗門における運動の理解 | 3 | | | | | |
| | ビハーラ活動 | 2 | | | | | |
| | 仏教福祉と援助技術 | 3 | 仏教福祉論 | 必修 | 半年 | 2 | 専攻科目 |
| | 医療と保健と福祉の法律 | 2 | 社会保障論 | 選択 | 通年 | 4 | 専攻科目 |
| | 老人福祉の基礎知識 | 3 | 高齢者福祉論 | 選択 | 通年 | 4 | 専攻科目 |
| | 障害者福祉の基礎知識 | 2 | 障害者福祉論 | 選択 | 通年 | 4 | 専攻科目 |
| 理解に関する科目 | 患者・高齢者・障害者の心理 | 3 | 高齢者・障害者の心理 | 必修 | 半年 | 2 | 専攻科目 |
| | 医療の基礎知識 | 3 | 医学概論 | 選択 | 半年 | 2 | 専攻科目 |
| | | | 精神保健 | 選択 | 半年 | 2 | 専攻科目 |
| | | | 臨床心理学 | 選択 | 通年 | 4 | 専攻科目 |
| 法の理解に関する科目 | ビハーラ活動の理解と実践 | 7 | ビハーラ活動内容総論 | 必修 | 半年 | ② | 専攻科目 |
| | カウンセリングの基礎理解 | 3 | カウンセリング基礎論 | 必修 | 通年 | ④ | 専攻科目 |
| | 介護の基礎知識 | 3 | 介護概論 | 必修 | 通年 | ④ | 専攻科目 |
| 基礎技能 | 基本介護技術 | 10 | 介護概論 | 必修 | 通年 | ④ | 専攻科目 |
| | カウンセリング実習 | 10 | カウンセリング基礎論 | 必修 | 通年 | ④ | 専攻科目 |
| | レクリエーション実技 | 3 | スポーツ文化IB(レクリエーション・スポーツ) | 選択 | 通年 | 2 | 共通科目 |
| | ビハーラ法話の基本 | 3 | ビハーラ活動内容総論 | 必修 | 半年 | ② | 専攻科目 |
| 実習 | 支援の方法 (実習の事前・事後研修を含む) | 4 | ビハーラ活動実習 | 必修 | 集中 | 2 | 専攻科目 |

「ビハーラ活動実習」は、「ビハーラ活動論」「ビハーラ活動内容総論」「カウンセリング基礎論」「介護概論」の単位修得者のみ履修することができます。但し、これらの4科目と「ビハーラ活動実習」とを同一年度に履修登録し、並行して受講することを認めます。また実習に際しては、特別実習費として一定額を徴収することがあります。

第4部 その他

I. 龍谷大学等への編入学について

短期大学は2年間の完結教育の場であり、編入学のための予備教育機関ではありません。しかし短大2年間の勉学の上に更に専門的教育を希望する学生には、龍谷大学をはじめ他の4年制大学の3年次（一部の大学では2年次）への編入学の途が開かれています。

本学においては、以前より短期大学部仏教科から文学部（真宗学・仏教学・仏教史学の各専攻）および短期大学部社会福祉科から社会学部（社会福祉学科）への編入学試験に際しては、本短期大学部卒業時（2年次3月）の成績が優秀であった学生に対する学科試験免除の制度がありました。

時代の要請を受け1994年度より龍谷大学において指定校推薦編入学試験制度が導入され、理工学部・農学部を除いた全学部全学科への推薦編入学の途が拡大されました。

本学以外にも各大学でこうした編入学制度を導入している大学が増えていますので、希望する大学があれば各自において時期を逸さないように照会してください。

1. 龍谷大学の4年制学部への編入学

龍谷大学の4年制学部への編入学には、一般編入学試験による受験と指定校推薦編入学試験による受験があります。

(1)一般編入学試験

英語、専門科目、面接の3科目による受験で選抜されます。試験は、11月に全学部一斉に実施されます。

募集人数は、とくに定めておらず、学部・学科・専攻毎に毎年変動します。また、他大学・短大からの受験者も多いため、事前の十分な備えが必要です。

過去3年間の編入学試験問題集が、毎年夏頃入試部において販売されます。志願・合格者数も載っているので、参考にするとよいでしょう。

(2)指定校推薦編入学試験

1994年度入試より実施されたこの制度は、学部毎にいくつかの短大を指定校として定め、一定の推薦枠を配分するもので、本学短期大学部も指定校の1つになっています。

主な内容は、次のとおりです。

- ・募集人員は、各学部・学科・専攻によって定められており、短期大学部において本試験に先立ち事前選考を行います。事前選考で選ばれた者だけが推薦入試を受験できます。
 - ・受験希望者は、説明会等に必ず出席してください。なお、必要な説明会等に無断で欠席した場合、出願資格を失うことがあります。
 - ・説明会実施等の連絡は、掲示板で発表しますので、くれぐれも注意してください。
 - ・募集人員・条件等の詳細については、説明会でお知らせします。（表1は昨年度の募集人員・条件等一覧です。募集人員・条件等は毎年見直しされますので、当該年度の説明会資料で必ず確認してください。）
- ※休学期間のある者が出願を希望する場合は、事前に短期大学部教務課までご相談ください。

2. 他大学への編入学

毎年多くの大学で編入学試験が実施されています。

試験実施時期や募集人数等は各大学によって異なります。早い大学では夏頃から実施されるところもあるため、情報収集や受験への備えを早くから開始する必要があります。

入試の詳細や願書の入手は各自において行わなければなりません。

他大学より推薦依頼があった場合は、短期大学部掲示板にて随時お知らせします。受験希望者は各自、注意して確認してください。（表2は、昨年度に推薦依頼のあった大学一覧です。）

| |
|-------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編入教育課程の 編入方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務係様へ！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

表1 昨年度 龍谷大学指定校推薦編入学試験 推薦枠数・推薦条件・履修推奨科目について (参考)

| 学部・学科・専攻名 | | 推薦条件 | |
|-------------|-----------------|------|--|
| 文学部 | 真宗学科 | 2 | 以下の①～③の条件をすべて満たす者。 ①2年次生前期終了時点までの成績を対象とし、修得した卒業要件単位の内、40単位分の科目の平均点が80点以上であること。 ② ・真宗学科・仏教学科・歴史学科仏教史学専攻への出願者 「仏教の思想」1科目4単位 80点以上 ・日本語日本文学科への出願者 「文学（共通科目）」1科目2単位 80点以上 ・英語英米文学科への出願者 「英語Ⅰ（共通科目）」科目2単位 80点以上 ③社会福祉学科については、上記①②の条件に加え、2年次生前期終了時点までに、下記2科目4単位を修得すること。 「英語Ⅰ」、「ドイツ語」または「フランス語」 |
| | 仏教学科 | 2 | |
| | 哲学科 哲学専攻 | *1以内 | |
| | 哲学科 教育学専攻 | *1以内 | |
| | 臨床心理学科 | *1以内 | |
| | 歴史学科 日本史学専攻 | *1以内 | |
| | 歴史学科 東洋史学専攻 | *1以内 | |
| | 歴史学科 文化遺産学専攻 | 1 | |
| | 歴史学科 仏教史学専攻 | 1 | |
| | 日本語 日本文学科 | *1以内 | |
| 英語 英米文学科 | *1以内 | | |
| 小計 | 10(※1) | | |
| 経済学部 | 現代経済学科 | 4 | 「マクロ経済学入門」、「ミクロ経済学入門」を修得すること。 |
| | 国際経済学科 | 2 | |
| | 小計 | 6 | |
| 経営学部 | 経営学科 | 3 | 2年次生前期終了時点までの成績を対象とし、修得した卒業要件単位の内、40単位分の科目の平均点が80点以上であること。 |
| | 小計 | 3 | |
| 法学部 | 法律学科 | 2 | 以下の①および②の要件を満たすこと。 ①下記のうち、短期大学部開講の2科目・4単位以上を修得すること。 「法学（日本国憲法含む）」、「民法」 ※ただし「民法」に替えて、法学部開講の「民法Ⅰ-A」、「民法Ⅰ-B」の単位修得でも可とする。 ②下記のうち、法学部開講科目より4単位以上修得すること。 ・法律系科目：「法と裁判」「労働と法」「民法Ⅰ-A」「日本法制史A」、「刑事法入門」、「民法Ⅰ-B」「憲法Ⅰ（4単位）」以上7科目 ・政治系科目：「現代社会と政治」「現代世界の政治」以上2科目 |
| | 小計 | 2 | |
| 政策学部 | 政策学科 | 2 | 2年次生前期終了時点までの成績を対象とし、修得した卒業要件単位の内、40単位分の科目平均点が80点以上であること。 |
| | 小計 | 2 | |
| 社会学部 | 社会学科 | 3 | 【社会学科】 2年次生前期終了時点までの成績を対象とし、修得した卒業要件単位の内、40単位分の科目の平均点が80点以上であること。 |
| | コミュニティマネジメント学科 | 2 | |
| | 現代福祉学科 | 25 | |
| | 小計 | 25 | |

| | | | |
|------|----------------|----|---|
| 国際学部 | 国際文化学科 | 4 | 【国際文化学科】 2年次生前期終了時点までの成績を対象とし、修得した卒業要件単位の内、上位40単位分の科目の平均点が80点以上であること。 |
| | グローバル・スタディーズ学科 | 1 | 【グローバル・スタディーズ学科】 2年次生前期終了時点までの成績を対象とし、修得した卒業要件単位の内、上位40単位分の科目の平均点が80点以上であること。 加えて英語について以下の条件のうち1つを満たしていることとする。 TOEFL® iBT80点 (PBT550点) 以上、TOEIC® 730点以上、IELTS™ 6.0以上 |
| | 小計 | 5 | |
| 合計 | | 58 | |

〈推薦枠注記〉

※1 「*1 以内」表示のある7学科・専攻における推薦枠合計は4名以内とする。

〈履修奨励科目〉

■文学部希望者

| グループ | 学 科 | 履修推奨科目 (文学部提供科目) |
|-----------|-------------|--|
| 真宗・仏教・哲学 | 真宗学科 | 真宗学概論 B1, 真宗学概論 B2, 教理史講読 A1, 教理史講読 A2, 教学史講読 A1, 教学史講読 A2, 教義学講読 A1, 教義学講読 A2, 伝道学講読 A1, 伝道学講読 A2 |
| | 仏教学科 | 日本仏教教学史 A, 日本仏教教学史 B, インド仏教教学史 A, インド仏教教学史 B, 仏教美術 (イコノロジー) 入門 A, 仏教美術 (イコノロジー) 入門 B, アジアの仏教と文化, 日本の仏教と文化 |
| | 哲学科哲学専攻 | 哲学講読 G1, 哲学講読 G2, 科学哲学 |
| 教育学・臨床心理学 | 哲学科教育学専攻 | 教育学概論, 教育心理学 |
| | 臨床心理学科 | 臨床心理学概論 A, 臨床心理学概論 B, 心理学概論 A(イ), 心理学概論 B(イ) |
| 歴史学 | 歴史学科日本史学専攻 | 日本史学講読 F1, 日本史学講読 F2, 日本史学講読 G1, 日本史学講読 G2 |
| | 歴史学科東洋史学専攻 | 中国文化史 I, 中国文化史 II |
| | 歴史学科仏教史学専攻 | 仏教文化史概論 A, 仏教文化史概論 B, 仏教史学入門 A, 仏教史学入門 B, 考古学 (仏教) A, 考古学 (仏教) B |
| | 歴史学科文化遺産学専攻 | 文化遺産学概論 A, 文化遺産学概論 B, 文化遺産学概説 |
| 文学 | 日本語日文学科 | 日本語学概論 A, 日本語学概論 B, 日本文学概論 A, 日本文学概論 B, 古典文学講読(A) A, 古典文学講読(A) B, 日本語学講読(A) A, 日本語学講読(A) B, 近代文学講読(C) A, 近代文学講読(C) B, 情報出版学講読(B) A, 情報出版学講読(B) B |
| | 英語圏英米文学科 | 英語圏文学概論 A, 英語圏文学概論 B, 英米文化概論 A, 英米文化概論 B, 英語学概論 A, 英語学概論 B |

■政策学部希望者

政策学部提供科目の内、「政策学を学ぶA」「政策学を学ぶB」を履修することが望ましい。

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得
単位制度と
単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程
編成方法

諸課程

その他

窓口事務係様へ
障がい学生支援について

学修生活の手引き

授業休止の
取り扱い基準

学籍の取り扱い

付録

表2 昨年度 他大学指定校推薦校一覧 (参考)

| 大学名 | 学部名 | 学科・コース名 | 推薦枠 | 対象 | 推薦対象学科・コース | | 備考 |
|----------|-------------|---------------------|--------|---|------------|---------|--------------------------------|
| | | | | | 社会福祉学科 | こども教育学科 | |
| 大阪国際大学 | グローバルビジネス学部 | グローバルビジネス学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| | 人間科学部 | 心理コミュニケーション学科 | 1名 | | ● | | |
| | | スポーツ行動学科(女子のみ) | 1名 | | ● | | |
| 大阪電気通信大学 | 総合情報学部 | デジタルゲーム学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| 大谷大学 | 文学部 | 真宗学科 | 計2名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | ※募集コースは、短期大学部教務課の入学実施要項で確認のこと。 |
| | | 哲学科 | | | | | |
| | | 社会学科 | 計1名 | | | | |
| | | 歴史学科 | | | | | |
| | | 文学科 | | | | | |
| | | 国際文化学科 | 計1名 | | | | |
| | | 仏教学科 | | | | | |
| 人文情報学科 | | | | | | | |
| 大手前大学 | 総合文化学部 | | 各学部若干名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| | メディア・芸術学部 | | | | | | |
| | 現代社会学部 | | | | | | |
| 関西大学 | 総合情報学部 | 総合情報学科 | 2名以内 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | 2年次へ編入 |
| 関西福祉科学大学 | 社会福祉学部 | 社会福祉学科 | 2名 | ・2019年3月卒業見込み者 ・GPA=3.0以上(算定方法は短期大学部教務課に尋ねてください) | ● | ● | |
| | | 臨床心理学科 | 2名 | | | | |
| 吉備国際大学 | 社会科学部 | 経営社会学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| 京都華頂大学 | 現代家政学部 | 現代家政学科・児童学コース | 若干名 | 【女子に限る】 ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| | | 現代家政学科・生活社会学コース | | | | | |
| 京都光華女子大学 | 健康科学部 | 心理学科 | 若干名 | 【女子に限る】 ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| | | 医療福祉学科(社会福祉学専攻) | | | | ● | |
| 京都産業大学 | 経済学部 | 経済学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| | 経営学部 | ソーシャル・マネジメント学科 | 1名 | | | | |
| | 法学部 | 法律学科または法政策学科 | 1名 | | | | |
| 京都女子大学 | 発達教育学部 | 教育学科教育学専攻 | 1名 | 【女子に限る】 ・2019年3月卒業見込み者 ・2年次前期までに修得した卒業要件単位の内、40単位分の科目の平均点が80点以上の者 | ● | ● | |
| | 現代社会学部 | 現代社会学科 | 1名 | | | | |
| 京都精華大学 | 人文学部 | 総合人文学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| 京都文教大学 | 総合社会学部 | 総合社会学科 経済・経営コース | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | |
| | | 総合社会学科 メディア・社会心理コース | 1名 | | | | |
| | | 総合社会学科 公共政策コース | 1名 | | | | |
| | | 総合社会学科 観光・地域デザインコース | 1名 | | | | |
| | | 総合社会学科 国際・日本文化コース | 1名 | | | | |

| 大学名 | 学部名 | 学科・コース名 | 推薦枠 | 対象 | 推薦対象学科・コース | | 備考 | |
|---------|-------------------|---------------------|--------|---|------------|---------|----|----|
| | | | | | 社会福祉学科 | こども教育学科 | | |
| 神戸学院大学 | 人文学部 | 人文学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込みの者 ・2年次前期までの単位取得科目の成績の過半数が「優」または「A」以上である者 | ● | ● | | |
| 駒沢女子大学 | 人文学部 | 日本文化学科 | 1名 | 【女子に限る】 ・2019年3月卒業見込み | ● | ● | | |
| | | 国際文化学科 | 1名 | | | | | |
| 四天王寺大学 | 人文社会学部 | 日本学科 | 計1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | | |
| | | 国際キャリア学科 | | | | | | |
| | | 社会学科 | | | | | | |
| | | 人間福祉学科 社会福祉専攻 | | | | | | |
| 種智院大学 | 人文学部 | 仏教学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | | |
| | | 社会福祉学科 | 1名 | | | | | |
| 聖徳大学 | 心理・福祉学部 | 社会福祉学科 | 若干名 | 【女子に限る】 ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | | |
| | | 心理学科 | | | | | | |
| | 児童学部 | 児童学科 | | | | | | |
| | 文学部 | 文学科 | | | | | | |
| | 音楽学部 | 演奏学科 音楽総合学科 | | | | | | |
| 仁愛大学 | 人間学部 | 心理学科 コミュニケーション学科 | 2名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | | |
| 太成学院大学 | 人間学部 | 子ども発達学科 | 計2名 | ・2019年3月卒業見込み者 ・成績上位の1/3以上の方 | ● | ● | | |
| | | 健康スポーツ学科 | | | | | | |
| | | 心理カウンセリング学科 | | | | | | |
| 経営学部 | 現代ビジネス学科 | | | | | | | |
| 東洋学園大学 | グローバル・コミュニケーション学部 | グローバル・コミュニケーション学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 ・2019年3月までに62単位を修得見込みまたは、修得済みのもの | ● | ● | | |
| | | 英語コミュニケーション学科 | 1名 | | | | | |
| | | 人間科学部 | 人間科学科 | | | | | 1名 |
| | | 現代経営学部 | 現代経営学科 | | | | | 2名 |
| 常磐会学園大学 | 国際こども教育学部 | 国際こども教育学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 ・修得科目の成績の3/5以上が評定「優」を有する | ● | ● | | |
| 日本福祉大学 | 社会福祉学部 | 社会福祉学科 医療専修 | 2名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | | |
| | | 社会福祉学科 人間福祉専修 | 2名 | | | | | |
| | 経済学部 | 経済学科 | 1名 | | | | | |
| | 国際福祉開発学部 | 国際福祉開発学科 | 1名 | | | | | |
| びわこ学院大学 | 教育福祉学部 | 子ども学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | | ● | | |
| 佛教大学 | 社会福祉学部 | 社会福祉学科 | 1名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | | | |
| 平安女学院大学 | 子ども学部 | 子ども学科 | 2名 | 【女子に限る】 ・2019年3月卒業見込み者 | | ● | | |
| 桃山学院大学 | 国際教養学部 | 英語国際文化学科 | 計2名 | ・2019年3月卒業見込み者 | ● | ● | | |
| | 社会学部 | 社会学科 | | | | | | |
| | | 社会福祉学科 | | | | | | |
| | 法学部 | 法律学科 | | | | | | |
| | 経済学部 | 経済学科 | | | | | | |
| 経営学部 | 経営学科 | | | | | | | |

| | |
|----------|-------------------------|
| 履修の心得 | 履修をはじめるにあたって |
| | シラバス |
| | 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 | |
| | 成績評価 |
| 教育課程 | 教育課程の編成方法 |
| | 諸課程 |
| その他 | |
| | 窓口事務係様へ！ 障がい学生支援について |
| 学修生活の手引き | 授業休止の取り扱い基準 |
| | 学籍の取り扱い |
| 付録 | |

3. 編入学の流れ（予定）

| | | 1 年次生 | | | | 2 年次生 | | | | | | | | |
|----------------|-------------------|-------------------|-------|----------------------|-------|--------|-------|-------------------|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|------|-----|
| | | 4 月上旬 | 4 月下旬 | 9 月中旬 ～ 10 月初旬 | 3 月下旬 | 4 月上旬 | 4 月下旬 | 7 月上旬 | 8 月下旬 | 9 月中旬 ～ 10 月初旬 | 10 月初旬 ～ 下旬 | 11 月下旬 | | |
| 龍谷大学指定校推薦編入学試験 | 社会福祉学科 こども教育学科 | 日本語 IRT テスト（全員受験） | | | | 編入学説明会 | | 龍谷大学指定校推薦編入学試験説明会 | 短期大学部内第一次選考 申込受付 | 短期大学部内第一次選考 合格者決定 | 短期大学部内第二次選考 申込受付 | 短期大学部内第二次選考 合格者決定 | 出願手続 | 本試験 |
| | | | | | | | | | | | | | | |

※「日本語 IRT テスト」は、「NHK EDUCATIONAL 日本語 IRT テスト」のことです。

※日本語検定や TOEIC 等については、各自主催団体の HP 等でスケジュールを確認の上、各自受験し、推薦条件を満たした場合は、速やかに短期大学部教務課に証明書を提出してください。

☆希望者のみ（短期大学部教務課へ申込）。短期大学部掲示板を確認してください。

| | | 1 年次生 | | 2 年次生 | | | |
|---------------|---------|--------|-------|---|-------------------|--------|-----|
| | | 4 月上旬 | 3 月下旬 | 4 月上旬 | 10 月中旬 ～ 下旬 | 11 月下旬 | |
| 龍谷大学一般編入学試験 | 全学科・コース | 編入学説明会 | | （各自入試部で願書購入） 出願手続 | | | 本試験 |
| 他大学指定校推薦編入学試験 | 全学科・コース | 編入学説明会 | | 各大学によって選考スケジュールが異なります。 （4 月～翌年 3 月） 短期大学部掲示板にて随時確認してください。 | | | |

| |
|------------------------|
| 履修をはじめ るにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と 単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編成方法 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務係様へ 障がい学生支援について |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

4. 龍谷大学指定校推薦編入学試験における短期大学部内選考についての申し合わせ

龍谷大学指定校推薦編入学試験における短期大学部内選考については、次の申し合わせにもとづいて行われます。

龍谷大学指定校推薦編入学試験・短期大学部内選考について（申し合わせ）

| | |
|------------|--------------|
| 2013年3月4日 | 短期大学部教授会制定 |
| 2015年2月9日 | 短期大学部教授会一部改正 |
| 2015年9月30日 | 短期大学部教授会一部改正 |
| 2017年3月1日 | 短期大学部教授会一部改正 |
| 2017年9月6日 | 短期大学部教授会一部改正 |
| 2018年3月2日 | 短期大学部教授会一部改正 |

選考対象者となるための基本的な条件

1. 選考時に龍谷大学短期大学部の正課生として在学し、入学後2年目の3月に卒業見込である者。
2. 前項にかかわらず、休学のため入学後2年目の3月に卒業できなかった者の内、当該年度3月に卒業見込である者（休学を理由としない場合は対象としない）。
3. 龍谷大学への編入学を専願する者。
4. 第二次選考時まで、卒業要件単位を40単位以上修得している者。

※高得点順卒業要件単位（40単位分）の科目の平均点が70点以上ない場合は、上記条件を満たしても基本的には推薦しない。

※社会福祉学科においては、「基礎演習」、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」、「ソーシャルワーク演習Ⅱ」、「社会福祉演習Ⅰ」、「社会福祉演習Ⅱ」の成績が70点未満の学生については、指定校推薦編入学試験被推薦者にするかどうか教授会で審議する。

※こども教育学科においては、「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習指導Ⅱ」、「保育実習指導Ⅲ」の成績が70点未満の学生については、指定校推薦編入学試験被推薦者にするかどうか教授会で審議する。また、保育士資格ならびに幼稚園教諭二種免許状の取得を希望しない者は、こども教育学科専攻科目における必修科目（19単位分）の平均点が70点未満の学生については、指定校推薦編入学試験被推薦者にするかどうか教授会で審議する。

選考について

1. 選考は第一次と第二次に分けて、次のとおり行う。

【第一次選考について】

1. 第一次選考は、NHK EDUCATIONAL 日本語 IRT テストにより実施し、選考基準は、テスト結果を踏まえて統一した基準を設定する。
2. 前項の規定にかかわらず、入学時に実施する NHK EDUCATIONAL 日本語 IRT テストで高3レベル+20点以上を取得した者、あるいは日本語検定3級以上を取得し定められた期日までに証明書の原紙を提出した者は、第一次選考に合格したものとする。

【第二次選考について】

1. 第二次選考は、第一次選考に合格した者の内、希望する学部が定める推薦条件を満たす者について行う。

2. 出願者は定められた期日までに自己推薦書を提出しなければならない。
3. 正課における平均点を選考基準とする。ただし、「編入学準備プログラム」の共通・学部別プログラム修了者は社会福祉学科内において優先して選考される。平均点の算出方法については、別に定める。
4. 平均点同点者が複数いるために被推薦者を確定できない場合、平均点算出に用いた科目の次に成績の良い科目の点数をもって選考する。
5. 前2項の選考基準にかかわらず、推薦するに相応しくない人物と教授会が判断するときは、推薦しないこととする。

平均点の算出方法について

1. 第二次選考の選考基準である平均点は、次の①～③のとおり算出する。
 - ①第二次選考時までには修得した単位のうち、高得点順卒業要件単位（40単位分）の科目の平均点とする。
 - ②科目区分（共通，専攻，コース専攻），履修区分（必修，選択）に関係なく，点数の高い科目から順に抽出し平均点を算出する。
 - ③教職課程などの諸課程科目や単位互換履修科目のうち，卒業要件と兼ねていない科目は平均点算出対象科目とはしない。

その他

1. 休学した者を推薦する場合には、推薦する学部に対し申し添えを行うこととする。

付則

この申し合わせは、2015（入試年度2016）年度龍谷大学指定校推薦編入学試験における短期大学部内選考より適用する。

付則（2015年2月9日一部改正）

この申し合わせは、2016（入試年度2017）年度龍谷大学指定校推薦編入学試験における短期大学部内選考より適用する。

付則（2015年9月30日一部改正）

この申し合わせは、2017（入試年度2018）年度龍谷大学指定校推薦編入学試験における短期大学部内選考より適用する。

付則（2017年3月1日一部改正）

この申し合わせは、2018（入試年度2019）年度龍谷大学指定校推薦編入学試験における短期大学部内選考より適用する。

付則（2017年9月6日一部改正）

この申し合わせは、2019（2020入試）年度龍谷大学指定校推薦編入学試験における短期大学部内選考より適用する。

付則（2018年3月2日一部改正）

この申し合わせは、2019（2020入試）年度龍谷大学指定校推薦編入学試験における短期大学部内選考より適用する。

単位の認定等について

編入学後の単位の認定は、各学部でおこないます。

[参考：2018年度龍谷大学指定校推薦編入学試験要項から]

| | |
|---------|---|
| 文 学 部 | 出身短期大学での修得単位を基礎として、60～64単位を認定します。ただし出身短期大学での修得単位を上限とします。 |
| 経 済 学 部 | 出身短期大学での修得単位を基礎として、62単位を上限として認定します。 |
| 経 営 学 部 | 出身短期大学での修得単位を基礎として、62単位を上限として認定します。 |
| 法 学 部 | 出身短期大学での修得単位を基礎として、62単位を上限として認定します。 |
| 政 策 学 部 | 出身短期大学での修得単位を基礎として、62単位を上限として認定します。 |
| 国 際 学 部 | 出身短期大学・専修学校での修得単位を基礎として、62単位を上限として認定します。 |
| 社 会 学 部 | <p>〈社会学科・コミュニティマネジメント学科〉</p> <p>派立・関係短期大学出身者は64単位（仏教の思想を含む）、それ以外の短期大学出身者は60単位（仏教の思想を除く）を認定します。</p> <p>〈現代福祉学科〉</p> <p>派立・関係短期大学出身者は62単位（仏教の思想を含む）、それ以外の短期大学出身者は58単位（仏教の思想を除く）を認定します。</p> <p>ただし、社会福祉系短大出身の編入生で社会福祉士国家試験受験基礎資格を有する者に対しては、認定単位内で希望する指定科目を20単位まで認定することができます。</p> |

| |
|--------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編入生に対する教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口業務健闘セヨ！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

Ⅱ．社会活動センターについて

1. 社会活動センターの理念、目的

短期大学部では、実際にさまざまな現場で体感的に学ぶ体験型学習を教育の中核としており、福祉施設での実習と、地域社会での多様な人たちとの交流や協働をとおして学ぶ社会活動としての実習を柱として取り組んできました。

特にこの社会活動としての実習では、福祉施設や地域の現状を把握し、地域のなかの福祉のあり方等に対して自分なりに熟考できる力を身につけるとともに、地域のなかの福祉活動を多様な価値観やニーズに対応しながら実践していく行動力と応用力を身につけてもらいたいと考えています。そして、この社会活動としての実習を大学としての社会貢献活動と位置づけ、地域福祉の一助となるよう積極的な展開を図っていきます。

本センターは、このような取り組みをより効果的にかつ機能的に実施できるようサポートすることを目的としています。

2. 社会活動センターの役割

社会活動センターは、「オープンカレッジふれあい大学課程」、砂川学区での活動を中心とした「地域活動」、「福祉体験活動Ⅰ」等の取り組みを、関係する学内外の組織（REC やボランティア・NPO 活動センター等）と連携・調整しながら支援しています。

3. 社会活動センターの場所

深草学舎 21 号館 1 階実習指導室内に設置されています。

4. 連絡方法

問い合わせ等については、直接社会活動センターに来室するか、電話〈075-645-2304（直通）〉してください。

5. その他

社会活動センターは、地域活動等に関するさまざまな相談、情報の提供等に当たっています。興味のある学生や情報を得たい学生など、まずは気軽に訪ね、情報やアドバイスを得るためのアプローチを試みることを薦めます。

Ⅲ. 単位僅少者・休学者等への配慮

龍谷大学短期大学部における修得単位僅少者や留年者、休学者への教育的配慮に関する申し合わせ

2016（平成28）年7月27日 短期大学部教授会制定

1. 龍谷大学短期大学部における修得単位僅少者を、「1年次終了時点で修得単位数（卒業要件）が20単位以下である正課生」と定義し、修得単位僅少者に該当する学生に、演習担当教員・クラス担任が1年次後期成績開示後に面談を実施し、修学意思の確認を行う。ただし、修得単位僅少者に該当しかつGPAが1.00以下の学生には学籍異動の提案（退学勧告を含む）を行うこととする。
2. 演習担当教員・クラス担任は、長期欠席者や留年者に対し、必要に応じて面談を実施し、修学意思の確認、適切な相談・指導を行う。
3. 休学・退学を希望する学生に対し、教授会審議の前に面談を実施し、理由を詳細に把握し、適切な指導を行う。
4. 学生が面談を希望しない場合は、意思を尊重し、実施しないこととする。
5. 演習担当教員・クラス担任が必要と判断する場合、または学生が希望する場合は、保護者との面談を実施する。

付則

1. この申し合わせは、制定日（2016（平成28）年7月27日）から施行する。
2. この申し合わせの施行に伴い、「龍谷大学短期大学部における修得単位僅少者や留年者、休学者への修学支援について」（2013（平成25）年7月17日制定）は廃止する。

| |
|----------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編成方法 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 窓口事務保健センター！ 障がい学生支援について |
| 学修生活の手引き |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

第5部 学修生活の手引き

I. 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、履修要項 WEB サイトに掲載していますので、確認してください。

(<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)

主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学 HP『保健管理センター』に掲載しています。

(<https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程を HP で確認するようにしてください。その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AED について知りたい

3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学 HP「障がい学生支援室」に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>)

HP では主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ（支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介）
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) よくある質問（Q&A）

| |
|---|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 単位制度と 単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 編成方法 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き 窓口事務・保健管理センター！ 障がい学生支援室について！ |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

Ⅱ. 授業等の休講措置に関する取扱基準

(自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)

自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。

○ 授業等の休講措置に関する取扱基準：

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html

「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の4つの方法で確認することができます。

| 確認方法 | 説明 |
|--|---|
| (1) 龍谷大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/ | トップページに「重要なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。 |
| (2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp | ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。 |
| (3) 公式 Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」 https://twitter.com/Ryukoku_univ (@ Ryukoku_univ) | 大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式 Twitter アカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。 Web ブラウザの URL 入力欄に左記 URL を直接入力し、サイトを閲覧してください（事前にお気に入り登録しておくとう便利です）。 |
| (4) 公式 Facebook「龍谷大学」 https://www.facebook.com/RyukokuUniversity | 大学全体の特色等を発信することを目的として、本学公式 Facebook ページを開設しています。緊急時には本アカウントからも、ホームページと同様の情報を発信します。 Web ブラウザの URL 入力欄に左記 URL を直接入力し、サイトを閲覧してください（事前にお気に入り登録しておくとう便利です）。 |

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、「公式 Twitter」と「公式 Facebook」の利用を推奨します。

Ⅲ. 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

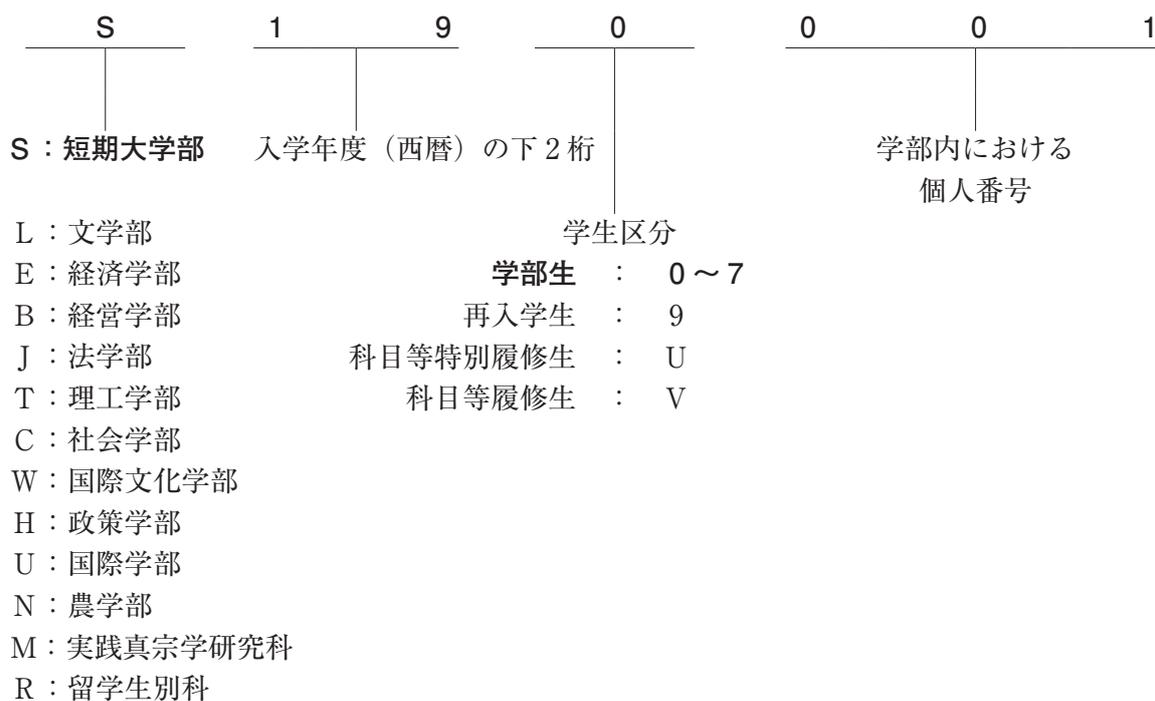
「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない本人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み



このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されていないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

| |
|-------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編成方法 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口業務は随時！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、**学籍簿**（入学手続き時に各自が Web 入学手続にて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これらの記載事項に変更が生じたときには直ちに短期大学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 学業成績表を受領するとき。
 - ② 試験を受けるとき。
 - ③ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ④ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ⑤ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑥ 図書館を利用するとき。
 - ⑦ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください）。

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールをはがしたうえで、新しいシールを貼ってください。

また、**当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。**
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに短期大学部教務課窓口へその内容を届け出てください。
- (4) **学生証を破損または紛失した場合は、直ちに短期大学部教務課窓口へ届け出てください。**届出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。

なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000 円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを短期大学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2 日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに短期大学部教務課窓口へ返納してください。

| |
|----------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 窓口業務確保センター！ 障がい学生支援について |
| 学修生活の手引き |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることができますが、次の諸手続きが必要です。

- (ア) 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
 - (イ) 当該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しますので相談してください。）
- また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることができません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
 - ② 在学し得る年数（通常の場合は4年間）以内に卒業できないとき。
 - ③ 休学期間を終えても復学できないとき。
- なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3カ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願い出ること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1学年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに短期大学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。

- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願

い出ることができます。

③ 休学期間は、本学在学中に通算して2年を超えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（前期または後期の開始日）に限定されています。復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内にしなければなりません。

6. 再入学

(1) 退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第25条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。

(2) 除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第26条第3項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。

(3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。

(4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

在学中に、本学の他学部または他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を短期大学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

8. 9月卒業（3・4年生）

前期末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については短期大学部教務課窓口で相談してください。

※ただし、短期大学部では Semester 制を導入していないので、特例扱いとなります。

事前（4月当初の登録までに）に短期大学部教務課で相談・指導を受けてください。

第6部 付 録



深草学舎 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-642-1111 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「075」です。

| 部署名 | 事例 | ダイヤルイン | FAX |
|---|---|----------------------|----------------------|
| ① 政策学部教務課 | 政策学部の科目に関する事 | 645-2285 | 645-2101 |
| ② 法学部教務課 | 法学部の科目に関する事 | 645-7896 | 643-9901 |
| ③ 経営学部教務課 | 経営学部の科目に関する事 | 645-7895 | 643-9901 |
| ④ 国際学部 (国際文化学部) 教務課 | 国際学部(国際文化学部)の科目に関する事 | 645-5648 | 645-6444 |
| ⑤ 経済学部教務課 | 経済学部の科目に関する事 | 645-7894 | 645-6444 |
| ⑥ 文学部教務課 | 文学部の科目に関する事 | 645-7893 | 645-5639 |
| ⑦ 短期大学部教務課 短期大学部実習指導室 短期大学部社会活動センター | 短期大学部の科目・実習・社会活動に関する事 | 645-7897 645-7906 | 645-2825 |
| ⑧ 法学部教務課紫光館分室 (法科大学院修了生支援室) | 法科大学院修了生の支援に関する事 | 645-2070 | 645-2071 |
| ⑨ 教学部 教養教育センター事務部 教職センター | 深草・大宮学舎の教養教育科目に関する事 教室に関する事 教職課程に関する事 | 645-7891 645-3749 | 643-5021 643-5021 |
| ⑩ 教材作成室 | 印刷が必要な教材作成に関する事 | 645-7891 | 643-5021 |
| ⑪ 研究部(深草) [2階] | 各種研究支援に関する事 | 645-7922 | 645-2033 |
| ⑫ 総務部人事課 [2階] | 人事・給与に関する事 | 645-7874 | 645-8685 |
| ⑬ 講師控室(6号館) | | | |
| ⑭ 講師控室(2号館) | 大学からの通知・連絡 | | |
| ⑮ 障がい学生支援室 | 障がい学生支援に関する事 | 645-5685 | 645-2825 |
| ⑯ 学修支援・教育開発センター | 教育活動の支援に関する事 | 645-2163 | 645-2190 |
| ⑰ グローバル教育 推進センター事務部 | 留学・国際交流に関する事 | 645-7898 | 645-2020 |
| ⑱ 図書館事務部(深草) | 図書館利用に関する事 | 645-7885 | 645-8691 |
| ⑲ 宗教部 | 宗教教育・宗教行事に関する事 | 645-7880 | 645-7939 |
| ⑳ 学生部(深草) スポーツ・文化活動 強化センター | 学生生活に関する事 | 645-7889 | 644-2988 |
| ㉑ 保健管理センター | 診察、健康診断、健康相談に関する事 | 645-7879 | 643-9909 |
| ㉒ 情報メディアセンター [2階] | 情報実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事 | 645-2108 | 645-2109 |
| ㉓ キャリアセンター | 学生の就職支援及びキャリア開発に関する事 | 645-7878 | 645-5556 |
| ㉔ 龍谷大学ボランティア ・NPO活動センター | 教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に 関する事 | 645-2047 | 645-2064 |
| ㉕ REC事務部(京都) | 地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育 ・研究活動の推進に関する事 | 645-7892 | 645-9222 |
| ㉖ 生活協同組合 | 購買(書籍・文具・チケット等) | 642-0213 | 643-7774 |

履修をはじめるにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と
単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

教育課程の
編成方法

諸課程

その他

学修生活の手引き

登壇準備センター！
障がい学生支援について

授業休止の
取り扱い基準

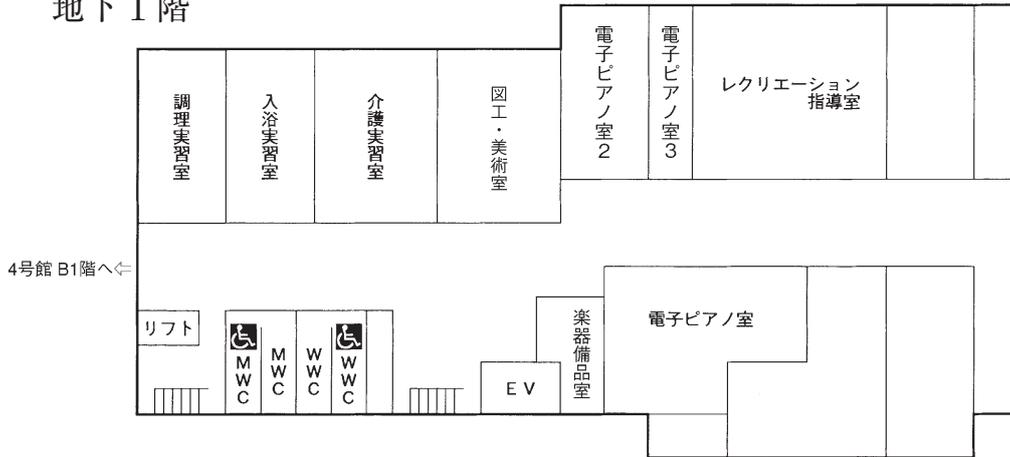
学籍の取り扱い

付録



〈深草学舎〉 21 号 館

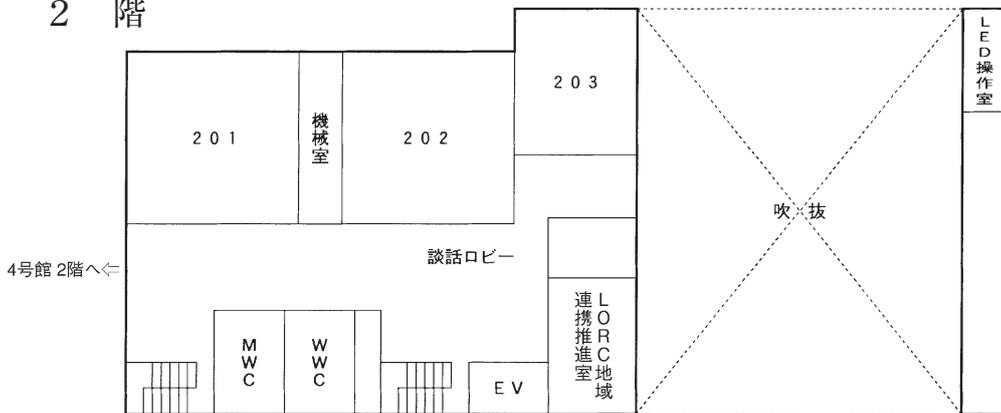
地下1階



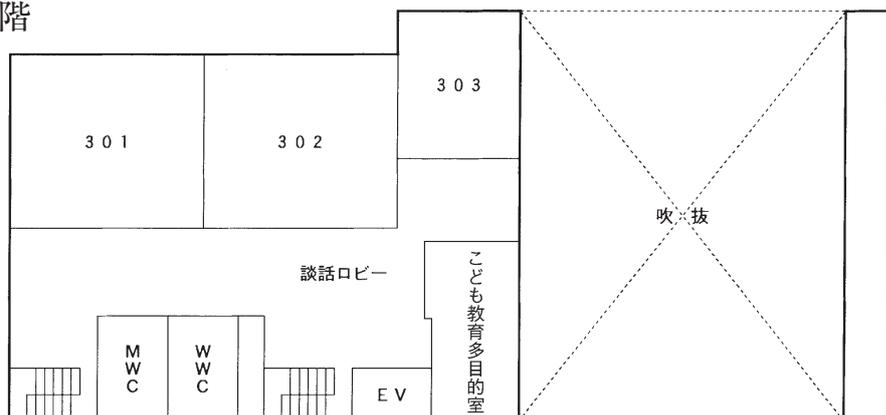
1 階



2 階

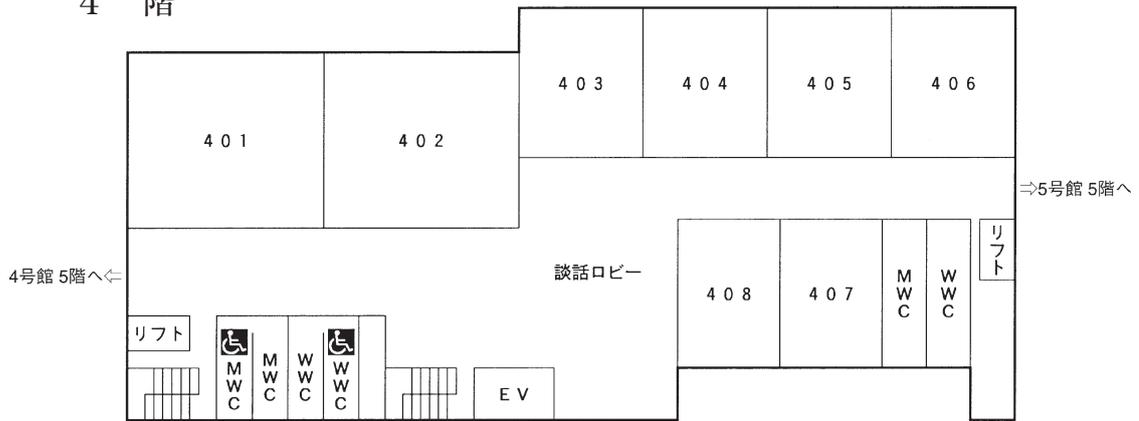


3 階

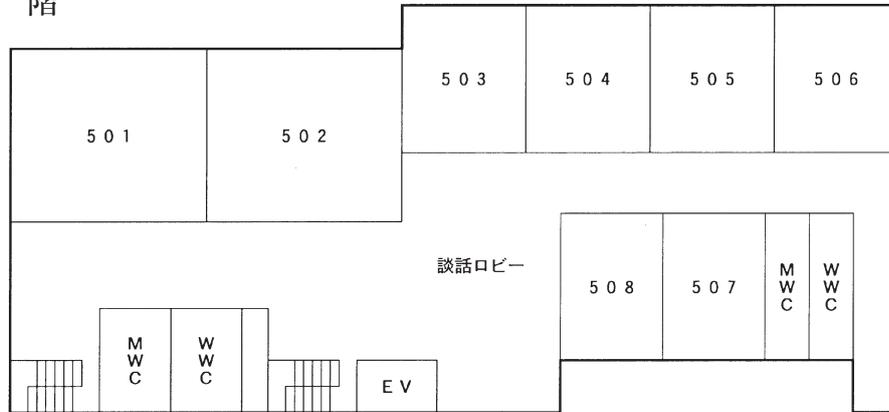




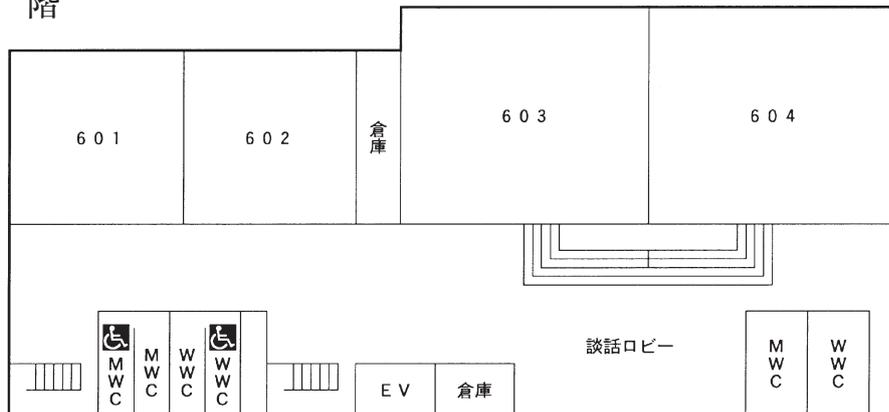
4 階



5 階



6 階

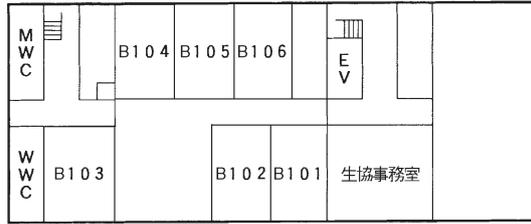


| |
|----------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編成方法の教育課程 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口業務健康セミナー！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |

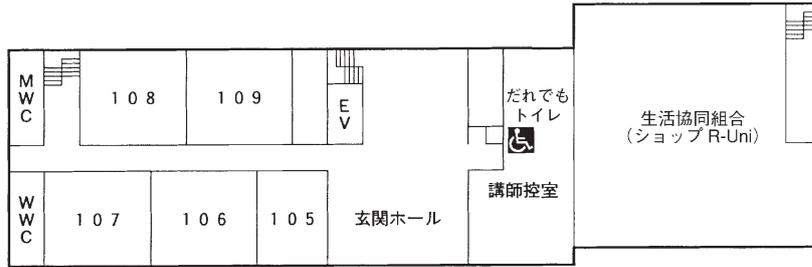


〈深草学舎〉 2 号 館

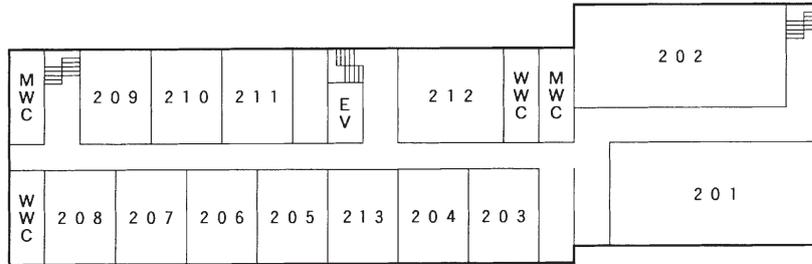
地 階



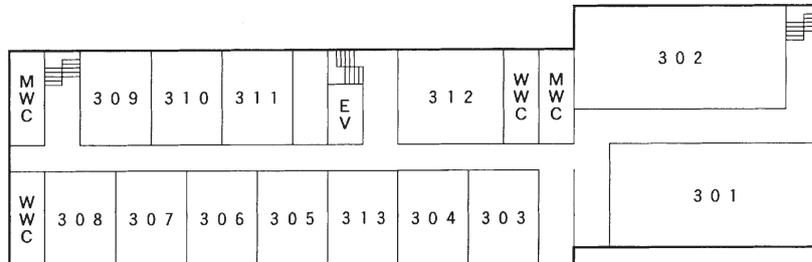
1 階



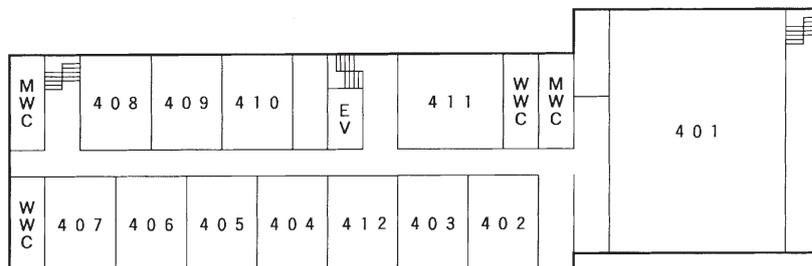
2 階



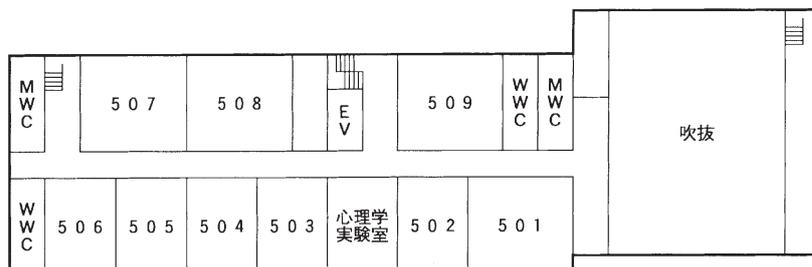
3 階



4 階



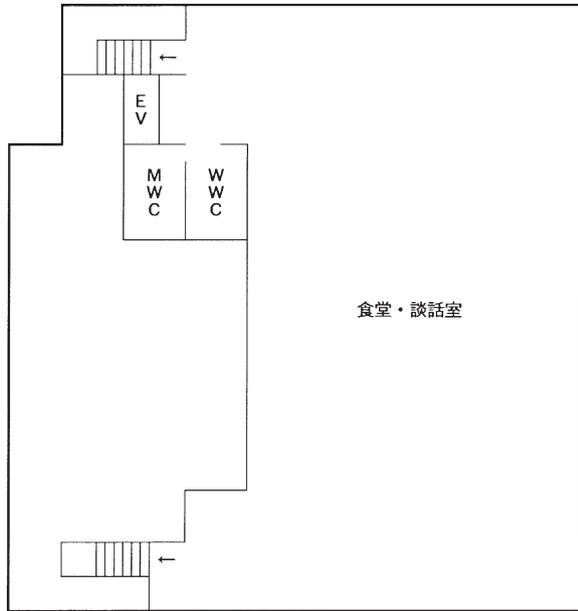
5 階



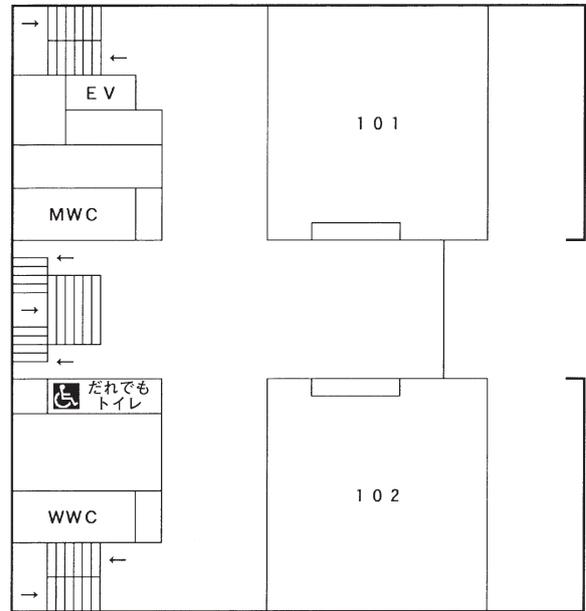


〈深草学舎〉 3号館

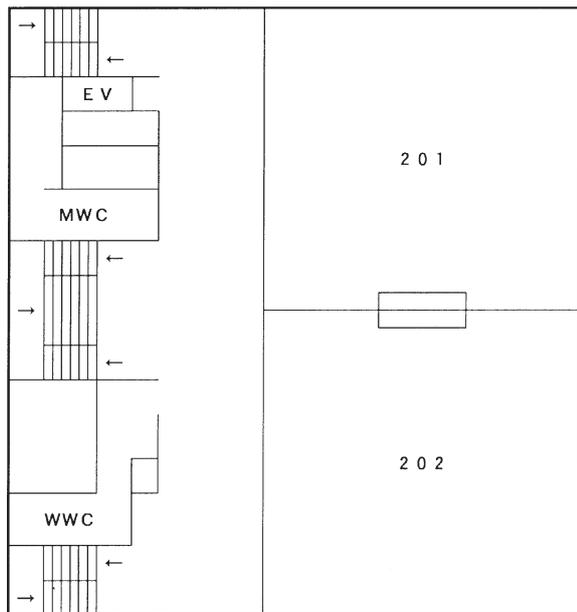
地階



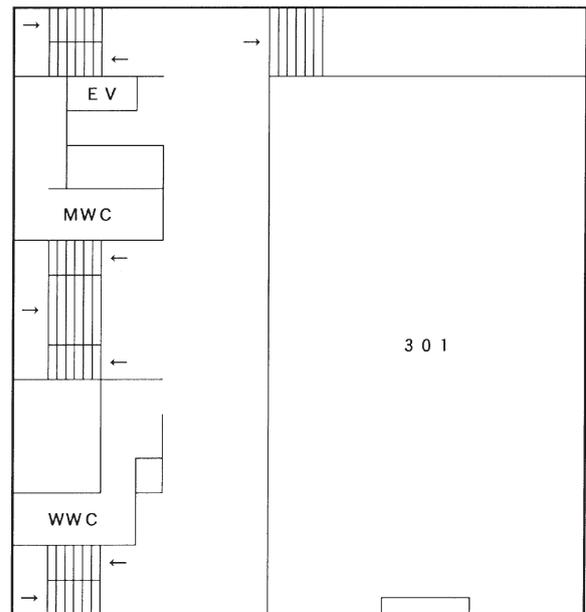
1階



2階



3階

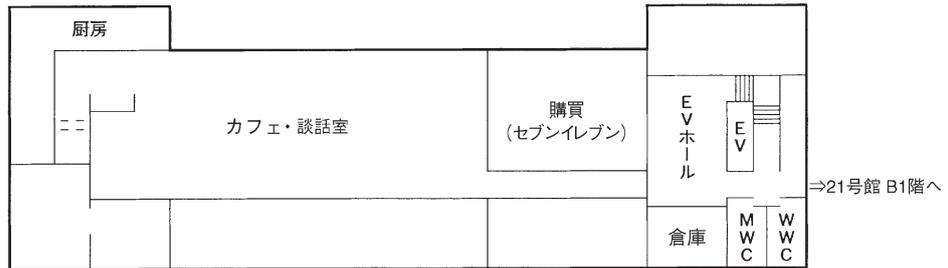


| | | | | | | | | | | | | |
|------------------|------|-------|----------------|------|------|------|----------------------|-----|----------|------------------------|-----------------|---------|
| 履修をはじめ るにあたって | シラバス | 履修の心得 | 単位制度と 単位の認定 | 履修登録 | 成績評価 | 教育課程 | 編成方法 教育課程の 諸課程 | その他 | 学修生活の手引き | 窓口事務係様へ 障がい学生支援について | 授業休止の 取り扱い基準 | 学籍の取り扱い |
|------------------|------|-------|----------------|------|------|------|----------------------|-----|----------|------------------------|-----------------|---------|

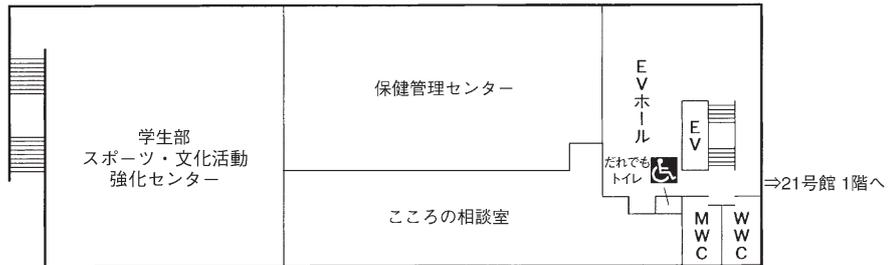


〈深草学舎〉 4 号 館

地 階



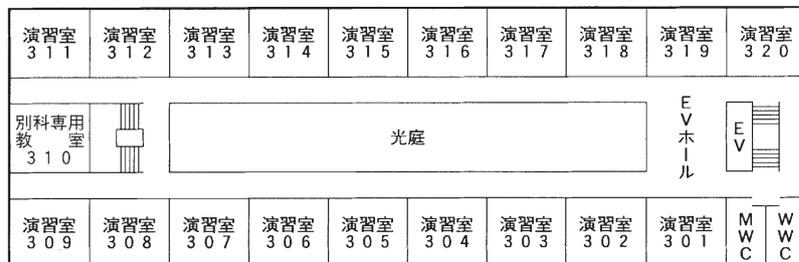
1 階



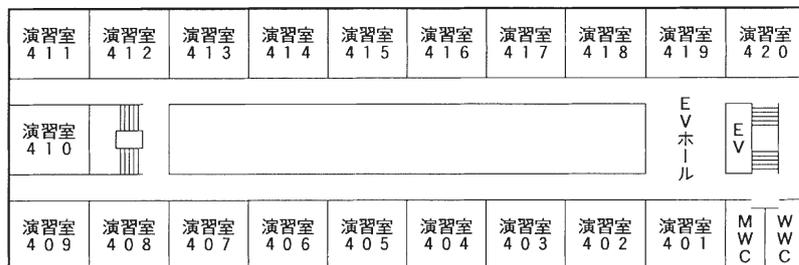
2 階



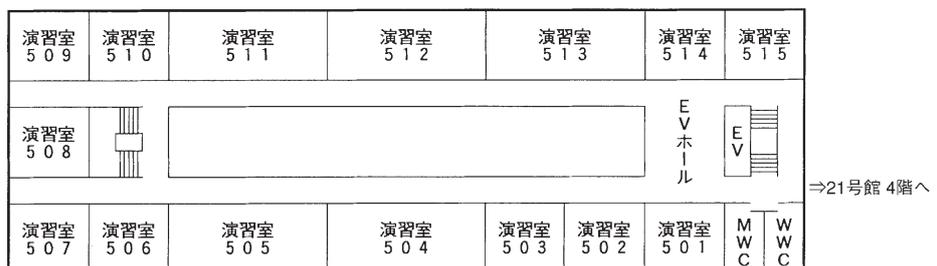
3 階



4 階



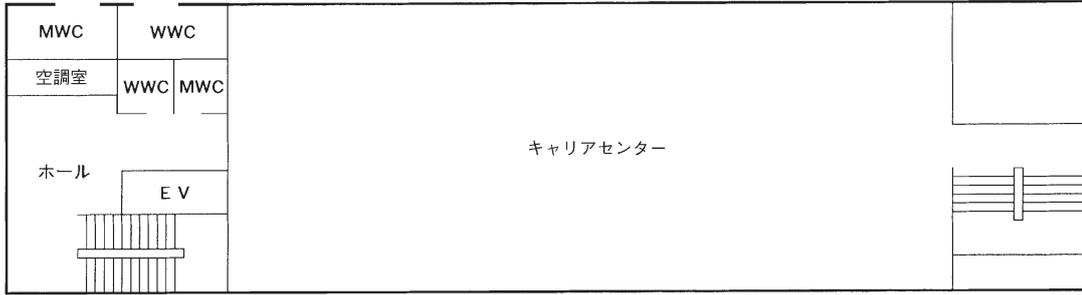
5 階



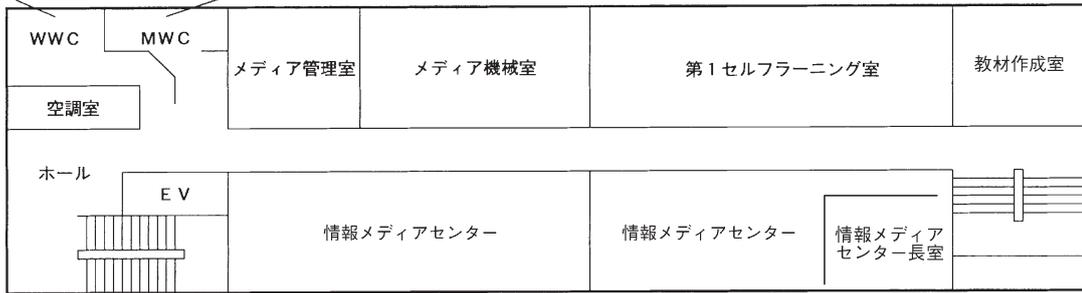


〈深草学舎〉 5 号 館 (紫明館)

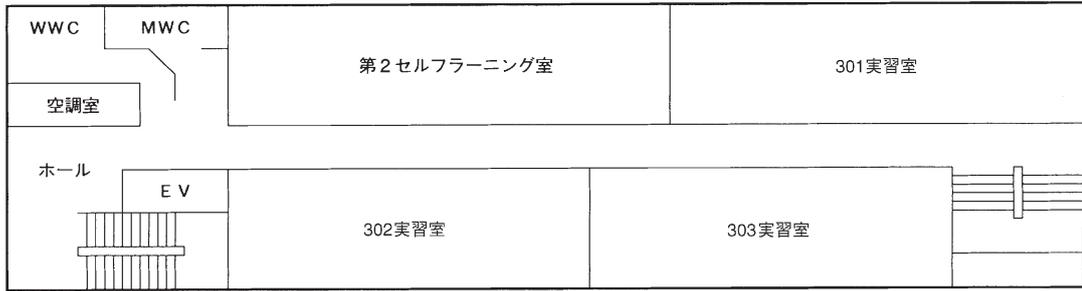
1 階



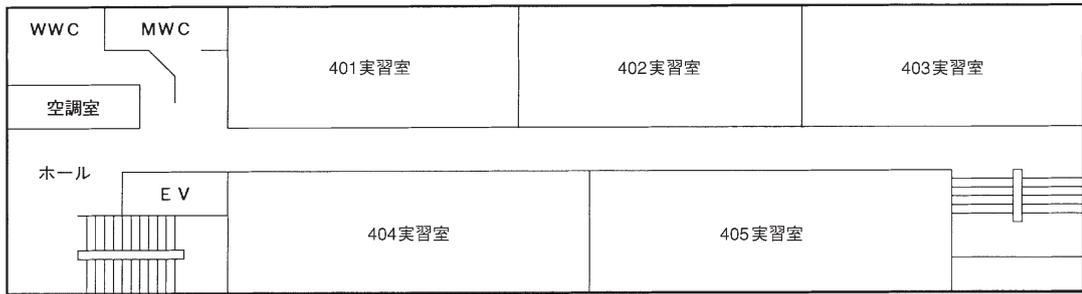
2 階



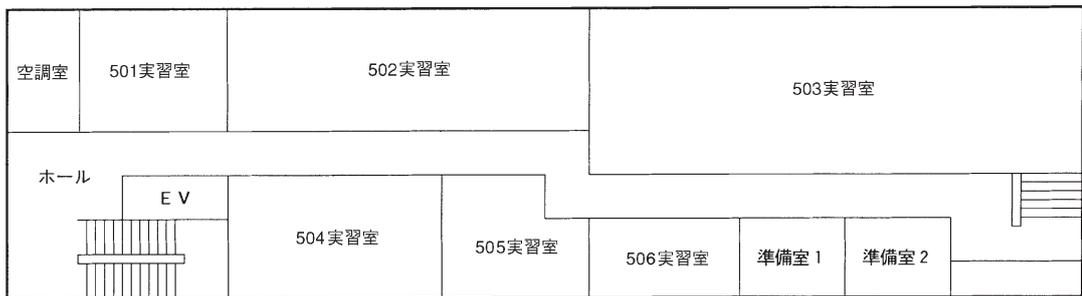
3 階



4 階



5 階



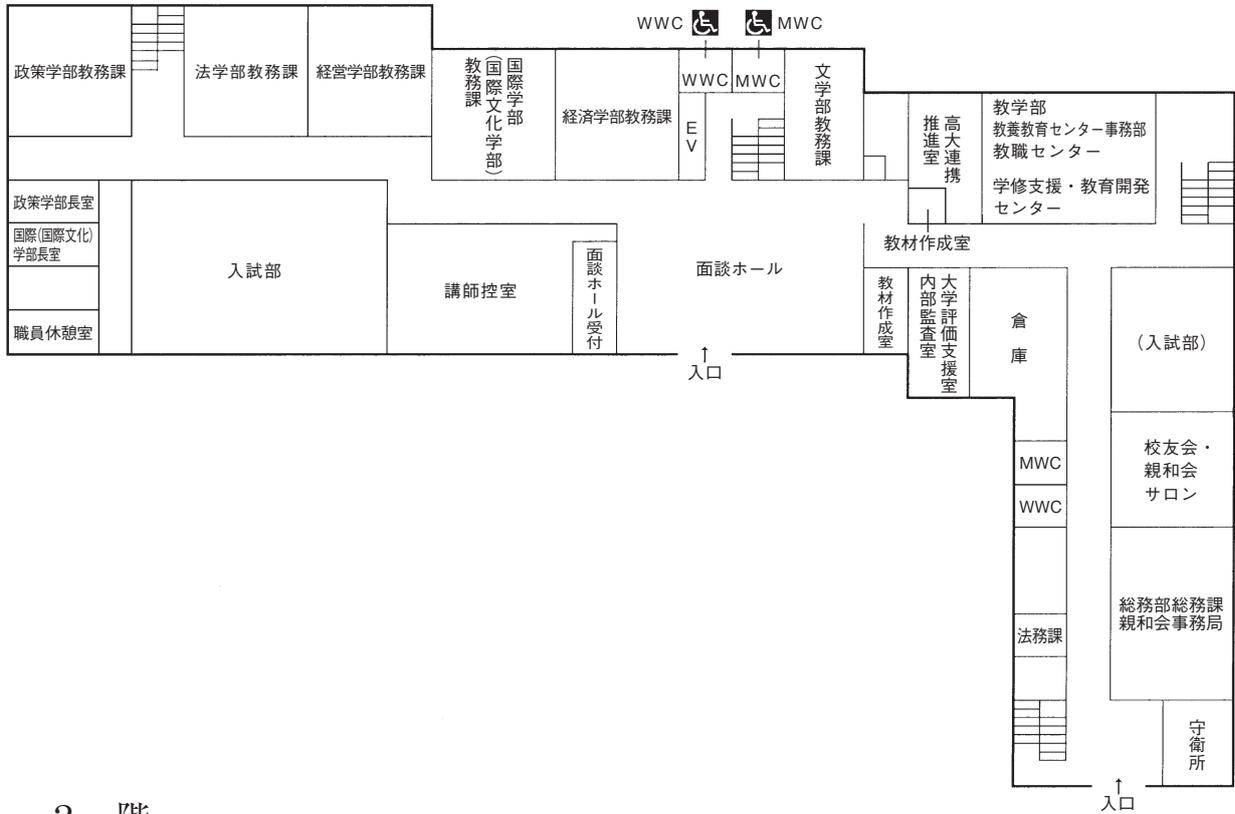
21号館 4階へ ←

| | | | |
|--------------|-------|------|------------------------|
| 履修をはじめるにあたって | 履修の心得 | 教育課程 | 学修生活の手引き |
| シラバス | 履修登録 | 諸課程 | 窓口事務係様へ 障がい学生支援について |
| 単位制度と単位の認定 | 成績評価 | その他 | 授業休止の取り扱い基準 |
| 履修をはじめ | | | 学籍の取り扱い |

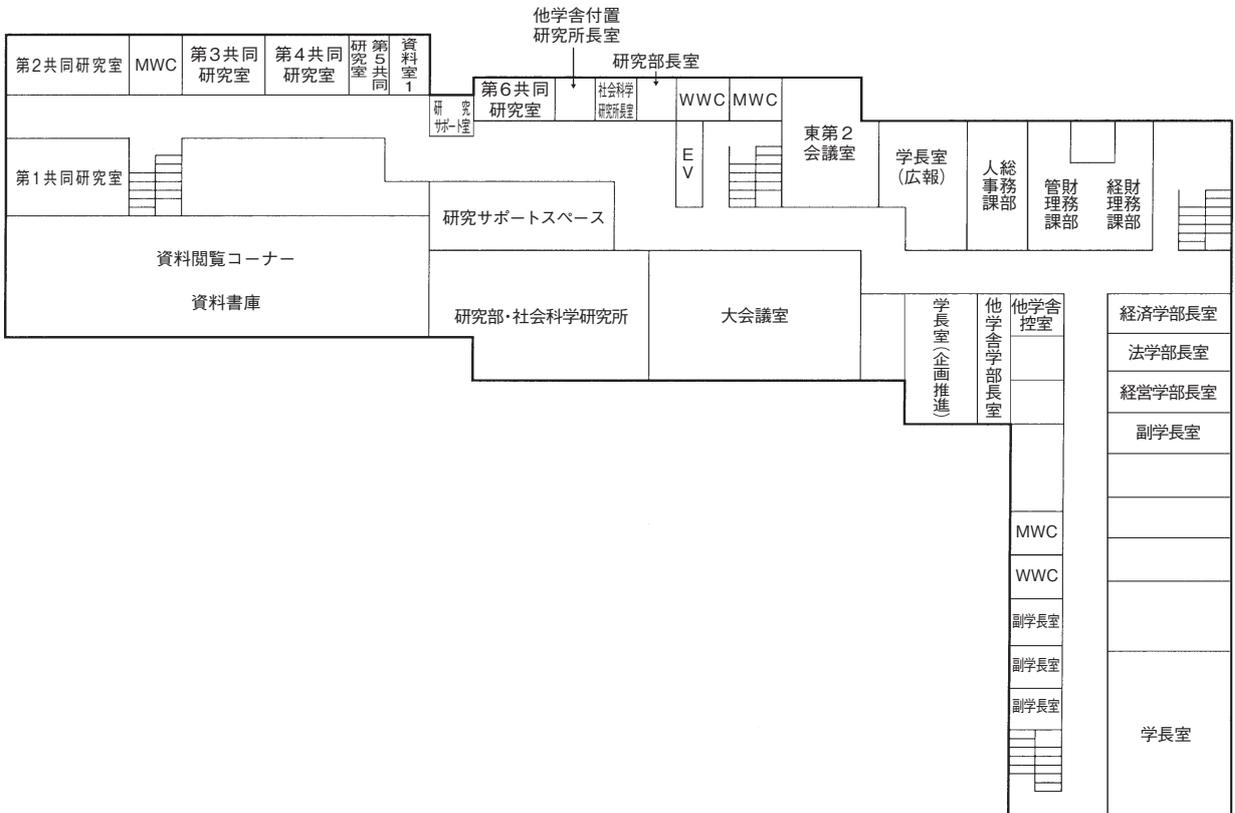


〈深草学舎〉 6号館 (紫英館)

1 階



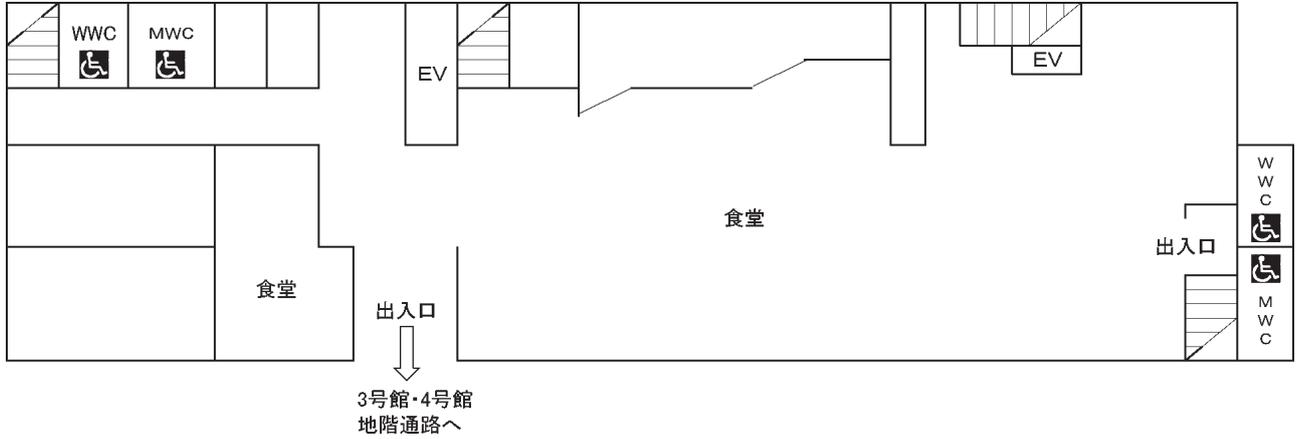
2 階



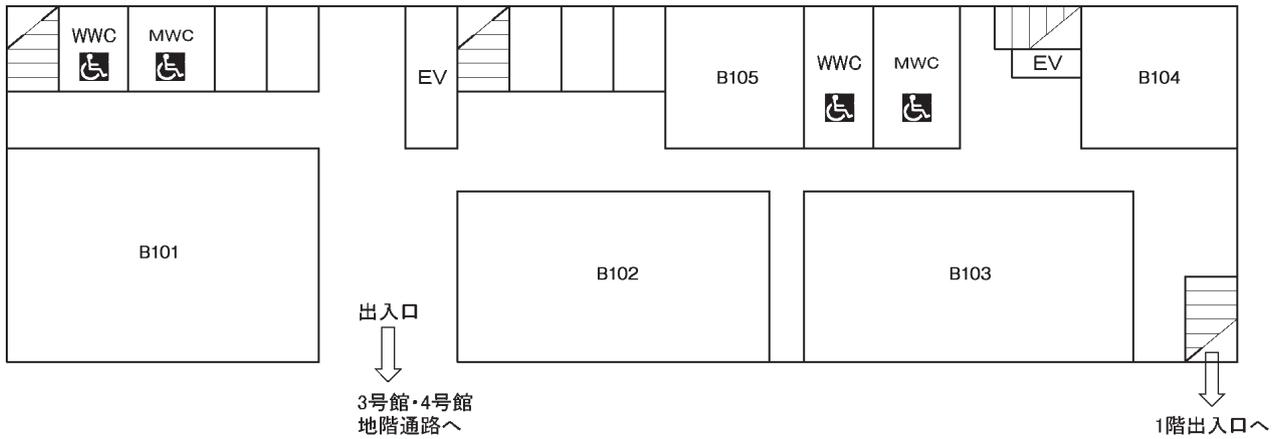


〈深草学舎〉 22 号 館

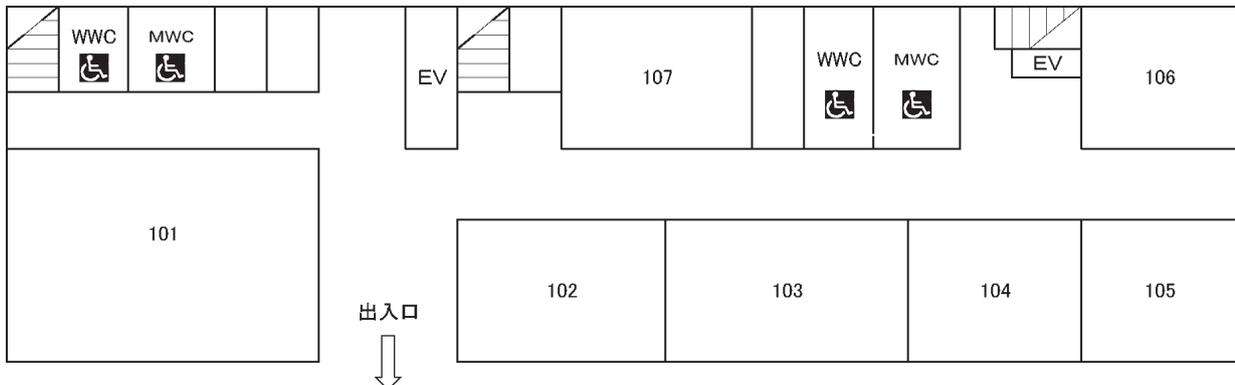
地下 2 階



地下 1 階



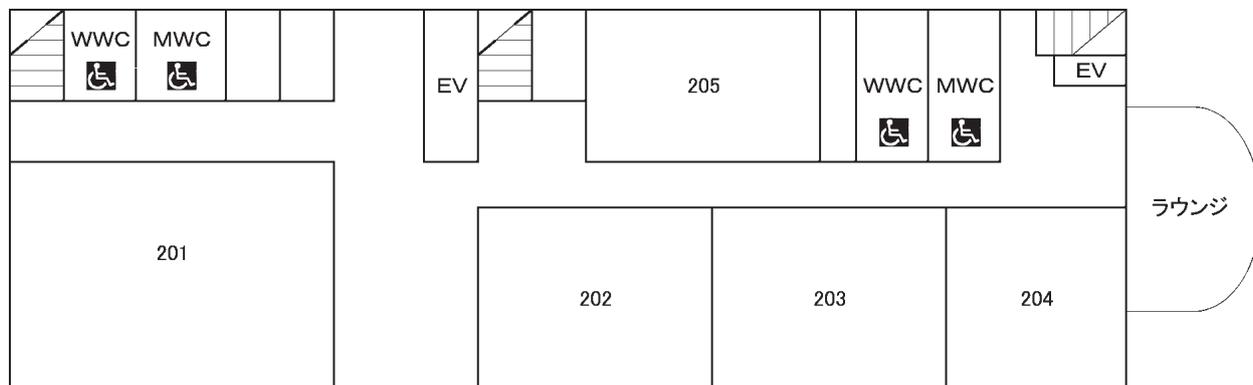
1 階



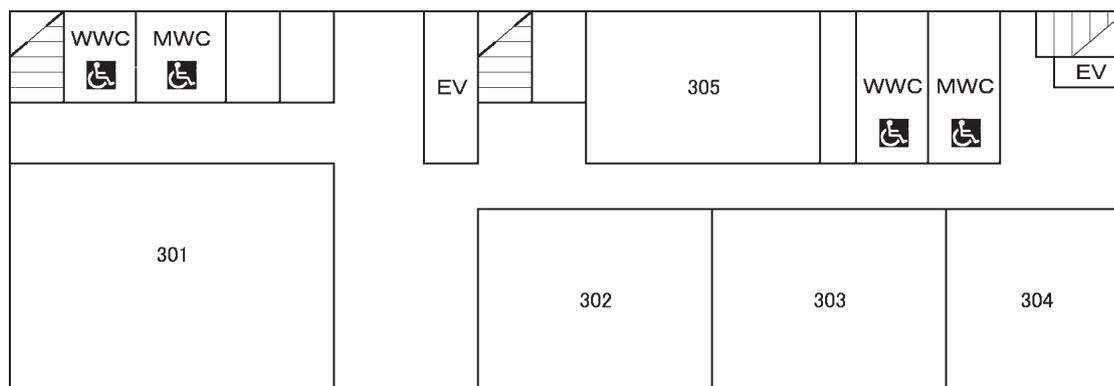
| |
|------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編成方法 |
| 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 窓口事務係様へ 障がい学生支援について |
| 学修生活の手引き |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |



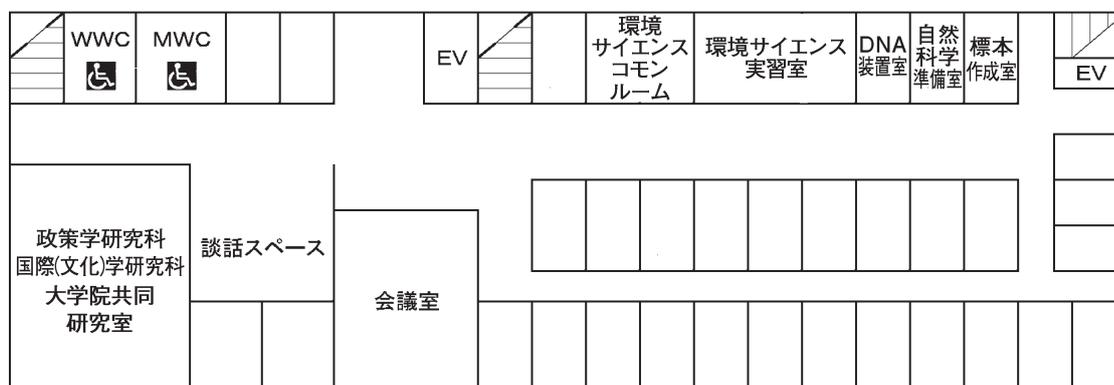
2 階



3 階



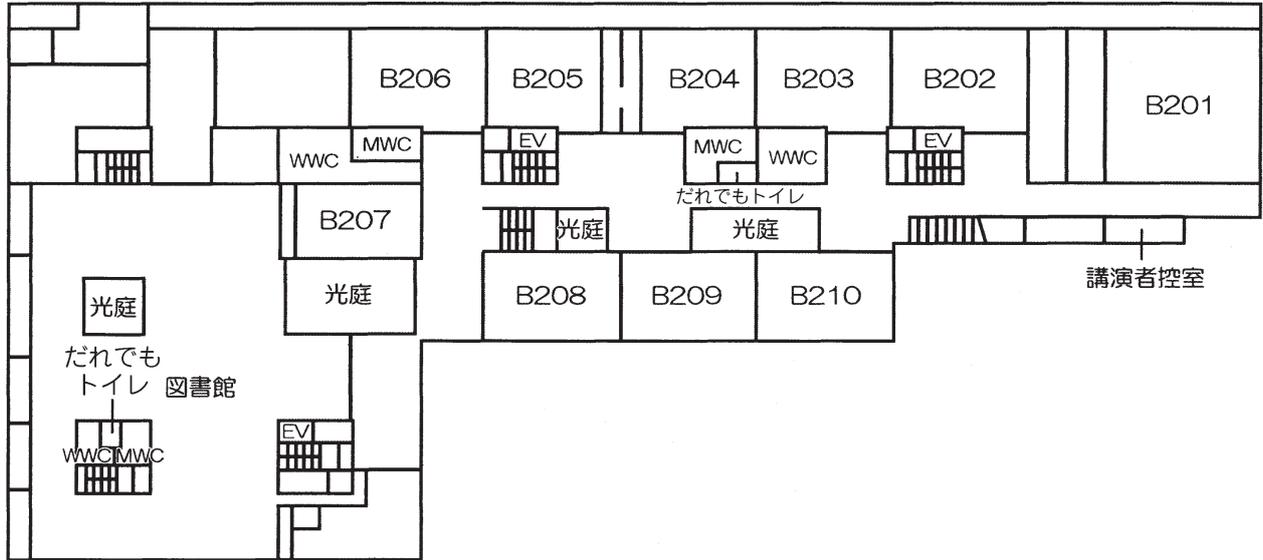
4 階



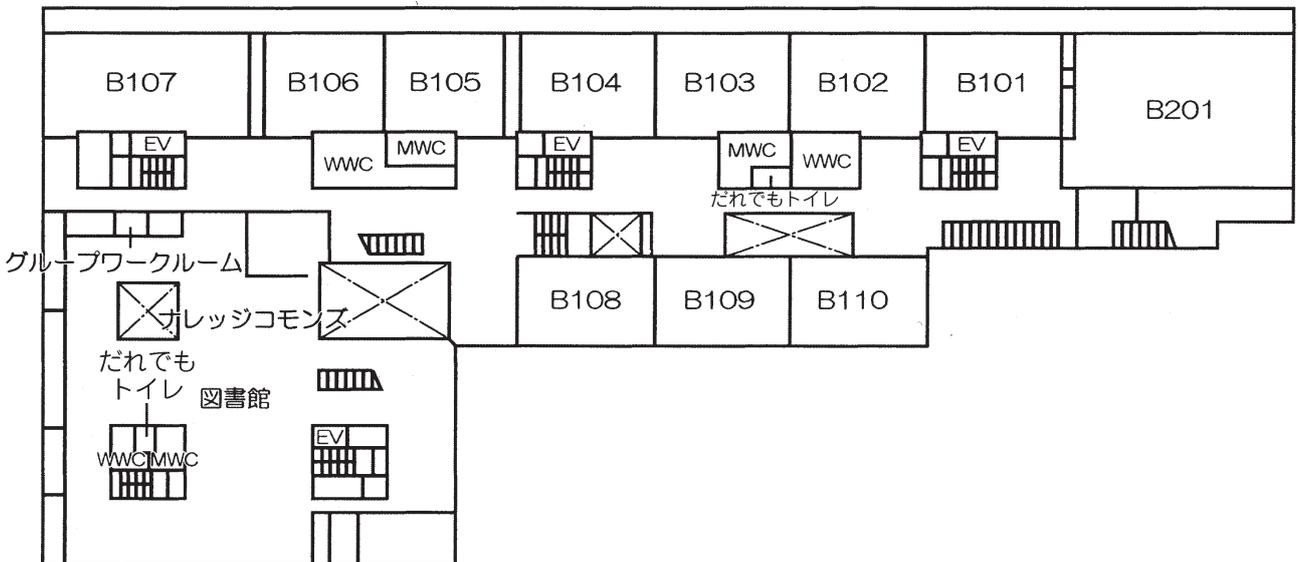


〈深草学舎〉 和 顔 館

地下2階



地下1階

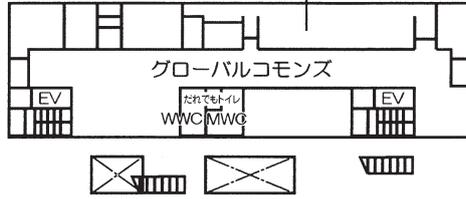
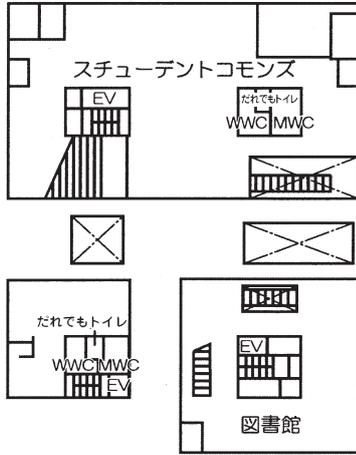


| |
|------------------------|
| 履修をはじめ るにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と 単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 教育課程の 編成方法 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 窓口事務係様へ 障がい学生支援について |
| 学修生活の手引き |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |

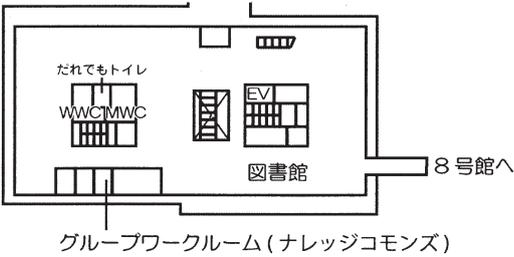
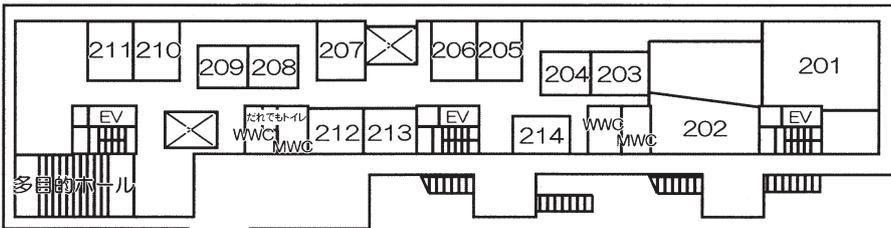


1 階

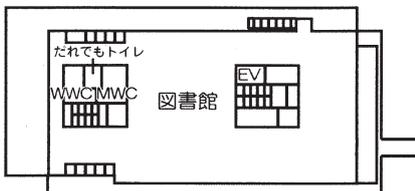
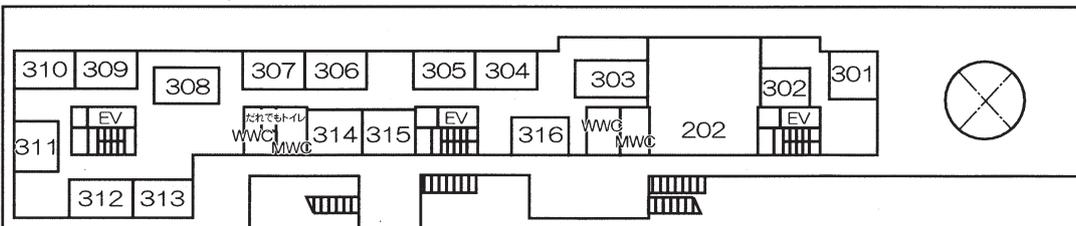
グローバル教育推進センター事務部
Center for the Promotion of Global Education Office
(R-Globe)



2 階

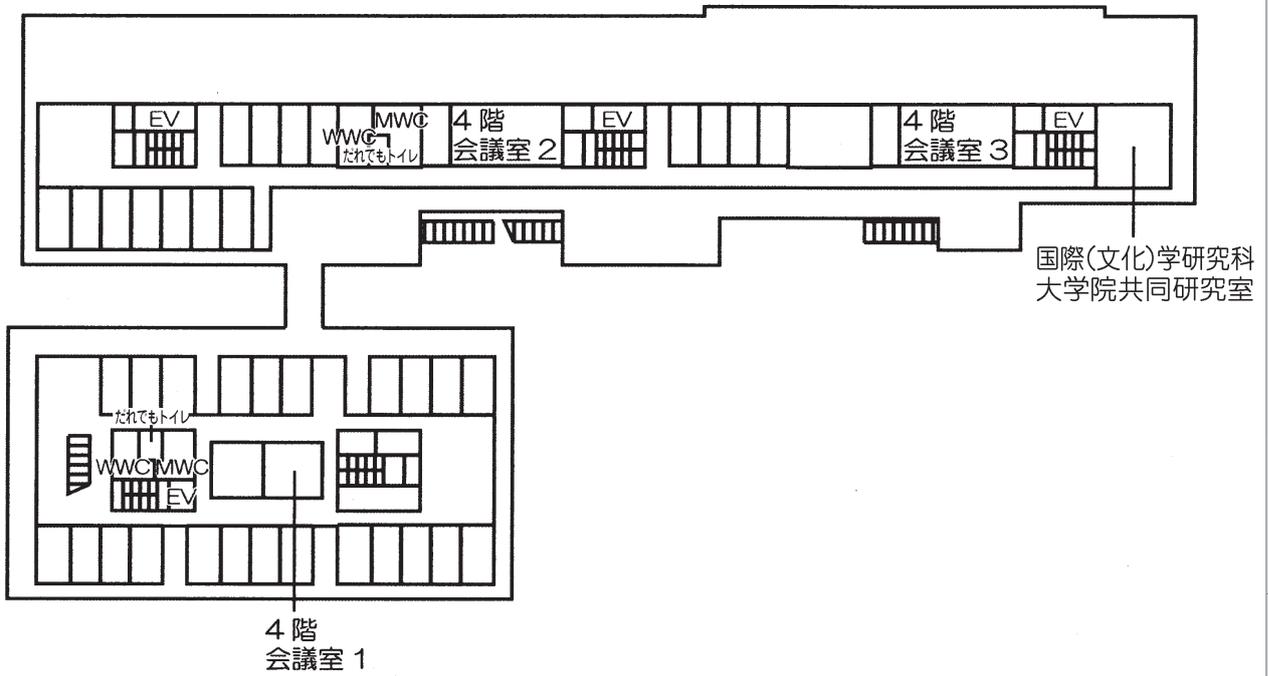


3 階

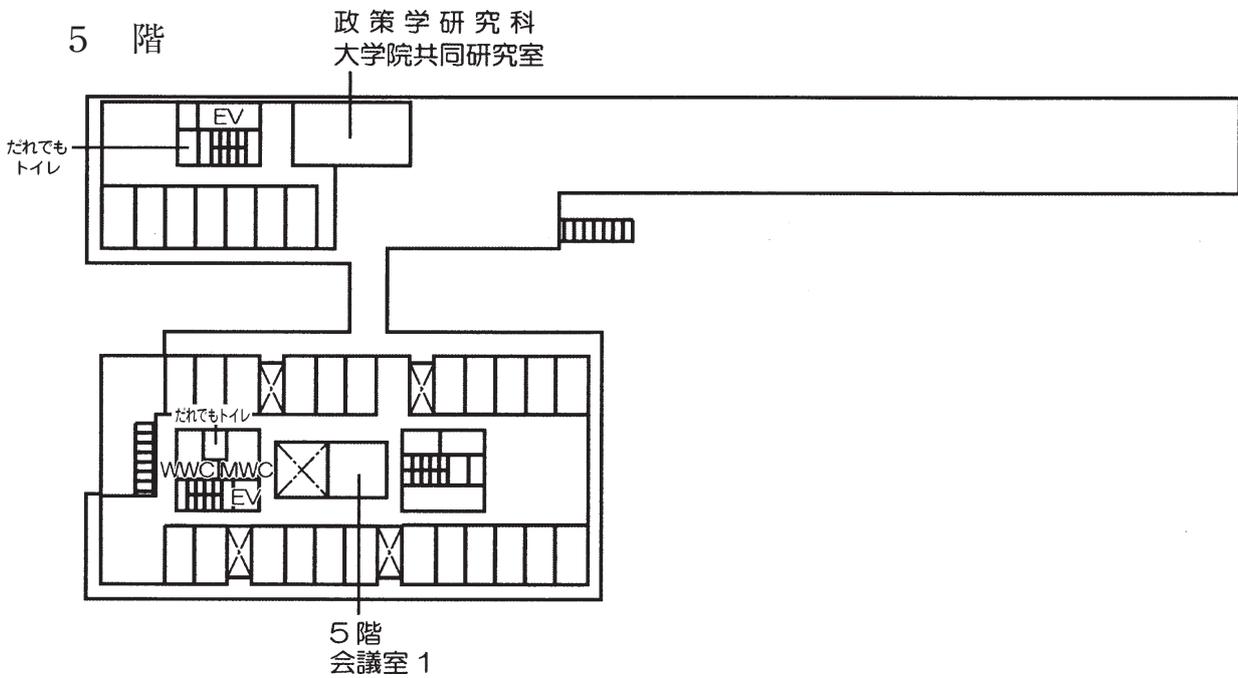




4 階



5 階

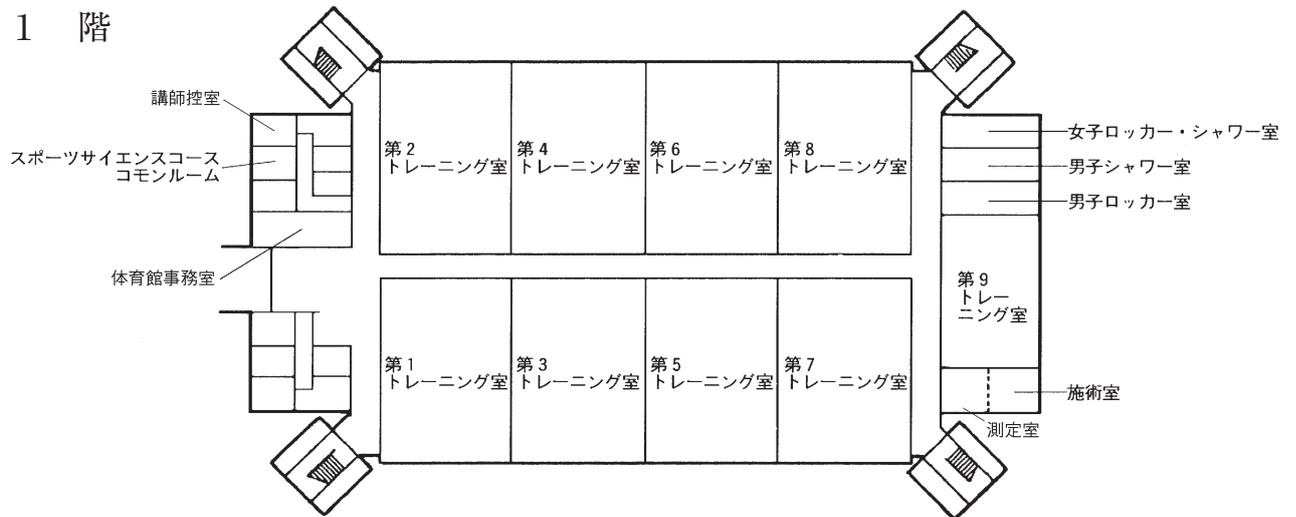


| |
|-------------------------|
| 履修をはじめるにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編成方法の教育課程 |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口事務係様へ！ 障がい学生支援について |
| 授業休止の取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

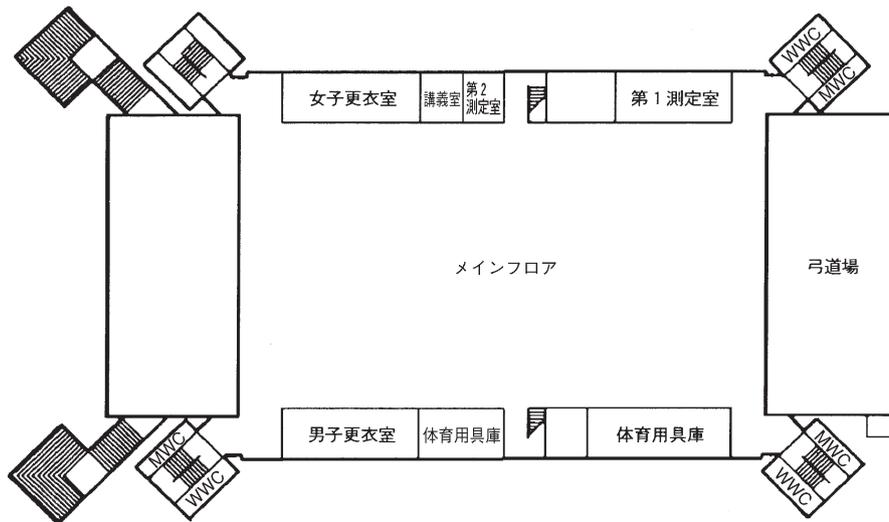


〈深草学舎〉 12 号 館 (体育館)

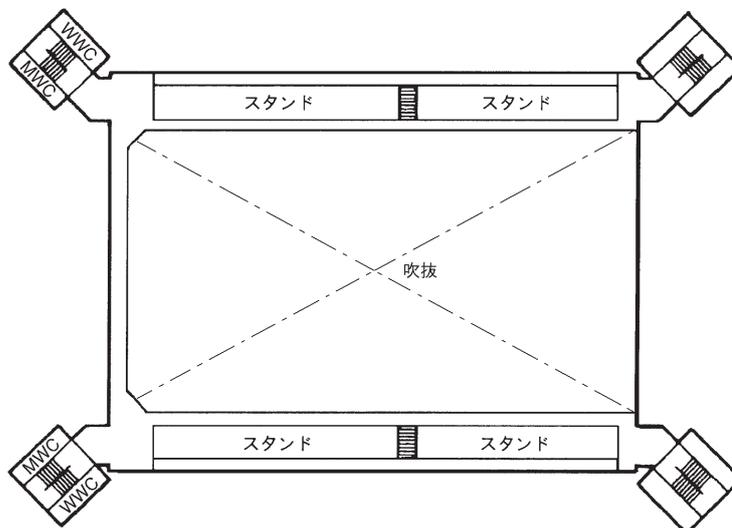
1 階



2 階



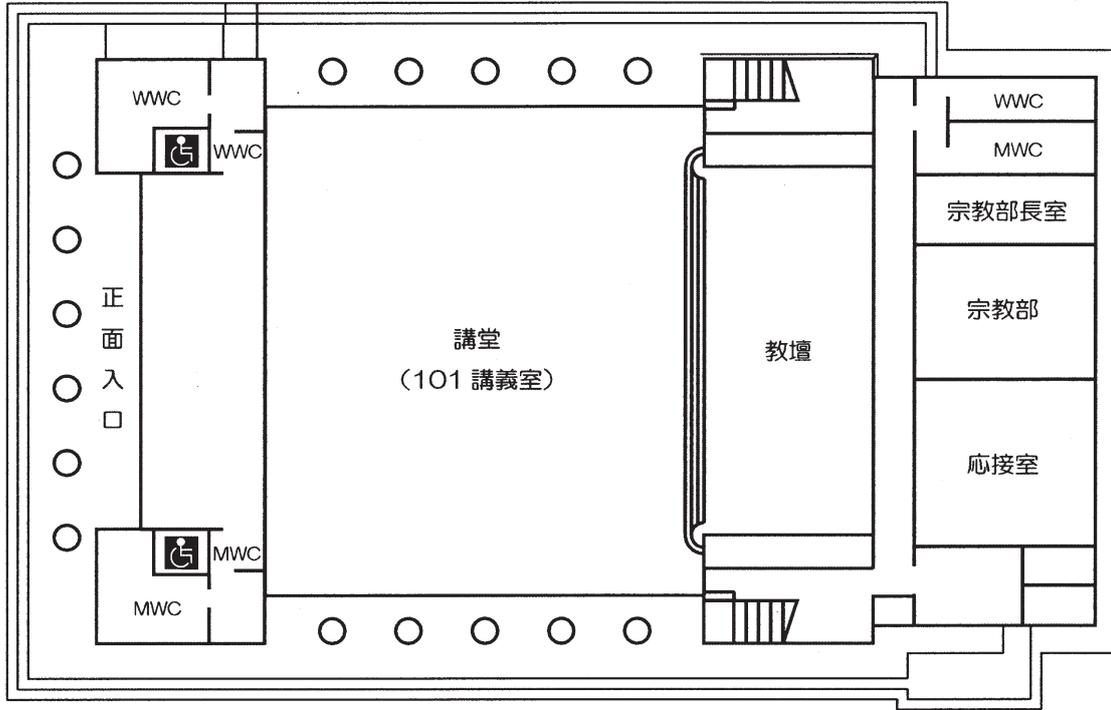
3 階



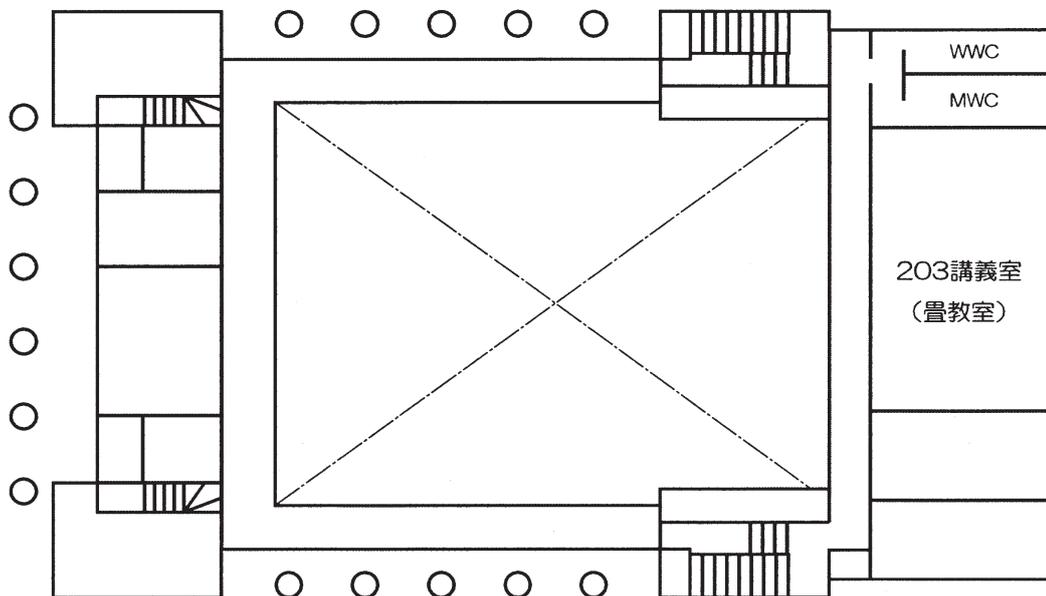


〈深草学舎〉 顕真館

1 階



2 階

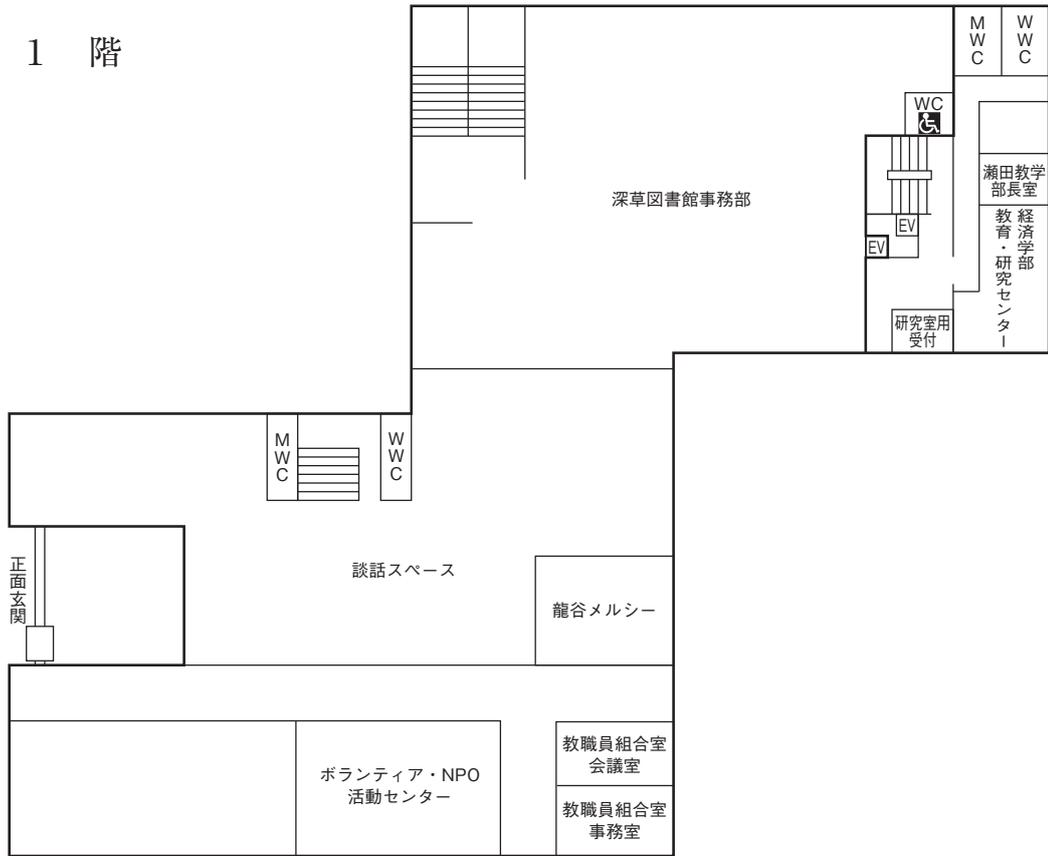


| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|------|-------|----------------|------|------|------|---------------|-----|-----|------------------------|----------|-----------------|---------|
| 履修をはじめ るにあたって | シラバス | 履修の心得 | 単位制度と 単位の認定 | 履修登録 | 成績評価 | 教育課程 | 編成方法 教育課程の | 諸課程 | その他 | 窓口事務係様へ 障がい学生支援について | 学修生活の手引き | 授業休止の 取り扱い基準 | 学籍の取り扱い |
| 付録 | | | | | | | | | | | | | |

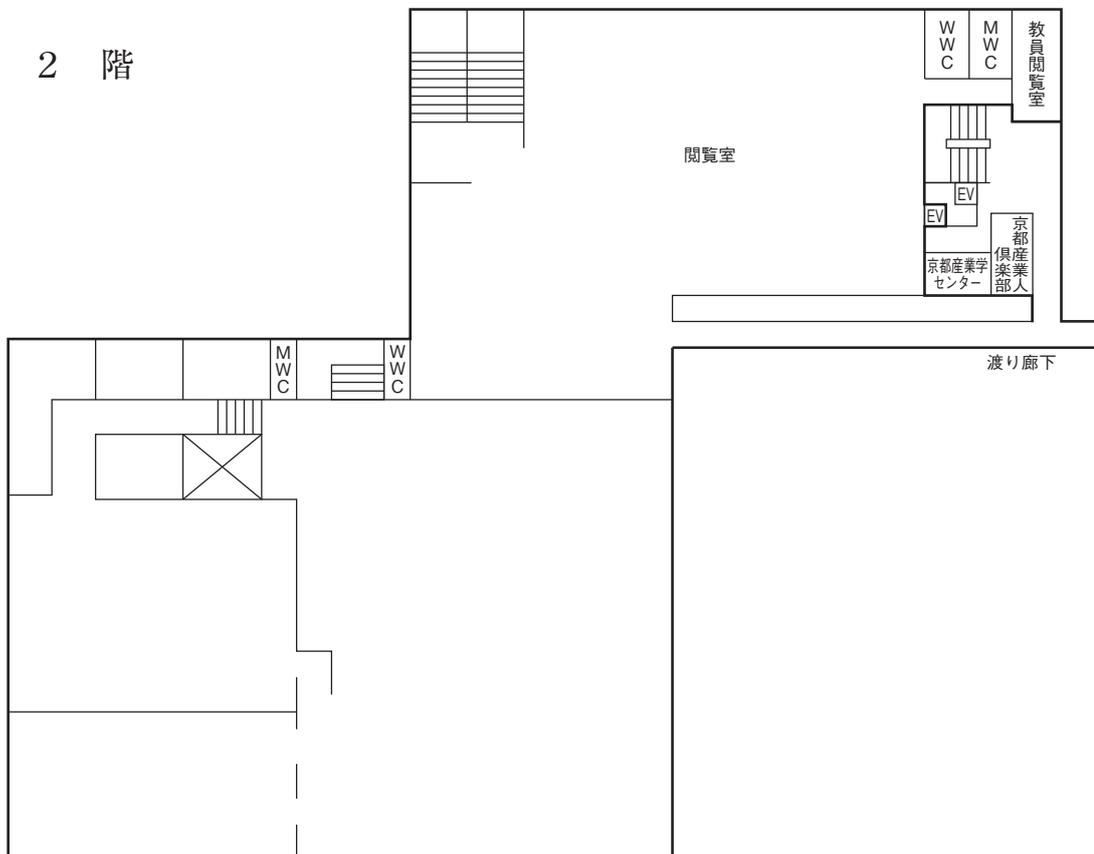


〈深草学舎〉 7 号 館・8 号 館

1 階



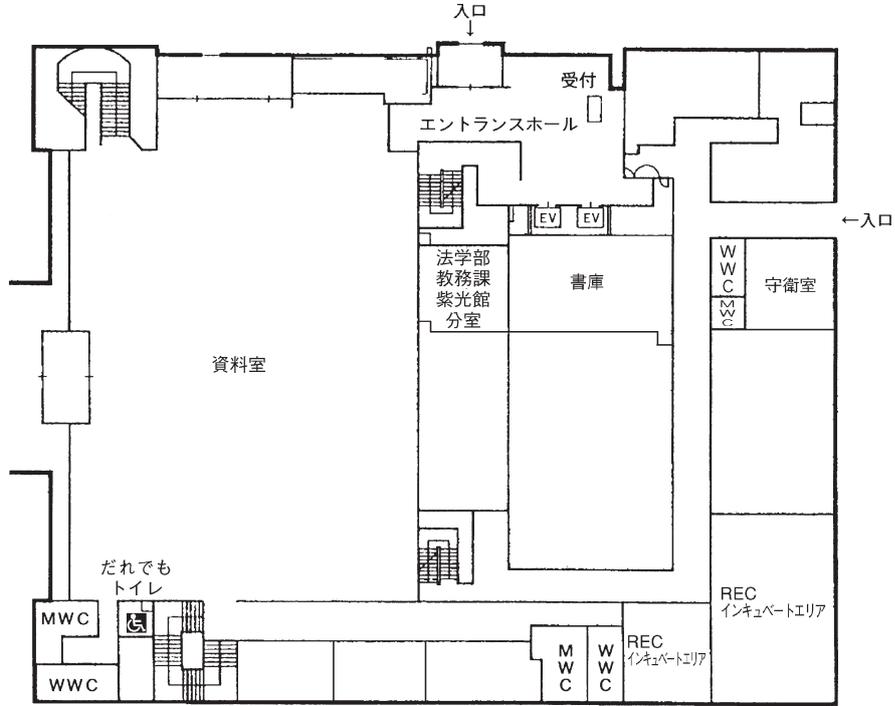
2 階



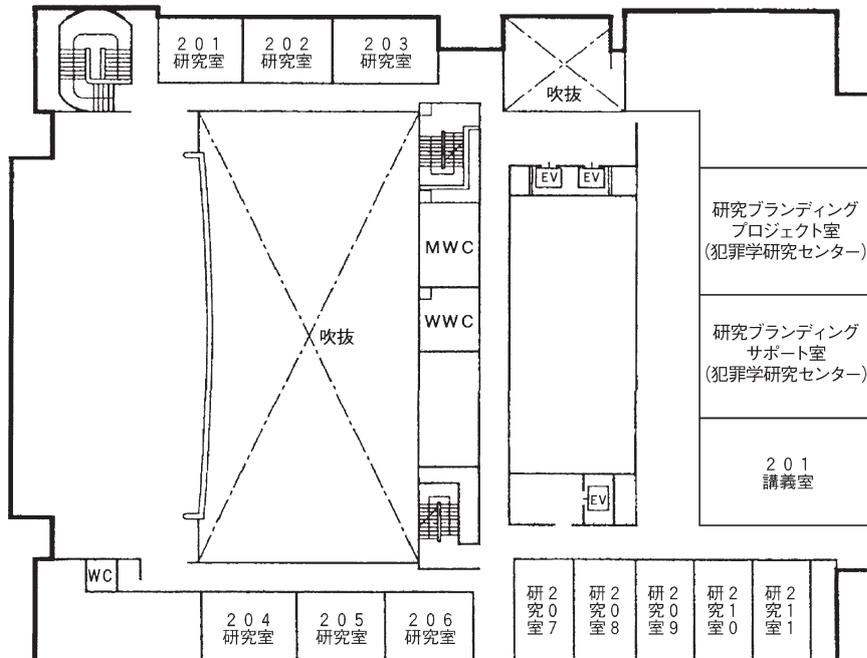


〈深草学舎〉 紫光館

1 階



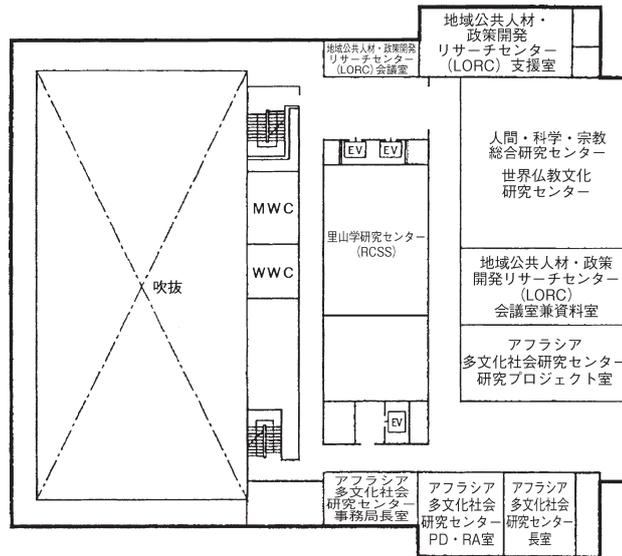
2 階



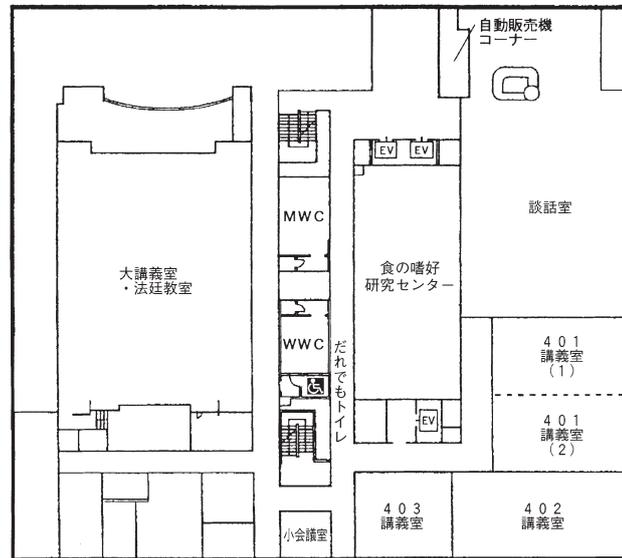
| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|------|-------|----------------|------|------|------|---------------|-----|-----|----------|----------------------------------|-----------------|-------------|
| 履修をはじめ るにあたって | シラバス | 履修の心得 | 単位制度と 単位の認定 | 履修登録 | 成績評価 | 教育課程 | 編成方法 教育課程の | 諸課程 | その他 | 学修生活の手引き | 窓口事務 係健闘セヨ！ 障がい生支援 について | 授業休止の 取り扱い基準 | 学籍の取り扱 い |
|------------------|------|-------|----------------|------|------|------|---------------|-----|-----|----------|----------------------------------|-----------------|-------------|



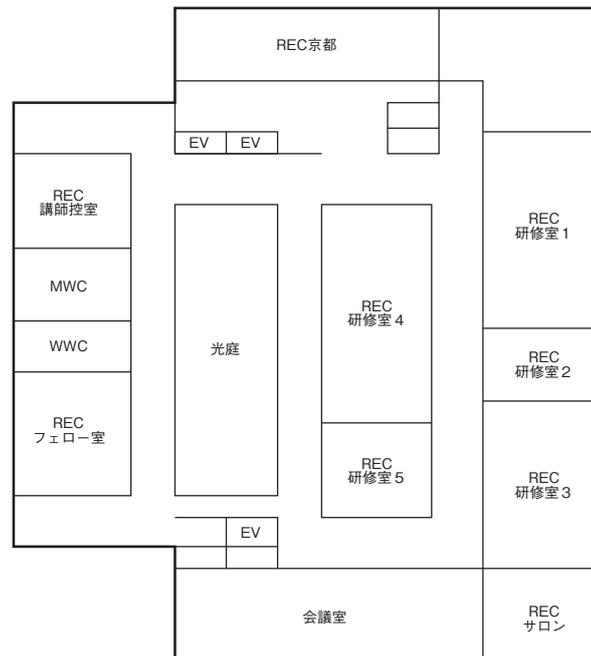
3 階



4 階



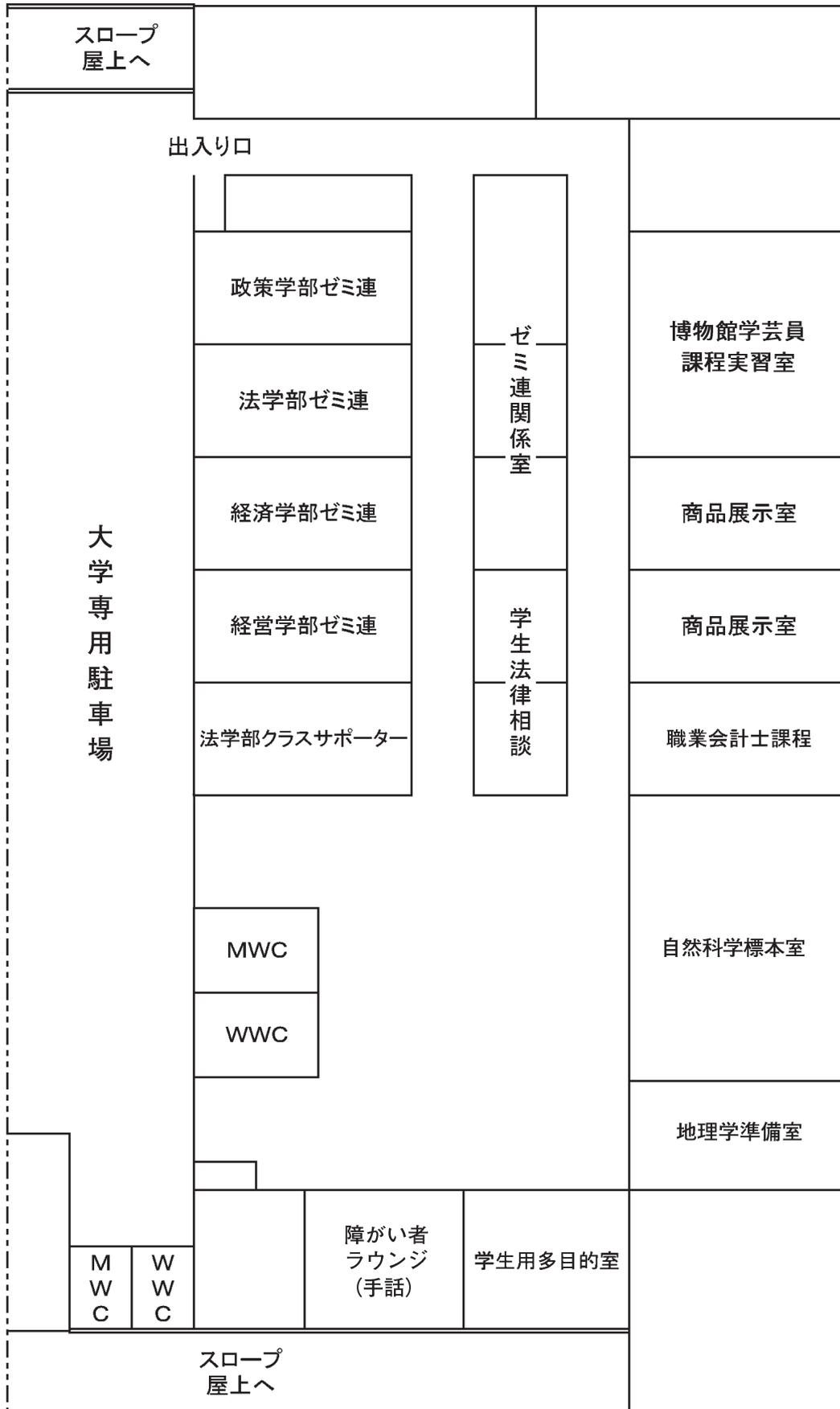
5 階





〈深草学舎〉 紫光館別館

国道
24
号
線

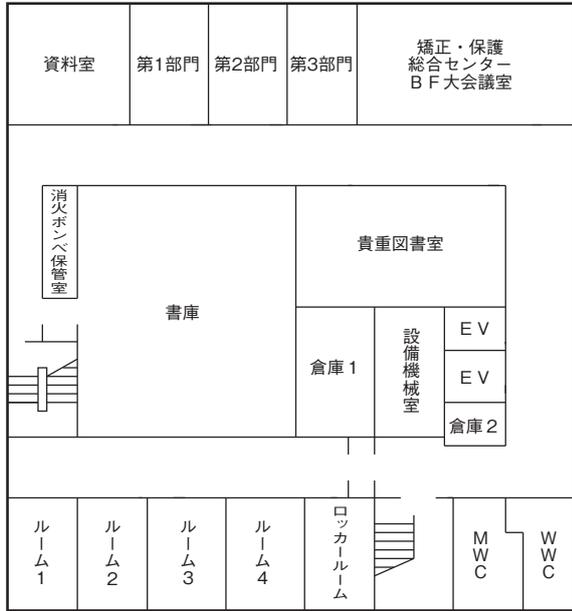


| |
|-----------------------|
| 履修をはじめ るにあたって |
| シラバス |
| 履修の心得 |
| 単位制度と 単位の認定 |
| 履修登録 |
| 成績評価 |
| 教育課程 |
| 編成方法 教育課程の |
| 諸課程 |
| その他 |
| 学修生活の手引き |
| 窓口業務 「障がい学生支援について」 |
| 授業休止の 取り扱い基準 |
| 学籍の取り扱い |
| 付録 |

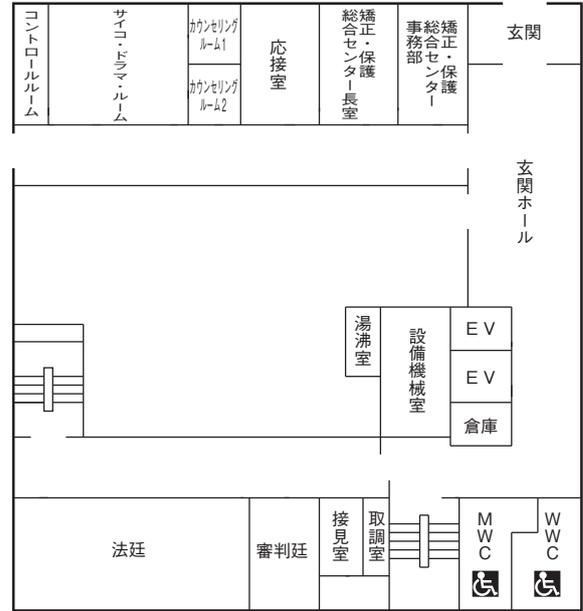


〈深草学舎〉 至心館

地下1階



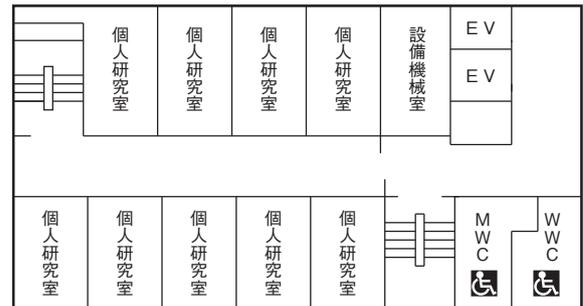
1階



2階



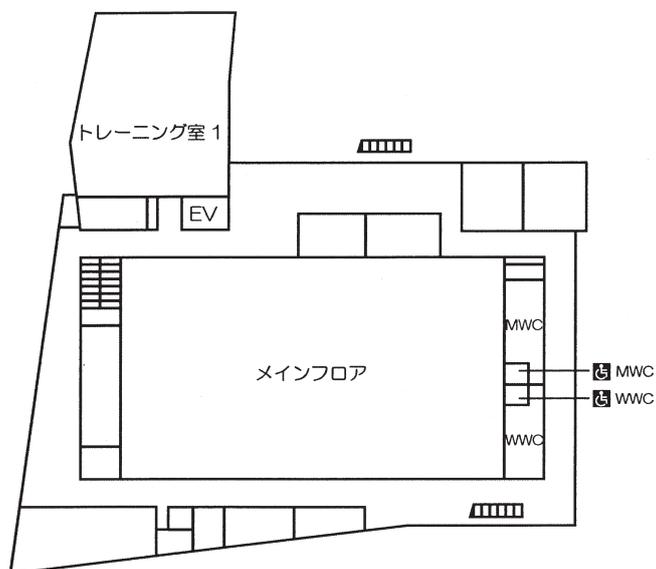
3階・4階・5階



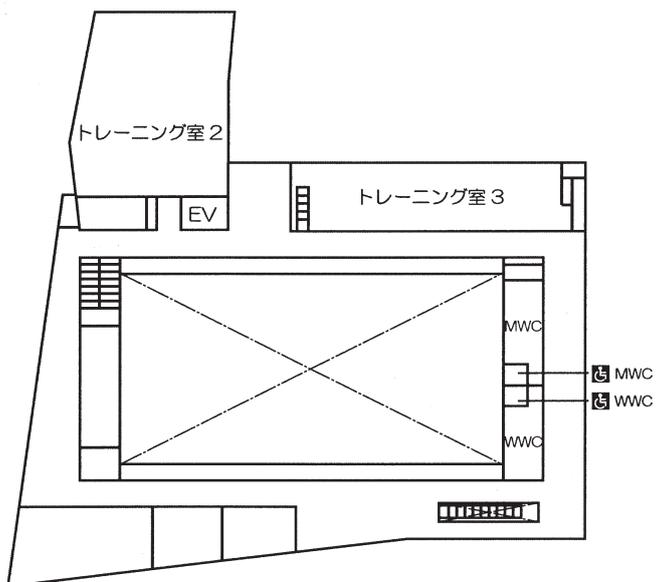


〈深草学舎〉 専 精 館

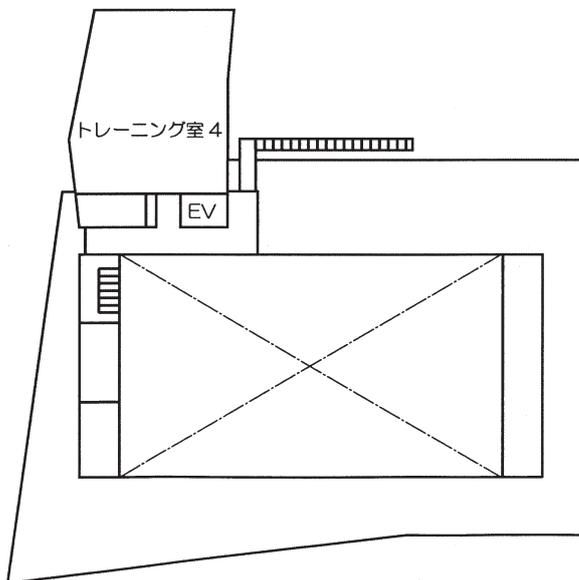
1 階



2 階

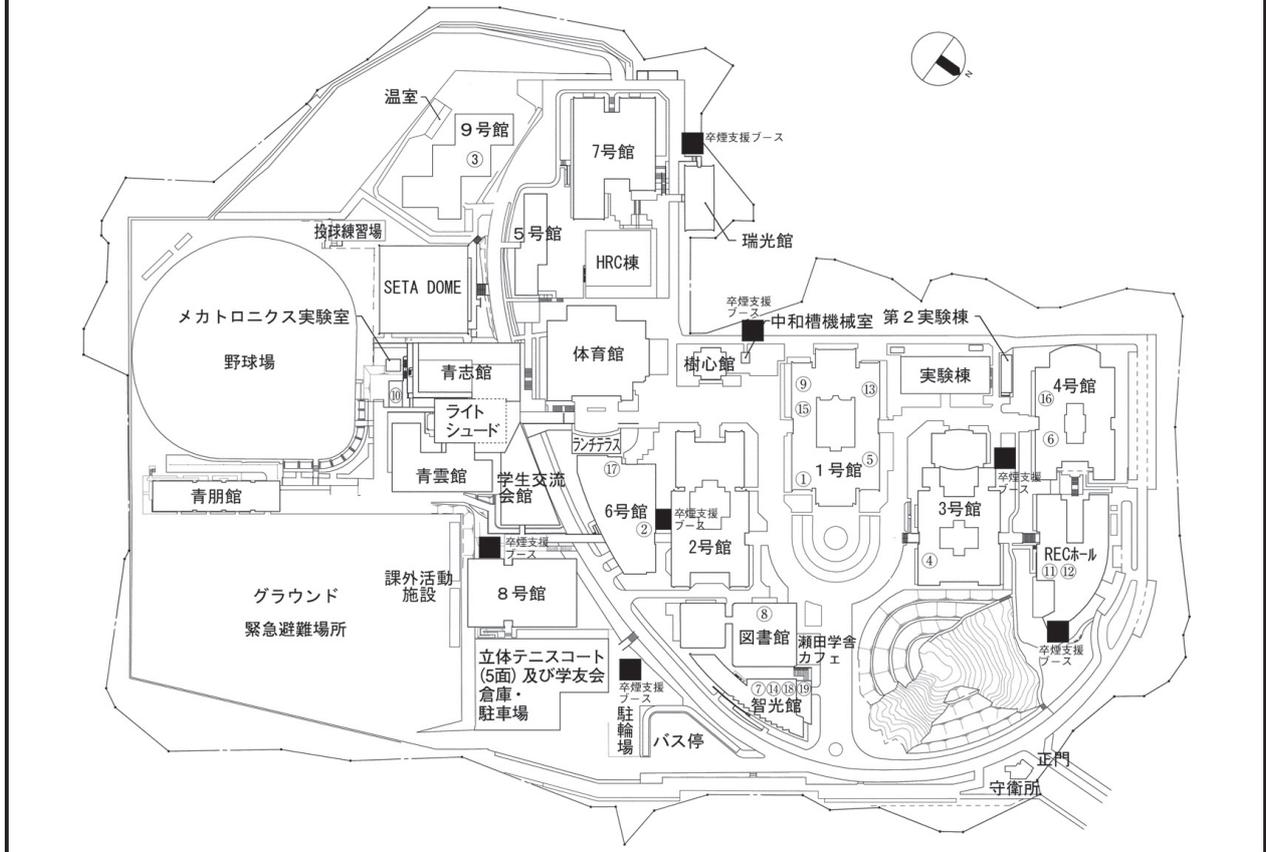


3 階



| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|------|-------|----------------|------|------|------|---------------|-----|-----|----------|----------------------------------|-----------------|-------------|
| 履修をはじめ るにあたって | シラバス | 履修の心得 | 単位制度と 単位の認定 | 履修登録 | 成績評価 | 教育課程 | 編成方法 教育課程の | 諸課程 | その他 | 学修生活の手引き | 窓口事務 係健闘セヨ！ 障がい生支援 について | 授業休止の 取り扱い基準 | 学籍の取り扱 い |
|------------------|------|-------|----------------|------|------|------|---------------|-----|-----|----------|----------------------------------|-----------------|-------------|

【瀬田学舎見取図】



瀬田学舎 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL 077-543-5111 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「077」です。

| | 部署名 | 事例 | ダイヤルイン | FAX |
|---|-------------------------------------|--|----------|--------------|
| ① | 理工学部教務課 | 理工学部の科目に関する事 | 543-7730 | 543-7749 |
| ② | 社会学部教務課 | 社会学部の科目に関する事 | 543-7760 | 543-7615 |
| ③ | 農学部教務課 | 農学部の科目に関する事 | 599-5601 | 599-5608 |
| ④ | 瀬田教育学部 教養教育センター事務部 教職センター(瀬田) | 瀬田学舎の教養教育科目に関する事。教職に関する事。教室に関する事。教材作成に関する事 | 543-7739 | 543-7674 |
| ⑤ | 講師控室 | 大学からの通知・連絡 | 543-7770 | - |
| ⑥ | 学生部(瀬田) | 学生生活に関する事 | 543-7734 | 543-7889 |
| ⑦ | 情報メディアセンター(瀬田) (メディア教材作成室) | 情報処理実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事 | 544-7287 | 544-7289 |
| ⑧ | 瀬田図書館 (図書館事務部) | 図書館の利用に関する事 | 543-7751 | 543-7769 |
| ⑨ | 研究部(瀬田) | 各種研究支援に関する事 | 543-7741 | 544-7195 |
| ⑩ | ボランティア ・NPO活動センター事務部(瀬田) | 教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事 | 544-7252 | 544-7261 |
| ⑪ | REC事務部(瀬田) | 地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事 | 543-7743 | 543-7771 |
| ⑫ | 知的財産センター事務部 | 知的財産に関する事 | 544-7270 | 544-7263 |
| ⑬ | キャリアセンター(瀬田) | 学生の就職支援及びキャリア開発に関する事 | 543-7735 | 543-7780 |
| ⑭ | グローバル教育推進センター(瀬田) | 留学・国際交流に関する事 | 543-7672 | 544-7251 |
| ⑮ | 瀬田事務部 | 瀬田学舎全般に関する事 | 543-7709 | 543-7729 |
| ⑯ | 保健管理センター(瀬田) | 診察、健康診断、健康相談に関する事 | 543-7781 | 543-7783 |
| ⑰ | 障がい学生支援室 | 障がい学生支援に関する事 | 544-7216 | 543-7236(予定) |
| ⑱ | 生活協同組合 | 購買(文具、チケット等) | 544-4111 | 544-4114 |
| ⑲ | 丸善 | 購買(書籍) | 543-7777 | 543-5135 |



大宮学舎 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
TEL 075-343-3311 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「075」です。

| 部 署 名 | 事 例 | ダイヤルイン | FAX |
|----------------------|--------------------------|------------------|----------|
| ① 文学部教務課 | 文学部の科目に関する事 教材作成に関する事 | 343-3317 | 343-4302 |
| ② 講師控室 | 大学からの通知・連絡 | 343-3311 (代表) | 343-3319 |
| ③ 図書館事務部 (大宮図書館) | 図書館の利用に関する事 | 343-3318 | 343-3345 |
| ④ キャリアセンター (大宮) | 学生の就職支援及びキャリア開発に関する事 | 343-3484 | 343-3485 |
| ⑤ 保健管理センター | 診察、健康診断、健康相談に関する事 | 343-3322 | 343-3490 |
| ⑥ 生活協同組合 | 購買 (書籍、文具、チケット等) | 352-3981 | 343-6428 |
| ⑦ 情報メディアセンター (大宮) | 情報実習室、メディア機器の利用に関する事 | 366-0612 | 366-0613 |
| ⑧ 世界仏教研究センター 事務部 | | 343-3458 | 343-4022 |
| ⑨ 龍谷ミュージアム事務部 | | 351-2500 | 351-2577 |

履修をはじめ
るにあたって

シラバス

履修の心得

単位制度と
単位の認定

履修登録

成績評価

教育課程

編成方法の
教育課程

諸課程

その他

窓口業務係様へ
お問い合わせ

学修生活の手引き

授業休止の
取り扱い基準

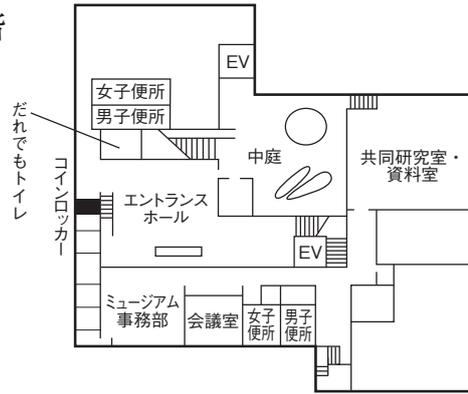
学籍の取り扱い

付録

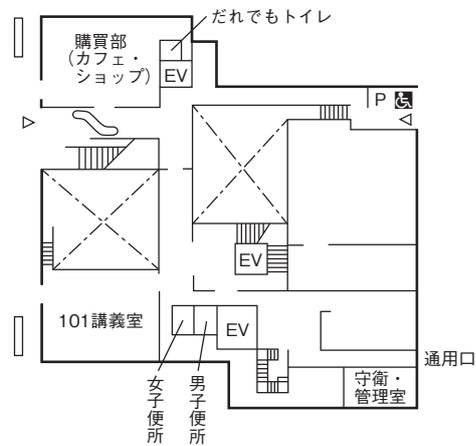


〈大宮学舎〉 龍谷ミュージアム

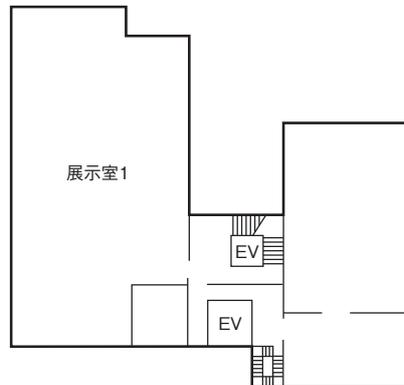
地下1階



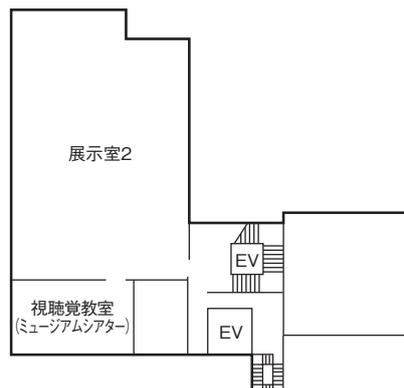
1 階



2 階



3 階



受 講 届 控

| 曜日 | 講時 | 1 (9:00 ~ 10:30) | | 2 (10:45 ~ 12:15) | | 3 (13:15 ~ 14:45) | | 4 (15:00 ~ 16:30) | | 5 (16:45 ~ 18:15) | | |
|------|-------|------------------|-----|-------------------|-------|-------------------|----|-------------------|-----|-------------------|-------|-----|
| | | 授業科目名 | 担当者 | 教室 | 授業科目名 | 担当者 | 教室 | 授業科目名 | 担当者 | 教室 | 授業科目名 | 担当者 |
| 月 | 通年・前期 | | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | | |
| 火 | 通年・前期 | | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | | |
| 水 | 通年・前期 | | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | | |
| 木 | 通年・前期 | | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | | |
| 金 | 通年・前期 | | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | | |
| 土 | 通年・前期 | | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | | |
| 集中講義 | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|----------|------------------|---------|-----------------------|------|---------------|
| 履修の心得 | 履修をはじめ るにあたって | シラバス | 単位制度と 単位の認定 | 履修登録 | 成績評価 |
| | 教育課程 | | 教育課程の 編成方法 | 諸課程 | その他 |
| 学籍生活の手引き | 取り扱い基準 | 学籍の取り扱い | 窓口事務係様へ お問い合わせください | | 授業休止の 取り扱い |
| 付録 | | | | | |

受 講 届 控

| 曜日 | 講時 | 1 (9:00 ~ 10:30) | | 2 (10:45 ~ 12:15) | | 3 (13:15 ~ 14:45) | | 4 (15:00 ~ 16:30) | | 5 (16:45 ~ 18:15) | |
|------|-------|------------------|-----|-------------------|-----|-------------------|-----|-------------------|-----|-------------------|-----|
| | | 授業科目名 | 担当者 | 授業科目名 | 担当者 | 授業科目名 | 担当者 | 授業科目名 | 担当者 | 授業科目名 | 担当者 |
| 月 | 通年・前期 | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | |
| 火 | 通年・前期 | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | |
| 水 | 通年・前期 | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | |
| 木 | 通年・前期 | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | |
| 金 | 通年・前期 | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | |
| 土 | 通年・前期 | | | | | | | | | | |
| | 後期 | | | | | | | | | | |
| 集中講義 | | | | | | | | | | | |

編集発行 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
龍谷大学短期大学部教務課
Tel 075-645-7897
Fax 075-645-2825
URL <http://www.ryukoku.ac.jp/>
印刷 双林株式会社

